



TAISHO  
UNIVERSITY



TAISHO UNIVERSITY

Curriculum Guide  
2016

大正大学履修要項 2016



学籍番号	_____	_____	_____	_____	_____	_____
氏名						

大正大学

仏教学部・人間学部・心理社会学部・文学部・表現学部

大正大学履修要項 2016

## 履修要項2016

■ガイダンス	2	■第Ⅱ類科目[仏教学部]	27
ガイダンスの種類／ コミュニケーション・ガイダンス／T-Po掲示		●仏教学科	27 - 37
■授業科目	3	■第Ⅱ類科目[人間学部]	39
授業科目の構成／授業科目の種類		●社会福祉学科	40 - 43
■4年間の学びの流れ	4 - 5	●人間環境学科	44 - 47
■授業	6 - 9	●教育人間学科	48 - 52
セメスター／授業時間／単位について／単位の認定 制限単位／単位認定の時期／休講・補講／欠席について 欠席事由証明について／緊急時における授業の取り扱い			
■履修登録	10	■第Ⅱ類科目[心理社会学部]	53
履修登録の方法／履修登録の注意事項／履修科目の修正		●人間科学科	54 - 56
■試験	11 - 12	●臨床心理学科	57 - 59
定期試験のシステムと成績通知表交付／ 試験日の変更／試験の心得／不正行為／ レポート提出について			
■評価	13 - 14	■第Ⅱ類科目[文学部]	61 - 76
G P A(学業平均値)制度について／ 成績評価基準について アベレージの評価法／評価への疑問等		●人文学科	63 - 67
■進級／転学部・転学科・転コース	15	●日本文学科	68 - 70
履修パターン／転学部・転学科・転コース		●歴史学科	71 - 76
■卒業／卒業論文	16	■第Ⅱ類科目[表現学部]	77
卒業論文・卒業研究登録資格／卒業・学位授与／ 卒業の要件／卒業論文の体裁／注意事項		●表現文化学科	78 - 86
■第Ⅰ類科目	17 - 26	■第Ⅱ類科目関連分野科目について	87
学びの窓口(文化・社会・自然・地域) 学びの技法(基礎科目・展開科目・留学生科目) 第Ⅰ類科目学則別表			
■資格の登録	97	■第Ⅲ類科目	89 - 96
諸資格の登録および登録料		第Ⅲ類科目の履修方法／ 教職・資格に関する科目／資格の種類 社会・地域貢献に関する科目 キャリア育成支援に関する科目 自己研鑽に関する科目 第Ⅲ類科目学則別表	
■FAQ	98 - 101	■資格の登録	97
■大正大学履修規程	104 - 108	■F A Q	98 - 101
■大正大学試験規程[抜粋]	109	■大正大学履修規程	104 - 108
■大正大学学則[抜粋]	109	■大正大学試験規程[抜粋]	109
あとがきに代えて	110	■大正大学学則[抜粋]	109
建学のことばより 初代学長 澤柳政太郎			

## 読むガイダンス

## 履修要項

「履修要項2016」は2016年度入学生を対象としたものです。  
卒業するまで使用しますので、大切に保管してください。

大正大学ポータルシステム【T-Po】  
<https://t-po.tais.ac.jp/>

大正大学ポータルシステム【T-Po】は、インターネットが使える環境があれば、自宅や学内のパソコン教室などから時間と場所を問わず各種サービスを利用することができるWebの仕組みを利用したシステムです。

休講情報や履修に関する事項、時間割の変更等、学生に対する伝達事項がT-Poに掲示情報としてアップされます。こまめにT-Poを確認するようしてください。

掲示情報を確認しなかったことを理由に、伝達事項に対する責任を免れることはできません。

電話やメールによる問い合わせは受け付けていません。

## ガイダンスについて

ガイダンスとは、学年の始めに、科目の履修方法・登録およびその内容を説明するため実施されるものです。

## ガイダンスの種類

必ず出席してください

- 新入生ガイダンス（所属学科の教員）
  - 第Ⅱ類科目履修のための学科別ガイダンス（所属学科の教員）
  - 教職・諸資格ガイダンス（事務局・担当教員）
- 等があり、事務局が行うものと所属学科の教員が説明するものがあります。ガイダンスを充実したものにするためにも、履修要項等を熟読し、理解しておくことが大切です。
- ガイダンスには必ず出席して、確認漏れのないようにしてください。
- ※ ガイダンスには、送付された資料を必ず持参してください。  
※ ガイダンスの日程は、「ガイダンス資料」を参照してください。

## コミュニケーション・ガイダンス

新1年生は全員出席してください

大学に入学し期待や不安が入り混じるなか、より充実した学生生活を送るために、学科の先生や学生同士で、コミュニケーションをはかることを主眼としています。

## T-Po掲示

毎日確認してください

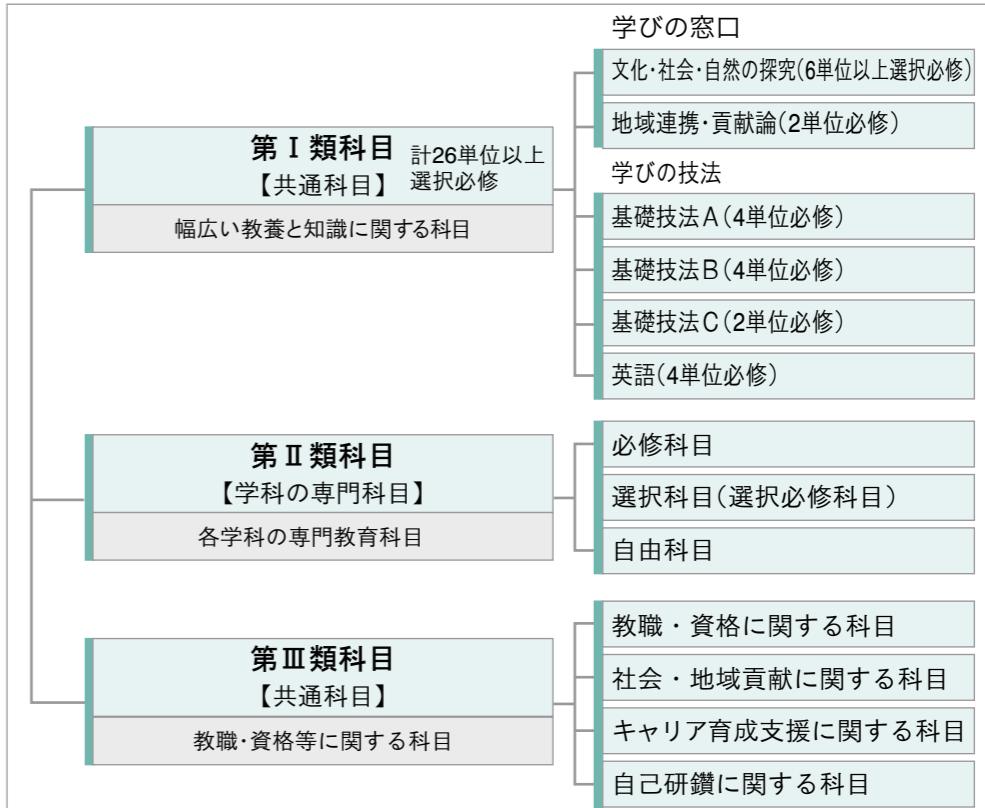
休講情報や履修に関する事項、時間割の変更等、学生に対する伝達事項はT-Poに掲示情報としてアップされます。  
こまめにT-Poを確認するようにしてください。  
掲示情報を確認しなかったことを理由に、伝達事項に対する責任を免れることはできません。  
電話やメールによる問い合わせは受け付けていません。  
なおT-PoのID、パスワードについては教育開発推進センターへお問い合わせください。

## 授業科目

## 授業科目の構成

## 授業科目の構成・種類

※ シラバスはT-Po上で公開しています。  
<https://t-po.tais.ac.jp/>



## 授業科目の種類

必修科目	卒業までに必ず履修(単位修得)しなければならない科目
選択科目 (選択必修科目)	指定された科目の中から選択し、所定の単位数を履修(単位修得)しなければならない科目(選択必修科目含む)
自由科目	開設された科目の中から自由に選択し、履修できるが卒業単位に含まない科目(必ずしも履修しなくてよい)
先修制科目	決められた順序で、順次履修する科目
通年科目	春学期、秋学期を通して1年間履修する科目 (春学期に登録し、秋学期(3月)に成績評価され、単位が認定される)
セメスター科目	春学期または秋学期の半年間、週2回、または同一曜日に2時限続けて授業を行う科目
集中講義科目	指定された期間に、集中的に授業を行う科目

※ 1つの科目は原則としてそのセメスターで完結します。すなわち、1単位、2単位の科目は週1回90分の授業を15週で完結し、単位試験等に合格すると所定の単位が認定されます。また、4単位の科目は週2回または2時限連続実施し、15週で完結します。週2回、2時限連続の科目は、その両方を受講しなければ単位は認定されません。

## 4年間の 学びの流れ

### 学びの流れ

		1年		2年		3年		4年			
		1セメスター(春)	2セメスター(秋)	3セメスター(春)	4セメスター(秋)	5セメスター(春)	6セメスター(秋)	7セメスター(春)	8セメスター(秋)		
第Ⅰ類科目 <small>幅広い教養と知識に関する科目</small>	学びの窓口	地域連携・貢献論および文化・社会・自然								P17	
	学びの技法 基礎	基礎技法A		基礎技法B		基礎技法C		英語1・2・3・4			
	学びの技法 展開	目的に応じて自由に選択し、履修すること									
第Ⅱ類科目 <small>各学科の専門教育科目</small>	基礎ゼミナール	基礎ゼミナール(I) ※	基礎ゼミナール(II) ※	基礎ゼミナール(III) ※	基礎ゼミナール(IV) ※					P27	
	学科基礎分野	(学科の学則別表等参照)									
	専門ゼミナール・専門研究等										
	卒業論文・卒業研究										
第Ⅲ類科目 <small>教職・資格等に関する科目</small>	教職・資格関連	教職 社会教育主事 学芸員 司書・司書教諭 日本語教員 社会福祉主事 児童指導員								P89	
	社会・地域貢献	豊島学、サービスラーニングなど									
	キャリア育成支援	キャリア育成特設講座、インターンシップなど									
	自己研鑽	フィールドワーク、ボランティア、仏教研修、仏教フィールドワークなど									

● セメスターについての説明は6頁を参照のこと。

※ 印の科目の履修については、学科の指示にしたがうこと。

## 授業

### 授業について

科目的履修方法は、すべて学則に定められています。学生のみなさんは、学則に基づいた共通科目（第Ⅰ類科目・第Ⅲ類科目）、学部・学科の専門科目（第Ⅱ類科目）の履修計画を立て、卒業に必要な単位を修得しなければなりません。

#### セメスター

##### 1年間の学修期間を2つの学期に区分する方法です

1年の前半（1、3、5、7セメスター）を「春学期」、後半（2、4、6、8セメスター）を「秋学期」と呼びます。

※ 年間日程については、「ガイダンス資料」を確認してください。

#### 授業時間

##### 授業時間について

1回の授業時間は原則として90分を基準としています。春学期・秋学期の授業時間帯は以下のとおりです（集中講義の授業日程は、別途お知らせします。）。

##### 春学期・秋学期の授業時間帯

1時限	9:10~10:40
2時限	10:50~12:20
お昼休み	12:20~13:10
3時限	13:10~14:40
4時限	14:50~16:20
5時限	16:30~18:00
6時限	18:15~19:45

※ 授業は、原則として1時限から5時限の間で開講します。

※ 6時限は教職・資格に関する科目、授業回数不足分の補講、その他の科目を開講することがあります。

#### 単位について

##### 科目によって単位数が異なります

授業科目的単位数は、すべて学則に定められています。単位とは、授業科目的学習のための時間量のことです。この単位の算出方法は、その授業の種類・形態によって異なり、教室での授業の他に、教室外での事前・事後学習の時間も含めて成り立っています。（1単位の基準は45時間の学修を必要とすることが前提となります。）

本学の場合、原則として以下の授業時間数をもってそれぞれの単位が認定されます。

- (a) 講義実習
  - ① 毎週2回(90分授業×2)×15週→4単位認定
  - ② 每週1回(90分授業) ×15週→2単位認定
- (b) 実験実習・実技・外国語
  - ① 毎週1回(90分授業) ×15週→1単位認定

#### 単位の認定

##### 単位認定の第一条件は履修登録です

科目を履修し、以下の条件を満たせば所定の単位が認定されます。

- (a) 履修登録履修確認が行われていること。
- (b) 授業を行った回数のうち最低3分の2以上出席していること。
- (c) ②科目的学習の評価(試験・レポート・平常点)が合格点に達していること。

#### 制限単位

学生のみなさんが無理なく単位を修得することができるよう、各学年・セメスターごとに履修できる単位数に上限を定めています。その対象となる履修科目は第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目とします。

なお、1週間の平均受講科目は10科目（1科目を2単位とした場合）になります。4年間で計画的に履修してください。

##### 学年別制限単位数

学年	1年次	2年次	3年次	4年次				
セメスター	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
制限単位 (第Ⅰ類・ 第Ⅱ類・ 第Ⅱ類学部共通)	24	24	24	24	24	24	24	24

##### 制限単位の計算方法

- (a) 通年科目的単位数は、春学期・秋学期に等分して計算してください。  
例えば、通年4単位科目の場合、春学期2単位、秋学期2単位として計算してください。
- (b) 通年、春学期、秋学期に開講される集中講義は、当該開講学期に計上してください。
- (c) 第Ⅲ類科目は、制限単位の対象外とします。
- (d) 夏期休業期間中の開講科目は秋学期の制限単位に含めてください。

#### 単位認定の時期

##### 春学期開講科目→9月15日

##### 通年・集中講義期間・秋学期開講科目→3月15日

#### 休講・補講

休講情報は「T-Poの休講情報一覧」で確認してください。  
補講情報は「T-Poの補講情報一覧」で確認してください。

▼スマートフォン専用



※ 授業担当教員が公務・病気等で授業ができなくなった場合は、休講となります。  
休講は担当教員から連絡がありしだい、T-Po・休講情報にアップします。  
ただし、担当教員から教務課へ届出がなかった場合は、掲載されません。  
また、急病等事前に告知できないときは、授業当日の掲載になる場合があります。  
なお、休講等に関する電話での問い合わせは受け付けておりません。  
※ 諸般の事情により休講が重なり、授業が予定どおりに進行できなくなった場合は、  
授業開講期間の土曜日や休講の翌週等の授業日の6時間に補講が行われることがあります。いずれの場合も、T-Poで確認してください。

<https://t-po.tais.ac.jp/> (パソコン専用)

<https://t-po.tais.ac.jp/s/> (スマートフォン専用)

## 緊急時における授業の取り扱い

### 交通機関が運行中止となった場合

交通機関のストライキ等により公共交通機関が運行を中止した場合の授業(試験を含む)の取り扱いは次のとおりとします。

- ① 首都圏JR
  - ② 首都圏大手私鉄各社
  - ③ 東京メトロ
  - ④ 都営地下鉄
- 〈路線バスは除きます〉

①・②・③・④のうち3社以上が全面的に運行中止の場合

- 午前6時現在において運行が再開されていない場合 → 1・2限休講
- 午前10時現在において運行が再開されていない場合 → 3・4限休講
- 午後2時現在において運行が再開されていない場合 → 5・6・7限休講

### 個別交通機関の遅延および不通の場合

遅延証明書または、不通証明書の交付を駅で受けてください。 \*ただし、路線バスは除きます。

※交通機関の遅れが事前に予測される場合は、早めに家を出るなどの自衛手段をとってください。特に路線バスは、少しの気象状況の変化で大幅な遅れが出る場合があります。一般的に、バス会社は遅延証明書などの証明書類の発行を行いません。  
なお、取り扱いについて不明な場合は、直接教務課窓口へお問い合わせください(午前9時以降)。

## 欠席について

単位認定を受けるには、授業に毎回出席することが原則です。授業出席回数が3分の2に満たない場合は、規定により試験を受けることができません。  
(大正大学履修規程第17条)

## 欠席事由証明について

欠席回数が成績評価に関係する場合があることから、以下に掲げる事由による欠席については、大学がその事由を証明することができます。ただし、その取り扱いについては、担当教員にゆだねられているので、担当教員の指示にしたがってください。

内 容	担当部署
各種資格課程の学外学習および修業に関する各宗派加行・研修	教務部
担当教員が引率・指導する大学公認の学外学習、調査、見学、実習および研修旅行	
忌引き等(大学で定めた日数)	
大学が認めた課外活動	学生部
骨髄バンク等移植に伴うドナー登録および検査	
学校保健安全法で定められている感染症による出席停止	
裁判員制度で裁判員として出廷する場合	

それぞれの事由について審議のうえ、教務部長、学生部長が証明します。  
証明書は、学生自身が当該授業担当教員に直接提出してください。原則として、欠席の1週間前後を提出期限とします。ただし、試験の欠席については、11頁を参照してください。  
※ 詳細については各担当部署の窓口に相談してください。

## 気象庁により『暴風警報』『大雪警報』が発令された場合

気象庁により『暴風警報』『大雪警報』が東京23区東部もしくは東京23区西部に発令された場合における授業(試験を含む)の取り扱いは次のとおりとします。

- 午前6時の時点で『暴風警報』『大雪警報』が発令中の場合 → 1・2限休講
- 午前10時の時点で『暴風警報』『大雪警報』が発令中の場合 → 3・4限休講
- 午後2時の時点で『暴風警報』『大雪警報』が発令中の場合 → 5・6・7限休講

※授業中に気象条件の悪化が認められた場合は、学内放送・掲示等でお知らせいたしますのでその指示にしたがってください。  
※台風や大雪など、気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合、全学休講の措置を行うことがあります。

### 確認方法について

気象の警報は、気象庁ホームページおよびテレビ、ラジオ等で確認してください。  
休講情報は、T-Poで確認してください。

## 大規模地震の警戒宣言が発令された場合

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予測されるときに、気象庁所管の「地震防災対策強化地域判定会」が招集され、地震発生の恐れが高いか低いかを判定し、状況によって大規模地震対策特別措置法(大震法)に基づく『警戒宣言』が発令されます。

「判定会」が招集された場合の授業(試験を含む)の取り扱いは次のとおりとします。

- 「地震防災対策強化地域判定会」が招集されたことをテレビ・ラジオ等にて確認できた時点で休講とします。

その際には次のように行動してください。

- 通学途中、または帰宅途中のときは、ただちに帰宅するなど適切な行動をとる。
- 在校中のときは、大学からの連絡・指示にしたがう。

午前6時現在において警戒宣言解除および判定会が解散されていない場合 → 1・2限休講

午前10時現在において警戒宣言解除および判定会が解散されていない場合 → 3・4・5・6・7限休講

## 履修登録

## 履修登録について

履修登録とは、シラバス・時間割を十分検討したうえで履修計画を立て、そのセメスターに履修しようとする科目をT-Po上から登録する手続きのことです。

## 履修登録の方法

履修登録はT-Poの「履修登録」画面から行います。T-Poにログインするには、IDとパスワードが必要です。  
「T-Po学生向け利用マニュアル」を熟読してください。

## 履修登録の注意事項

- 代理登録……他人の登録を代行することはできません。
- 重複登録……同一時間帯に複数の科目を登録することはできません。
- 二重登録……既に単位を修得した科目を再度履修することはできません。  
同じセメスターで同一科目名のものは、登録することはできません。
- 制限単位超過……定められた制限単位以上の単位数を登録することはできません。
- 履修年次……各科目的年次指定にしたがってください。
- 先修制科目……履修順序の原則は必ず守ってください。

- ※ 抽選登録日・履修登録日については、ガイダンス資料等で確認し、定められた日時に登録を完了してください。
- ※ 登録が完了した際には、必ず時間割の印刷をしてください。履修登録に関する質問がある場合には、印刷した時間割を提示する必要があります。
- ※ 同じ科目名でも、担当教員(クラス)が複数ある場合があります。履修するべきクラスを確認のうえ登録してください。
- ※ 教室の収容定員等の関係で、受講人数を制限する場合があります。
- ※ やむを得ない事情で定められた日時に履修登録ができない場合は、事前に教務課へ届け出してください。届け出のない場合は登録を放棄したものとみなします。
- ※ 大学の規則に反して登録した場合は、登録の全てが無効になります。

## 履修科目の修正

履修科目の追加・削除をしたい場合は、定められた期間にT-Poにて修正登録を行ってください。  
正しく登録できていない(時間割に反映していない)科目は、単位認定されません。  
また、履修する意志のない科目を削除せず、授業に出席しないでいると「Z」評価となり、GPAに直接影響します。

- 以下の場合は、印刷した登録完了時の時間割と学生証を持参のうえ、指定日時に教務課に申し出してください。

- ① 登録完了した科目が時間割に反映されていない場合
  - ② T-Po以外の登録方法で登録をした科目が時間割に反映されていない場合
- ※ 理由なく登録科目の変更・追加・削除はできません。

履修登録はすべて自己の責任において行うものです。  
登録間違いなどがないよう、十分注意してください。

## 試験

## 試験の種類

履修科目的単位は、原則として試験の成績評価によって認定されます。  
試験の種類は、次の4種類となっています。

定期試験	…授業最終週の授業時間内で試験を実施します。
追試験	…やむを得ない理由により定期試験に出席できなかった場合に行います。(所定の手続きがあります。)
臨時試験	…当該科目的担当教員が、授業内容の区切りなどで必要と認めたときに行う場合があります。
再試験	…4年生最終セメスターの科目に限って行う場合があります。

## 定期試験のシステムと成績通知表交付

試験実施科目時間割発表  
(授業最終週の2週間前)

## 受験資格がある者

## 試験

※ 集中講義等の試験は、それぞれの授業の最終日に行います。

## 成績通知表交付

春学期 8月末頃

集中講義期間・秋学期 3月20日すぎ

受験資格がない者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■履修登録をしていない者</li> <li>■学費未納の者</li> <li>■休学および停学中の者</li> <li>■授業出席回数が3分の2に満たない者</li> <li>■学生証のない者&lt;仮学生証の交付を受ければ受験可&gt;</li> </ul>
----------	---

試験欠席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■病欠の場合……………診断書</li> <li>■忌引きの場合(2親等以内)……………証明できるもの</li> <li>■事故・災害の場合……………証明できるもの</li> <li>■その他の正当な理由がある者……………証明できるもの(学内規定による)</li> </ul>
-------	--

教務課への報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>■追試験願に欠席事由を証明する書類を添付して申請(当該科目的試験終了後5日以内(最終日は3日以内)に提出)</li> </ul>
---------	---

追試験受験許可者発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学部長の許可</li> </ul>
------------	---

追試験受験手続き	<ul style="list-style-type: none"> <li>■追試験料 1科目3,000円納入</li> </ul>
----------	---

## 試験日の変更

交通機関のストライキ等による運行中止および台風等災害発生により試験を実施できなかった場合、その試験は原則として各セメスター最終日の翌日に行います。

## 評価

## 試験の心得

- ① 学生証は必ず顔写真が見えるようにして、机上に置いてください。
- ② 学生証を忘れた場合は、事前に学生課窓口で仮学生証の交付を受けてください（有料500円）。
- ③ 試験開始から20分以上遅刻すると受験できません。
- ④ 試験開始後30分までは退室できません。
- ⑤ 答案用紙が配布され、試験監督より指示がありしだい、学籍番号・氏名等所定の事項を記入してから試験を開始してください（試験場から答案用紙を持ち出さないでください）。
- ⑥ 携帯電話等の電源は必ず切ってください。  
また、机上には指示された物以外は置くことはできません。
- ⑦ 試験への持込みは、許可された物以外は一切認めません。  
また、「ノート持込み可」の場合のノートとは自筆のノートのみとし、コピーしたものは一切認めません。

不正行為  
<退場>  
<処分>

試験監督の注意・指示にしたがわない場合は、ただちに試験場から退場させ、その試験は無効とします。不正行為があった場合は、学部長に報告したのち、教授会の議を経て学則第61・62条（謹責、謹慎、停学、退学）により処分されます。

## レポート提出について

レポートの提出は、科目担当教員に直接提出してください。事務局は一切対応いたしません。レポート提出の指示があった場合は、必ず提出方法を確認し、指定期日に遅れないようにしてください。

- ① 郵送の場合：事前に宛先を担当教員に確認し、封筒に「レポート在中」と朱書きして「配達証明付」で送付してください。  
(教務課では、担当教員の住所・電話番号等に関する問い合わせには一切お答えできません。)
- ② 直接提出する場合：事前に提出場所を確認し、指定期間に提出してください。
- ③ T-Poで提出する場合：「T-Po利用マニュアル」を参照の上、提出してください。  
なお、レポートの提出形式は特に定めていないので、担当教員の指示にしたがってください。

## 学業の評価

学業の評価は担当教員が行うものであり、授業への取り組み・試験・レポート等を総合的に勘案して評価されます。成績の評価は、以下のとおりA AからC、およびTを合格、D・Zは不合格とします。

評価	判 定
A A	
A <sup>+</sup>	
A	
A <sup>-</sup>	
B <sup>+</sup>	
B	
B <sup>-</sup>	
C <sup>+</sup>	
C	
D	不格
Z	
T	合格 [AA~Cを除く]

## GPA(学業平均値)制度について

授業科目を履修し、試験に合格すれば、前述のように一定の単位と評価が認定されます。本学では平成11年度からGPA=グレード・ポイント・アベレージ（学業平均値）による学業評価システムを併用しています。

これはアメリカで一般的に採用されているGPAの算出方法を基本としており、日本でこの制度を導入している他大学の基準とほぼ変わらないものとなっています。これによって、今まで同一学科内あるいは同一グループの成績比較しかできなかつたものが、他学部・学科の学生との比較が可能となります。

この制度導入の理由は、学生の学期（セメスター）または学年等、一定期間の履修と学習の状況を掌握することによって、個人別に適切できめ細やかな履修・学習アドバイスを可能とし、成績上位者を表彰する客観的なデータとして利用するためです。

具体的には、それぞれの評価に一定のポイントを設定し、不合格科目を含めて履修科目のアベレージを算出します。その方法は、以下の表のとおりです。

## 成績評価基準について

評価	ポイント	判 定	基 準
A A	4.0点	合 格 (最優秀)	A A 極めて優秀な成績
A <sup>+</sup>	3.5点		
A	3.0点	合 格 (優秀)	A 優秀な成績
A <sup>-</sup>	2.7点		
B <sup>+</sup>	2.4点		
B	2.0点	合 格 (良)	B 受講生の中では平均的な成績
B <sup>-</sup>	1.7点		
C <sup>+</sup>	1.4点		
C	1.0点	合 格 (可)	C 平均より劣るが、合格に値する成績
D	0.0点	不格 (不可)	D 合格に達しない
Z	0.0点	不格 (否)	Z 評価不能
T	—	本学の授業科目における合格判定(上記AA~Cを除く) および他大学等による単位認定	

※ Z評価はレポート未提出者、試験未受験者等を示します。

※ 成績通知表には、評価欄の評語を使用します。また、成績証明書には、判定欄の評語を使用します（成績証明書には、合格科目のみ記載されます）。

## 進級 転学部・転学科 転コース

### アベレージの評価法

前掲の基準で算出されたアベレージの値によって以下のように評価します。

GPA値	総合評価
3.5～4.0	最優秀
3.2～3.4	優
1.6～3.1	良
1.0～1.5	可

※ GPA値：全履修科目を対象とし、小数点第3位以下を切り捨てる（不合格科目、指定期間に修正手続きを行わなかった誤登録科目を含みます）。

※ 履修登録後に、登録科目を取り消したい場合は、当該学期開始3週間以内に所定の手続きを行わなければなりません（詳しい日程についてはガイダンス資料等を参照すること）。登録をしたまま、授業に出席しないでいると「Z」評価となり、GPAに直接影響します。

※ 成績証明書にGPA値を記載します。その場合、原則として本学のGPA制度の基準を明記します。

#### [GPAの算出例]

2単位の科目を3科目履修し、成績が<AA・A-・D>評価の場合のGPAと判定

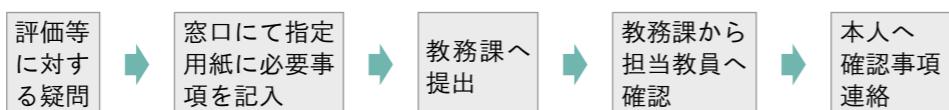
$$GPA = \frac{AA(4.0) \times \text{単位数}(2) + A-(2.7) \times \text{単位数}(2) + D(0) \times \text{単位数}(2)}{\text{登録総単位数}(不合格の科目の単位数も分母に加算)} \\ = \frac{4.0 \times 2 + 2.7 \times 2 + 0 \times 2}{6} = 2.23 \quad \text{【判定:良】}$$

14

### 評価への疑問等

配付された前学期の成績表の評価が、不合格（D）（Z）となっている科目に対して疑問等がある場合は、指定期間に教務課へ確認申請してください。

※ 日程はガイダンス資料を参照してください。



ただし、以下の場合は成績表に関する疑義および質問を一切受け付けないので注意してください。

- ◎ 成績表を受け取っていたにもかかわらず、指定期間を過ぎた場合
- ◎ 教務課を通さずに、疑問点を直接教員に問い合わせ、その結果を教務課に届け出た場合
- ◎ 本人の都合で成績表を指定期日に受け取らなかつたため、指定期間が終了してしまった場合
- ◎ 出席回数が、授業回数の3分の2に満たない場合
- ◎ 成績表・時間割を持参していない場合

### 進級について

次の学年（1年生から2年生、2年生から3年生、3年生から4年生）へ進級するためには、当該学年に1年（2学期）以上在学し、かつ以下の基準を満たさなければなりません。この基準に達しない場合には、留年となります。

#### 1年→2年

- ・総修得単位数が20単位以上であること。

#### 2年→3年

- ・総修得単位数が62単位以上であること。

#### 3年→4年

- ・総修得単位数が90単位以上であること。

※ 大正大学履修規程第27条により

- ・1・2・3年次に進級基準に達することなく、同学年に2か年（4セメスター）在学し、進級できない場合は退学となります。
- ・直近3学期連続して各学期の履修科目のGPA値が1.0未満の場合は退学となります。ただし、4年生は除く。

### 履修パターン

① 第II類科目のみを履修した場合



② 第III類科目を履修した場合



26単位以上 88単位以上

### 転学部・転学科・転コースについて

他学部、他学科への転学、同一学科内の他コースへの転籍を希望する者（1・2年次のみ）は、当該学科・コースに欠員のある場合のみ、転学部・転学科・転コース試験を実施します。

#### ◎ 転学部・転学科受験資格

1年次  進級基準を満たしている者および満たす見込の者  
1年次春学期のGPA値3.2以上の者

2年次  進級基準を満たしている者および満たす見込の者  
2年次春学期までのGPA値3.2以上の者

#### ◎ 転コース受験資格

進級基準をすでに満たしている者あるいは満たす見込みの者

◎ 転学部・転学科・転コースの詳細（試験内容を含む）は、11月頃にT-Poにてお知らせします。

15

## 卒業／卒業論文・卒業研究の体裁・提出手順

卒業論文・卒業研究  
登録資格

4年次に進級していること。

## 卒業・学位授与

本学に4年以上在学し、所定の授業科目（各学科の卒業要件を参照）124単位以上（卒業論文・卒業研究を含む）を修得した者は卒業となり、学士の学位を授与します。

## 卒業の要件

卒業に要する単位数を確認のうえ、修得もれのないようにしてください。

各学科共通	学びの窓口				学びの技法				基礎科目				第Ⅰ類科目		第Ⅱ類科目		第Ⅲ類科目		計
	文化	社会	自然	地域	基礎	基礎	基礎	英語	基礎	基礎	基礎	基礎	展開	科目	基礎	専門	基礎部門・専門部門	卒業論文・卒業研究	
					技法A	技法B	技法C		国語	数学	社会								
6単位以上選択必修ただし、テーマより2単位以上選択必修					2単位必修	4単位必修	4単位必修	2単位必修	4単位必修				任 意	26単位以上選択必修		学則表および学科の指導による	原則8単位選択必修※	任 意	124単位以上選択必修

※学科によって異なります。

## 卒業論文の体裁

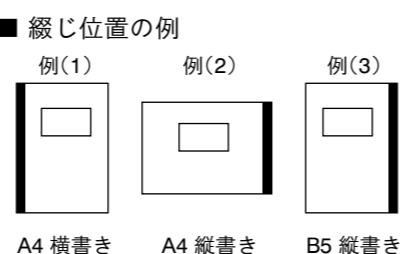
「T-Po」による履修登録は不要です。  
ただし、詳細は各学科に問い合わせてください。

基 本		体 裁					
手書き	ワープロ	・ワープロ:感熱紙不可	用 紙	字詰め	書式	綴じ位置	(下表、注意事項参照)
表 紙	規定枚数に含まない	・手書き:鉛筆書き不可	サ イ ズ				
目 次	規定枚数に含まない	ワープロ・日本語	A 4	40字×40行	横書	例(1)	
序 論		ワープロ・英 語	A 4	指導教授の指示	横書	例(1)	
本 論	50枚以上	ワープロ・日本語	A 4	40字×40行	縦書	例(2)	
結 論	13枚以上	手書き・日本語	B 4	400字	縦書	例(3) 2つ折	
注							
参 考	規定枚数に含まない						
文 献							

※1頁の30行（手書きの場合は3分の2）以上あるものを1枚とする  
※小説・詩等の場合は指導教授の指示にしたがうこと

## 注意事項

- 本文に必ず頁数を記入すること。
- 目次の各タイトルにそれぞれの頁を記入すること。
- 図表・グラフなどは、本文中に入れるのではなく、章や節の末尾にまとめること。
- 綴じる際には右図の場所で綴じること。  
紐綴じの場合は、解けないように中綴じすること。  
・ ファイルなど、簡単に取り外せる状態のものは受け付けないので注意すること。  
\* 詳細は各学科に問い合わせること。



## 第Ⅰ類科目

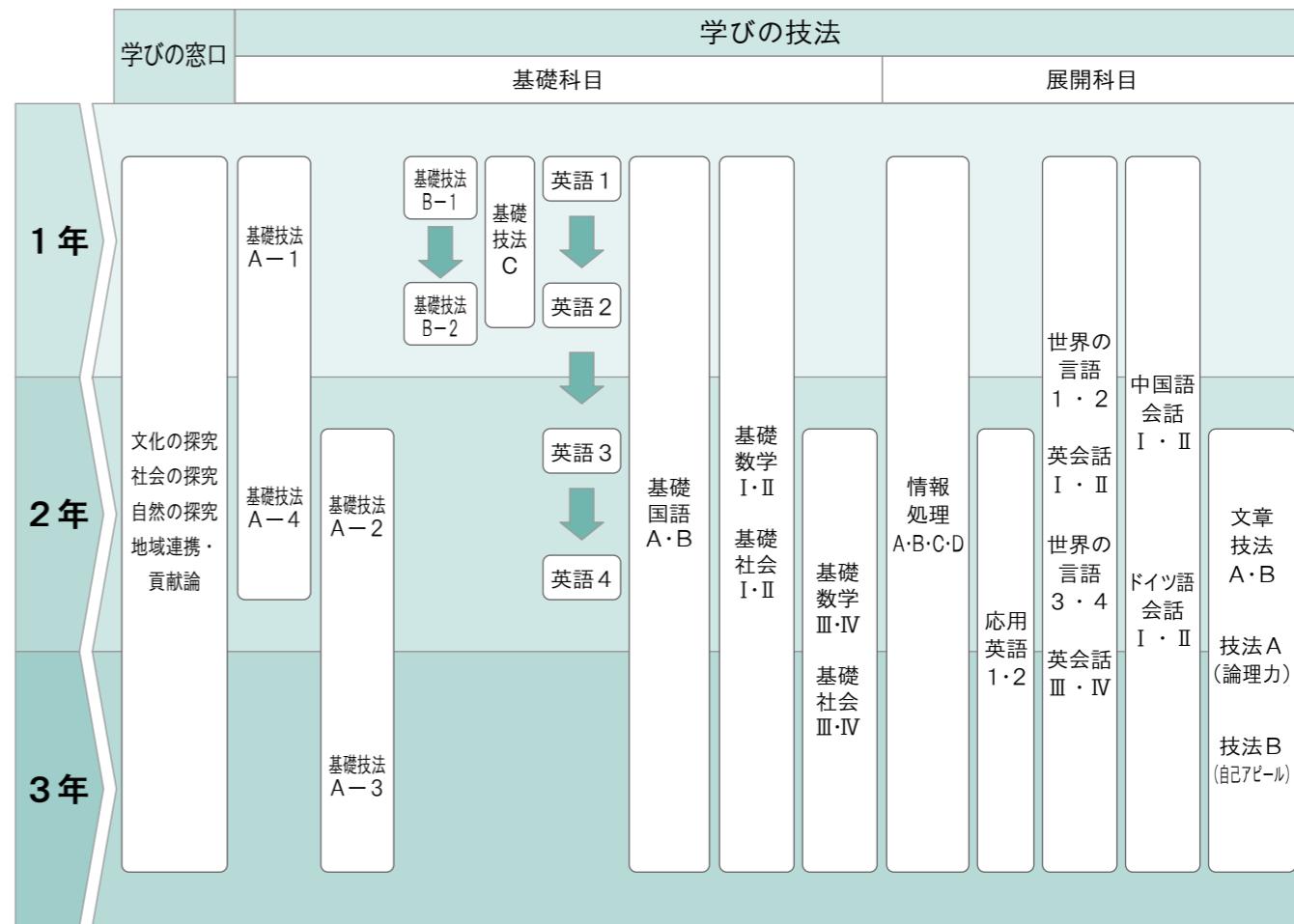
## 学びの窓口

## 学びの技法

## 第Ⅰ類科目

## 第Ⅰ類科目の履修について

大正大学の建学の精神と大学での学びとは何かを知り、学びたいことを学びやすい形で学ぶためのカリキュラムです。これからの大学教育の基礎、さらに社会人として生きていく力を養うことが目的で構成された科目です。



第Ⅰ類科目は、教養教育科目として26単位以上を選択必修としている。それは、教養教育が大学で学んでいく上で基礎となり、さらに社会人として生きていく力にもつながっていくという科目群のねらいもある。

## ■ 学びの窓口

文化・社会・自然および地域の各分野から学ぶことにより、人間としての生きる力を身につけ、かつ教養人として社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。

## ■ 学びの技法

専門分野を深く学ぶために必要な基礎技法を身につけることを目的として、「人格(キャリア)形成」「基礎的学習スキル」「情報リテラシー」「外国語」の4つの要素から構成されている。

## ■ ディプロマ・ポリシー (DP)

本学では、第Ⅰ類科目DP(卒業時の到達目標)を掲げている。学生諸君が、第Ⅰ類の授業を適切に履修できた場合、それぞれに列挙したような能力や態度を身につけることができる。

## ①知識・理解

文化や社会および自然における事象について、教養的知識と理解について前向きに学習している

## ②思考・判断

文化や社会および自然における事象について、知識を総合化させ、地域・社会に貢献するかを理解するとともに、自らの思考の展開や判断に活用しようとしている

## ③技能・表現

専門領域を学ぶにあたって、基本かつ必要な「学びの技法」を身につけている

## ④関心・意欲・態度

社会人として生きていくための基本的姿勢や態度を身につけ、将来に対して明確な目標を持つようになっている

## 学士力・社会人基礎力

1年生～4年生の間に第Ⅱ類科目を並行して履修し、総合的な力を身につける。

## 第Ⅰ類科目

## 第Ⅰ類科目の構成

第Ⅰ類科目は、「学びの窓口」「学びの技法」から構成され、それぞれに教育目標が定められている。

26単位以上選択必修

## 学びの窓口

文化・社会・自然および地域の4つの分野から構成されている。

8単位以上選択必修

## 学びの技法

基礎科目・展開科目で構成されている。

14単位以上選択必修

## 学びの窓口

「学びの窓口」は、文化・社会・自然および地域の4分野で構成され、各分野から幅広く基礎を学び、専門分野への窓口として、学ぶ方法を身につけることを目的としている。

## ■履修方法

- ① 文化・社会・自然の各分野より2単位以上、計6単位以上選択必修とする。
- ② 地域の分野は「地域連携・貢献論」(2単位)を必修とする。
- ③ 1~4年生の4年間で8単位以上修得すること。
- ④ 「学びの窓口」科目の履修登録は抽選になります。

## 学びの窓口

テーマ	科目	備考
文化	考えるための哲学	文化の探究A
		文化の探究B
	歴史に学ぶ	文化の探究C
		文化の探究D
	ことばの不思議	文化の探究E
		文化の探究F
	慈悲と智慧の学び	文化の探究G
		文化の探究H
	〈世界〉に触れる方法	文化の探究I
社会	社会と家族	社会の探究A
		社会の探究B
	情報・メディア	社会の探究C
		社会の探究D
	世界の中の日本	社会の探究E
		社会の探究F
自然	社会と市民生活	社会の探究G
		社会の探究H
		社会の探究I
	数学の世界	自然の探究A
		自然の探究B
地域	生活と健康	自然の探究C
		自然の探究D
	自然と環境	自然の探究E
		自然の探究F
	科学の世界	自然の探究G
		自然の探究H
		自然の探究I
地域	地域連携・貢献論	2単位必修

6単位以上選択必修。  
ただし、文化・社会・自然より  
2単位以上選択必修。

## 学びの技法

「学びの技法」は、基礎科目と展開科目で構成される。大学での学びに必要とされる基礎的学習スキルを身につけることを目的としている。

## ■ 基礎科目

基礎科目のうち以下の①～④9科目14単位は必ず履修すること（※1）。

- ① 基礎技法A－1・4（4単位）
- ② 基礎技法B－1・2（4単位）
- ③ 基礎技法C（2単位）
- ④ 英語1・2・3・4（4単位）

※1 ただし、特に認められた者については履修を免除する。

上記以外の基礎科目は選択科目です。必要に応じて履修すること。

## ■ 展開科目

展開科目は選択科目です。必要に応じて履修すること。

- ① 情報処理A・Bは1→2と段階的に履修することが望ましい。
- ② 外国語科目は1→2→3→4、I→II→III→IVと段階的に継続して学習することが望ましい。

## ■ 諸外国語の外国語検定試験による単位認定について

大学入学前および入学後にTOEICテスト、TOEFL ITPテスト、TOEFL iBTテストと中国語検定を受験した場合、点数に応じて単位を認定します。ただし、該当科目の単位を修得済みの場合は認定することができません。単位認定希望者は所定の手続きを取ってください。

## ◆ 対象者

- TOEICテスト450点以上取得者（TOEIC IPを含む）
- TOEFL ITPテスト453点以上取得者
- TOEFL iBTテスト46点以上取得者
- 中国語検定合格者

## ◆ 申請の流れ

## 書類を教務課窓口に提出

① TOEIC・TOEFL公開テストのスコアまたは中国語検定合格者書  
(合格後2年以内のもの)

② 単位認定申請書（教務課窓口で配付）

## 大学で審査を実施

申請した次の学期に単位を認定（T認定）

## ◆ 申請期間

ガイダンス資料でご確認ください。

## ◆ 認定単位科目

## TOEICテスト

450点以上取得	英語1を認定
500点取得	英語12を認定
550点取得	英語1～3を認定
600点取得	英語1～4を認定

## TOEFL ITPテスト

453点以上取得	英語1を認定
470点取得	英語12を認定
487点取得	英語1～3を認定
503点取得	英語1～4を認定

## TOEFL iBTテスト

46点以上取得	英語1を認定
52点取得	英語12を認定
57点取得	英語1～3を認定
62点取得	英語1～4を認定

## 中国語検定

中国語検定4級合格	中国語12を認定
中国語検定3級合格	中国語1～4を認定

## ■ 基礎技法CのP検による単位認定について

大学入学以前および入学後に、ICTプロフィシエンシー検定協会主催のP検を受験した場合、点数に応じて単位を認定します。  
ただし、該当科目的単位を修得済みの場合は認定することができません。  
単位認定希望者は所定の手続きを取ってください。

## ◆ 対象者

P検3級 取得者

## ◆ 申請の流れ

書類を教務課に提出

- ①P検合格証明書(合格後2年以内のもの)
- ②単位認定申請書(教務課窓口で配布)

↓

大学で審査を実施

↓

単位を認定(T認定)

申請した学期の学期末に認定されます

## ◆ 申請期間

ガイダンス資料でご確認ください。

## ◆ 認定単位科目

P検

3級取得

基礎技法Cを認定

## ■ 入学準備学習について

AO入試、宗門子弟特別入試、スポーツ特別入試で入学した学生は、第Ⅰ類科目に「入学準備学習」として1単位を認定します。

## 第Ⅰ類科目学則別表

群	テーマ	授業科目的名称				備考
		学部共通(第Ⅰ類科目)		履修年次	単位	
文化	授業科目的概要	文化の探究A	1 2 3 4	2		2単位以上選択必修
		文化の探究B	1 2 3 4	2		
		文化の探究C	1 2 3 4	2		
		文化の探究D	1 2 3 4	2		
		文化の探究E	1 2 3 4	2		
		文化の探究F	1 2 3 4	2		
		文化の探究G	1 2 3 4	2		
		文化の探究H	1 2 3 4	2		
社会	学びの窓口	文化の探究I	1 2 3 4	2		2単位以上選択必修
		社会の探究A	1 2 3 4	2		
		社会の探究B	1 2 3 4	2		
		社会の探究C	1 2 3 4	2		
		社会の探究D	1 2 3 4	2		
		社会の探究E	1 2 3 4	2		
		社会の探究F	1 2 3 4	2		
		社会の探究G	1 2 3 4	2		
自然	自然	社会の探究H	1 2 3 4	2		2単位以上選択必修
		社会の探究I	1 2 3 4	2		
		自然の探究A	1 2 3 4	2		
		自然の探究B	1 2 3 4	2		
		自然の探究C	1 2 3 4	2		
		自然の探究D	1 2 3 4	2		
		自然の探究E	1 2 3 4	2		
		自然の探究F	1 2 3 4	2		
地域	地域	自然の探究G	1 2 3 4	2		2単位以上選択必修
		自然の探究H	1 2 3 4	2		
		自然の探究I	1 2 3 4	2		
		地域連携・貢献論	1 2 3 4	2		
		基礎技法A-1	1	2		
		基礎技法A-2	2 3 4	2		
		基礎技法A-3	2 3 4	2		
		基礎技法A-4	2	2		
基礎科目	基礎科目	基礎技法B-1	1	2		2単位必修
		基礎技法B-2	1	2		
		基礎技法C	1	2		
		英語1	1	1		
		英語2	1	1		
		英語3	2	1		
		英語4	2	1		
		基礎国語A	1 2 3 4	2		
学びの技法	基礎科目	基礎国語B	1 2 3 4	2		4単位必修
		基礎数学I	1 2 3 4	2		
		基礎数学II	1 2 3 4	2		
		基礎数学III	2 3 4	2		
		基礎数学IV	2 3 4	2		
		基礎社会I	1 2 3 4	2		
		基礎社会II	1 2 3 4	2		
		基礎社会III	2 3 4	2		
		基礎社会IV	2 3 4	2		
						選択科目

次頁に続く

## 授業科目の概要

群	テーマ	授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
		学部共通（第Ⅰ類科目）				
学びの技法	展開科目	情報処理A-1(ワード)		1 2 3 4	2	
		情報処理A-2(ワード)		1 2 3 4	2	
		情報処理B-1(エクセル)		1 2 3 4	2	
		情報処理B-2(エクセル)		1 2 3 4	2	
		情報処理C(プレゼンテーション)		1 2 3 4	2	
		情報処理D(データベース)		1 2 3 4	2	
		応用英語1		2 3	1	
		応用英語2		2 3	1	
		世界の言語(中国語)1		1 2	1	
		世界の言語(中国語)2		1 2	1	
		世界の言語(中国語)3		2 3	1	
		世界の言語(中国語)4		2 3	1	
		世界の言語(フランス語)1		1 2	1	
		世界の言語(フランス語)2		1 2	1	
		世界の言語(フランス語)3		2 3	1	
		世界の言語(フランス語)4		2 3	1	
		世界の言語(ドイツ語)1		1 2	1	
		世界の言語(ドイツ語)2		1 2	1	
		世界の言語(ドイツ語)3		2 3	1	
		世界の言語(ドイツ語)4		2 3	1	
		世界の言語(韓国語)1		1 2	1	
		世界の言語(韓国語)2		1 2	1	
		世界の言語(韓国語)3		2 3	1	
		世界の言語(韓国語)4		2 3	1	
		世界の言語(スペイン語)1		1 2	1	
		世界の言語(スペイン語)2		1 2	1	
		世界の言語(スペイン語)3		2 3	1	
		世界の言語(スペイン語)4		2 3	1	
		世界の言語(ヒンディ語)1		1 2	1	
		世界の言語(ヒンディ語)2		1 2	1	
		世界の言語(ヒンディ語)3		2 3	1	
		世界の言語(ヒンディ語)4		2 3	1	
留学生科目	留学生科目	英会話I		1 2	1	
		英会話II		1 2	1	
		英会話III		2 3	1	
		英会話IV		2 3	1	
		中国語会話I		1 2 3	1	
		中国語会話II		1 2 3	1	
		ドイツ語会話I		1 2 3	1	
		ドイツ語会話II		1 2 3	1	
		文章技法A		2 3 4	2	
		文章技法B		2 3 4	2	

選択科目

## 第Ⅱ類科目

## 仏教学部

## 仏教学科

第Ⅱ類科目は、各自が所属する学科の専門教育科目である。履修すべき総単位(124単位)のうち、各学科平均70単位を要することになっており、大学教育の根幹をなす科目群である。その構成は学科によって異なるが、おおよそ以下のとおりである。

## 1. 基礎ゼミナール・プレップセミナー

1・2年生を対象としたコース別のゼミナール。少人数のクラス編成で、大学での学習全般に関するオリエンテーションをはじめ、各コースの基礎的な知識および上級学年で学ぶ専門科目の内容や学習方法について指導する。

また担当教員と学生生活や学習について話し合う場でもあり、有意義な4年間を送るための第一歩として受講する必修科目である。

## 2. 基礎・専門・法儀部門

仏教学全般の基礎やコースの専門的学習をしながら、3年次の専門研究、4年次の卒業論文・卒業研究・フリー研究に展開していくための科目群である。コースの枠組みを超えて幅広い科目を学ぶことができるが、各自の研究目標にそった科目選択が望まれる。

## 3. 専門研究、卒業論文・卒業研究・フリー研究

卒業論文・卒業研究・フリー研究は大学での学習の集大成である。3年次より専門研究でテーマの決定や資料収集など、担当教員より指導を受けながら卒業論文・卒業研究・フリー研究を完成させていく。

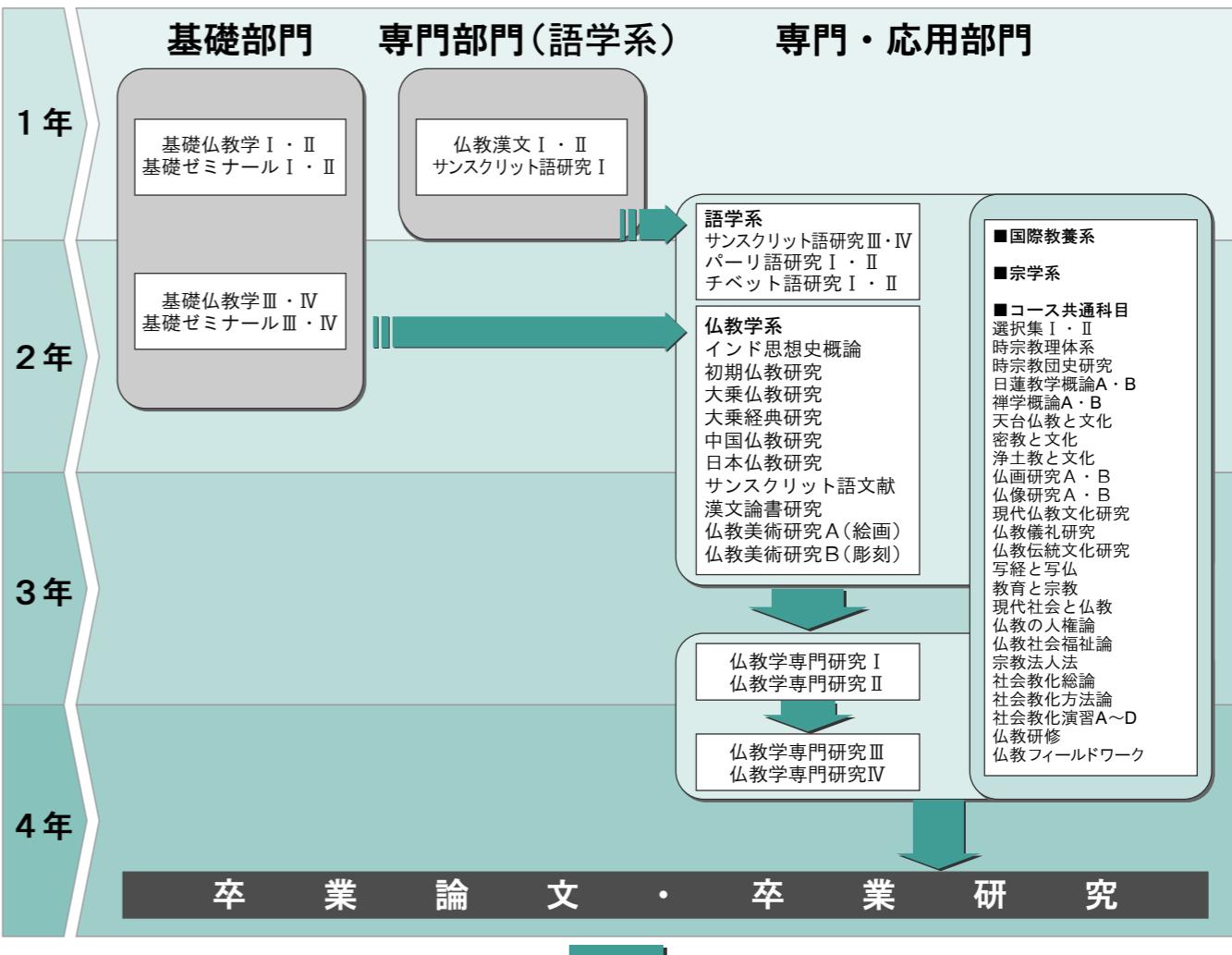
また、よりよい成果があげられるよう、1年生のうちから十分な基礎学習を積み上げることが大切である。

## 4. ディプロマ・ポリシー(DP)

本学では、コースごとにDP(卒業時の到達目標)を掲げている。学生諸君が、各コースの授業を適切に履修できた場合、それぞれに列挙したような能力や態度を身につけることができる。まずは、自分のコースのDPを読んでほしい。そして、自らの卒業時点での姿を想像し、卒業に向けた目標としてほしい。

### 仏教学科専門科目(第Ⅱ類科目)の履修について

仏教学コースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー(DP:卒業時の到達目標)【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



### 仏教学コース ディプロマ・ポリシー (DP)

#### ①知識・理解

仏教の思想と文化に関する幅広い知識を身につけ、それを活用して、より深く求め、分析することができる

#### ②思考・判断

仏教の思想と文化に関する幅広い知識に基づき、自ら問題意識を持って、創造的に思考・判断することができる

#### ③技能・表現

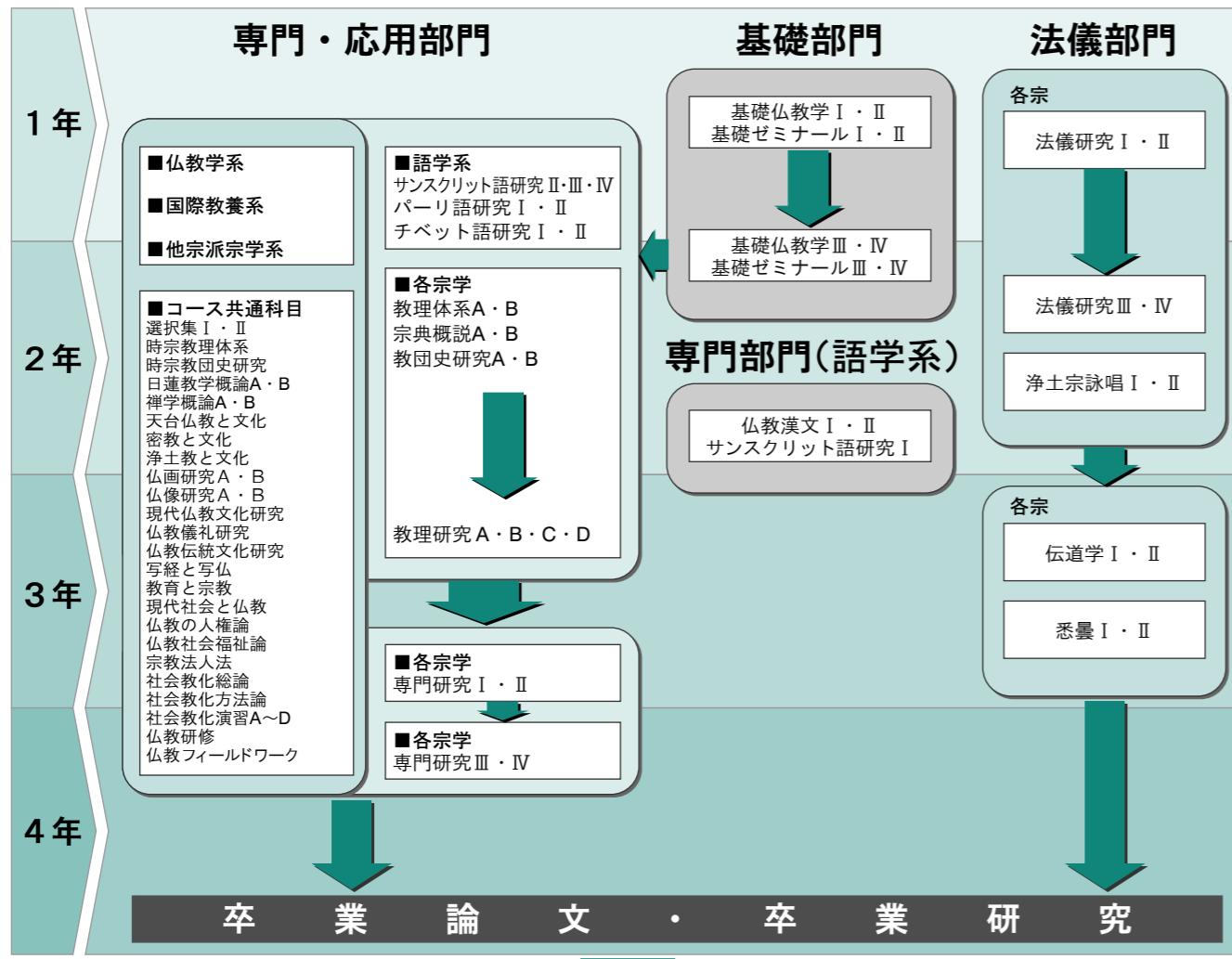
仏教の思想と文化について、文章や口頭で表現するための必要な技術や能力を身につけている

#### ④関心・意欲・態度

仏教を学ぶことに対して意欲的であり、仏教を学んだ者としての社会的責任を自覚し、節度をもって行動できる

## ■ 仏教学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

宗学コースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



## 宗学コース ディプロマ・ポリシー (DP)

## ①知識・理解

佛教ならびに宗学に関する幅広い知識を身につけ、それを活用して、より深く求め、分析することができる

## ②思考・判断

佛教ならびに宗学に関する幅広い知識に基づき、自ら問題意識を持って、創造的に思考・判断することができる

## ③技能・表現

佛教ならびに宗学について、文章や口頭、儀礼などで表現するための必要な技術や能力を身につけている

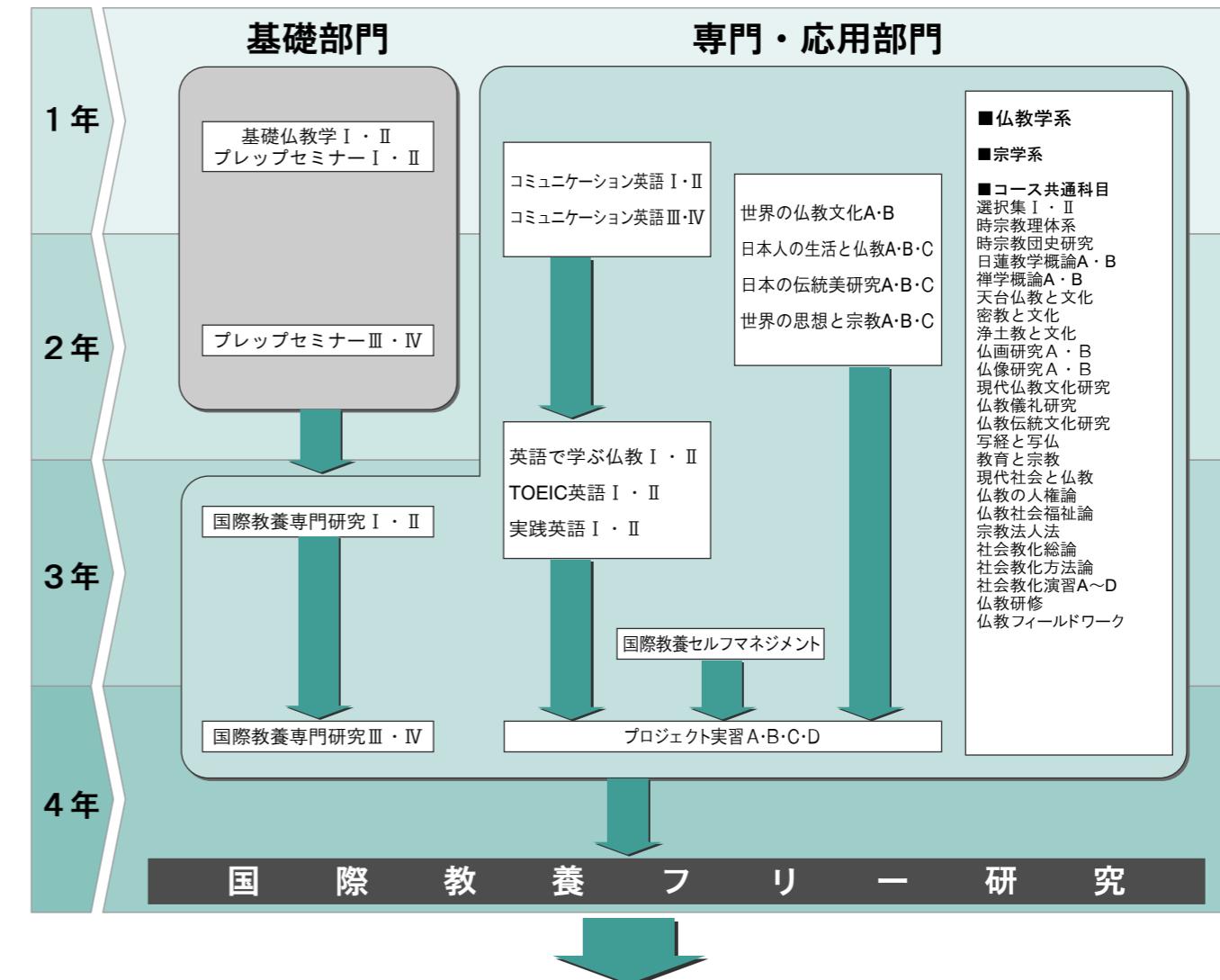
## ④関心・意欲・態度

佛教ならびに宗学を学び続けることに対して意欲的であり、佛教者としての社会的責任を自覚し、地域社会における福祉に貢献しようとする態度を身につけている

仏教学部  
仏教学科  
国際教養コース

## ■ 仏教学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

国際教養コースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



## 国際教養コース ディプロマ・ポリシー (DP)

## ①知識・理解

日本文化と佛教に関する幅広い教養を身につけ、それを活用して、国際的な視野からより深く求め分析することができる

## ②思考・判断

日本に関する知識に基づき、国際的な課題に対して、自ら問題意識をもって、創造的に思考・判断することができる

## ③技能・表現

日本文化、日本人の心について、日本語や諸外国語で表現し世界に発信するための必要な技術や能力を身につけている

## ④関心・意欲・態度

日本を学ぶことに対して意欲的であり、日本人の心を学んだ者として国際社会における責任を自覚し、節度をもって行動できる

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
● 基礎部門	基礎部門	基礎仏教学 I (初期仏教)	1	4
		基礎仏教学 II (大乗仏教)	1	4
		基礎仏教学 III (アジア仏教)	2	4
		基礎仏教学 IV (日本仏教)	2	4
● 専門部門	語学系	基礎ゼミナール I	1	2
		基礎ゼミナール II	1	2
		基礎ゼミナール III	2	2
		基礎ゼミナール IV	2	2
		プレップセミナー I	1	2
		プレップセミナー II	1	2
		プレップセミナー III	2	2
		プレップセミナー IV	2	2
	専門部門	仏教漢文 I	1	2
		仏教漢文 II	1	2
		サンスクリット語研究 I	1	2
		サンスクリット語研究 II	1	2
		サンスクリット語研究 III	2	2
		サンスクリット語研究 IV	2	2
		ペーリ語研究 I	2	2
		ペーリ語研究 II	2	2
		チベット語研究 I	2	2
		チベット語研究 II	2	2
		インド思想史概論	2	2
		初期仏教研究	2	2
		大乗仏教研究	2	2
		大乗經典研究	2	2
		中国仏教研究	2	2
		日本仏教研究	2	2
		サンスクリット語文献	2	2
		漢文論書研究	2	2
		仏教美術史研究 A (絵画)	2	2
		仏教美術史研究 B (彫刻)	1	2
	国際教養系	コミュニケーション英語 I	1	4
		コミュニケーション英語 II	1	4
		コミュニケーション英語 III	2	2
		コミュニケーション英語 IV	2	2

次頁に続く

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
● 専門部門	国際教養系	英語で学ぶ仏教 I	2	2
		英語で学ぶ仏教 II	2	2
		TOEIC英語 I	3	2
		TOEIC英語 II	3	2
		実践英語 I	3	2
		実践英語 II	3	2
		国際教養セルフマネジメント I	3	2
		国際教養セルフマネジメント II	3	2
	専門部門	世界の仏教文化 A	1	2
		世界の仏教文化 B	1	2
		日本人の生活と仏教 A	1	2
		日本人の生活と仏教 B	1	2
		日本人の生活と仏教 C	1	2
		日本の伝統美研究 A	1	2
		日本の伝統美研究 B	1	2
		日本の伝統美研究 C	1	2
		世界の思想と宗教 A	2	2
		世界の思想と宗教 B	2	2
		世界の思想と宗教 C	2	2
		プロジェクト実習 A	3	2
		プロジェクト実習 B	3	2
		プロジェクト実習 C	3	2
		プロジェクト実習 D	3	2
	宗学系	天台学教理体系 A	2	2
		天台学教理体系 B	2	2
		天台学宗典概説 A	2	2
		天台学宗典概説 B	2	2
		天台学教理研究 A	3	2
		天台学教理研究 B	3	2
		天台学教理研究 C	3	2
		天台学教理研究 D	3	2
		天台教団史研究 A	2	2
		天台教団史研究 B	2	2
		真言豊山学教理体系 A	2	2
		真言豊山学教理体系 B	2	2
		真言豊山学宗典概説 A	2	2
		真言豊山学宗典概説 B	2	2
		真言豊山学教理研究 A	3	2
		真言豊山学教理研究 B	3	2
		真言豊山学教理研究 C	3	2
		真言豊山学教理研究 D	3	2
		真言豊山教団史研究 A	2	2
		真言豊山教団史研究 B	2	2

次頁に続く

## ● 専門部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
真言智山学教理体系 A	2	2	● 宗学系
真言智山学教理体系 B	2	2	
真言智山学宗典概説 A	2	2	
真言智山学宗典概説 B	2	2	
真言智山学教理研究 A	3	2	
真言智山学教理研究 B	3	2	
真言智山学教理研究 C	3	2	
真言智山学教理研究 D	3	2	
真言智山教団史研究 A	2	2	
真言智山教団史研究 B	2	2	
浄土学教理体系 A	2	2	
浄土学教理体系 B	2	2	
浄土学宗典概説 A	2	2	
浄土学宗典概説 B	2	2	
浄土学教理研究 A	3	2	
浄土学教理研究 B	3	2	
浄土学教理研究 C	3	2	
浄土学教理研究 D	3	2	
浄土教団史研究 A	2	2	
浄土教団史研究 B	2	2	
選択集 I	2	2	
選択集 II	2	2	
時宗教理体系	2	4	
時宗教団史研究	2	4	
日蓮教学概論 A	2	2	● 専門部門
日蓮教学概論 B	2	2	
禅学概論 A	2	2	
禅学概論 B	2	2	
天台佛教と文化	1	2	
密教と文化	1	2	
浄土教と文化	1	2	
仏画研究 A	2	2	
仏画研究 B	2	2	
仏像研究 A	2	2	
仏像研究 B	2	2	
現代仏教文化研究	2	2	
仏教儀礼研究	2	2	
仏教伝統文化研究	2	2	
写経と写仏	2	2	
教育と宗教	2	2	
現代社会と仏教	2	2	
仏教の人権論	2	2	
仏教社会福祉論	2	2	
宗教法人法	2	2	
社会教化総論	2	2	
社会教化方法論	2	2	
社会教化演習 A	2	2	
社会教化演習 B	2	2	
社会教化演習 C	2	2	
社会教化演習 D	2	2	
仏教研修(※)	1	2	
仏教フィールドワーク(※)	1	2	

(※)同時履修、複数回履修可能  
(※)複数回履修可能

## ● 法儀部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
天台宗法儀研究 I	1	2	● 法儀部門 僧階資格登録が必要
天台宗法儀研究 II	1	2	
天台宗法儀研究 III	2	2	
天台宗法儀研究 IV	2	2	
天台宗伝道学 I	3	2	
天台宗伝道学 II	3	2	
天台宗悉曇 I	3	2	
天台宗悉曇 II	3	2	
真言宗豊山法儀研究 I	1	2	
真言宗豊山法儀研究 II	1	2	
真言宗豊山法儀研究 III	2	2	
真言宗豊山法儀研究 IV	2	2	
真言宗豊山伝道学 I	3	2	
真言宗豊山伝道学 II	3	2	
真言宗豊山悉曇 I	3	2	
真言宗豊山悉曇 II	3	2	
真言宗智山法儀研究 I	1	2	
真言宗智山法儀研究 II	1	2	
真言宗智山法儀研究 III	2	2	
真言宗智山法儀研究 IV	2	2	
真言宗智山伝道学 I	3	2	
真言宗智山伝道学 II	3	2	
真言宗智山悉曇 I	3	2	
真言宗智山悉曇 II	3	2	
浄土宗法儀研究 I	1	2	
浄土宗法儀研究 II	1	2	
浄土宗法儀研究 III	2	2	
浄土宗法儀研究 IV	2	2	
浄土宗伝道学 I	3	2	
浄土宗伝道学 II	3	2	
浄土宗詠唱 I	2	2	
浄土宗詠唱 II	2	2	
時宗法儀研究 I	1	1	
時宗法儀研究 II	1	1	
時宗法儀研究 III	2	1	
時宗法儀研究 IV	2	1	

次頁に続く

## 授業科目的名称

## 履修年次 単位

## 備 考

## ● 応用部門

仏教学専門研究Ⅰ	3	2
仏教学専門研究Ⅱ	3	2
仏教学専門研究Ⅲ	4	2
仏教学専門研究Ⅳ	4	2
国際教養専門研究Ⅰ	3	2
国際教養専門研究Ⅱ	3	2
国際教養専門研究Ⅲ	4	2
国際教養専門研究Ⅳ	4	2
天台学専門研究Ⅰ	3	2
天台学専門研究Ⅱ	3	2
天台学専門研究Ⅲ	4	2
天台学専門研究Ⅳ	4	2
真言豊山学専門研究Ⅰ	3	2
真言豊山学専門研究Ⅱ	3	2
真言豊山学専門研究Ⅲ	4	2
真言豊山学専門研究Ⅳ	4	2
真言智山学専門研究Ⅰ	3	2
真言智山学専門研究Ⅱ	3	2
真言智山学専門研究Ⅲ	4	2
真言智山学専門研究Ⅳ	4	2
浄土学専門研究Ⅰ	3	2
浄土学専門研究Ⅱ	3	2
浄土学専門研究Ⅲ	4	2
浄土学専門研究Ⅳ	4	2
卒業論文	4	8
卒業研究	4	8
国際教養フリー研究	4	8

8単位以上選択必修

8単位選択必修

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし必ず学科の指導を受けること。

〔1〕上記別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

〔2〕第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目(任意)との合計が88単位以上となるように修得すること。

〔3〕第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

■ 先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

- ・天台宗法儀研究Ⅰ→天台宗法儀研究Ⅱ→天台宗法儀研究Ⅲ→天台宗法儀研究Ⅳ
- ・天台宗悉曇Ⅰ→天台宗悉曇Ⅱ
- ・真言宗豊山法儀研究Ⅰ→真言宗豊山法儀研究Ⅱ→真言宗豊山法儀研究Ⅲ→真言宗豊山法儀研究Ⅳ
- ・真言宗豊山悉曇Ⅰ→真言宗豊山悉曇Ⅱ
- ・真言宗智山法儀研究Ⅰ→真言宗智山法儀研究Ⅱ→真言宗智山法儀研究Ⅲ→真言宗智山法儀研究Ⅳ
- ・真言宗智山悉曇Ⅰ→真言宗智山悉曇Ⅱ
- ・浄土宗法儀研究Ⅰ→浄土宗法儀研究Ⅱ→浄土宗法儀研究Ⅲ→浄土宗法儀研究Ⅳ
- ・浄土宗伝道学Ⅰ→浄土宗伝道学Ⅱ
- ・浄土宗詠唱Ⅰ→浄土宗詠唱Ⅱ

## 教職科目

## 授業科目的名称

## 履修年次 単位

## 備 考

## ● 教職関連部門

日本史概説A	2	3	4	2
日本史概説B	2	3	4	2
西洋史概説	2	3	4	4
東洋史概説	2	3	4	4
人文地理学A	2	3	4	2
人文地理学B	2	3	4	2
自然地理学A	2	3	4	2
自然地理学B	2	3	4	2
地誌学	2	3	4	2
法律学概論(国際法を含む。)	2	3	4	2
政治学概論(国際政治を含む。)	2	3	4	2
社会学入門	2	3	4	4
経済学概論(国際経済を含む。)	2	3	4	2
哲学入門	2	3	4	2
現代倫理学	2	3	4	2
宗教学入門	2	3	4	2
宗教史Ⅰ	2	3	4	2
宗教史Ⅱ	2	3	4	2
心理学概説	2	3	4	2

教職資格登録者のみ履修可。

■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。

また、履修制限単位の対象外とする。

■ 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。

■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

第Ⅱ類科目は、各自が所属する学科の専門教育科目である。履修すべき総単位(124単位)のうち、各学科平均70単位を要する、大学教育の根幹をなす科目群である。  
その構成は学科によって異なるが、おおよそ以下のとおりである。

## 1. 基礎ゼミナール

1年生を対象とした学科ごとのゼミナール。比較的少人数のクラス編成で、所属学科の学習内容のオリエンテーションをはじめ、専門課程の学習方法について学ぶ。また担当教員は、クラスの学生の学習全般、生活も気にかけている。気軽に相談してほしい。

## 2. 学科の基礎・分野・方法研究

学科によって基礎科目および分野科目、方法研究科目などに分類されており、履修要件が異なるが、いずれも3年次の専門研究・専門ゼミナール、4年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。学科の教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

## 3. 専門ゼミナール、卒業論文・卒業研究

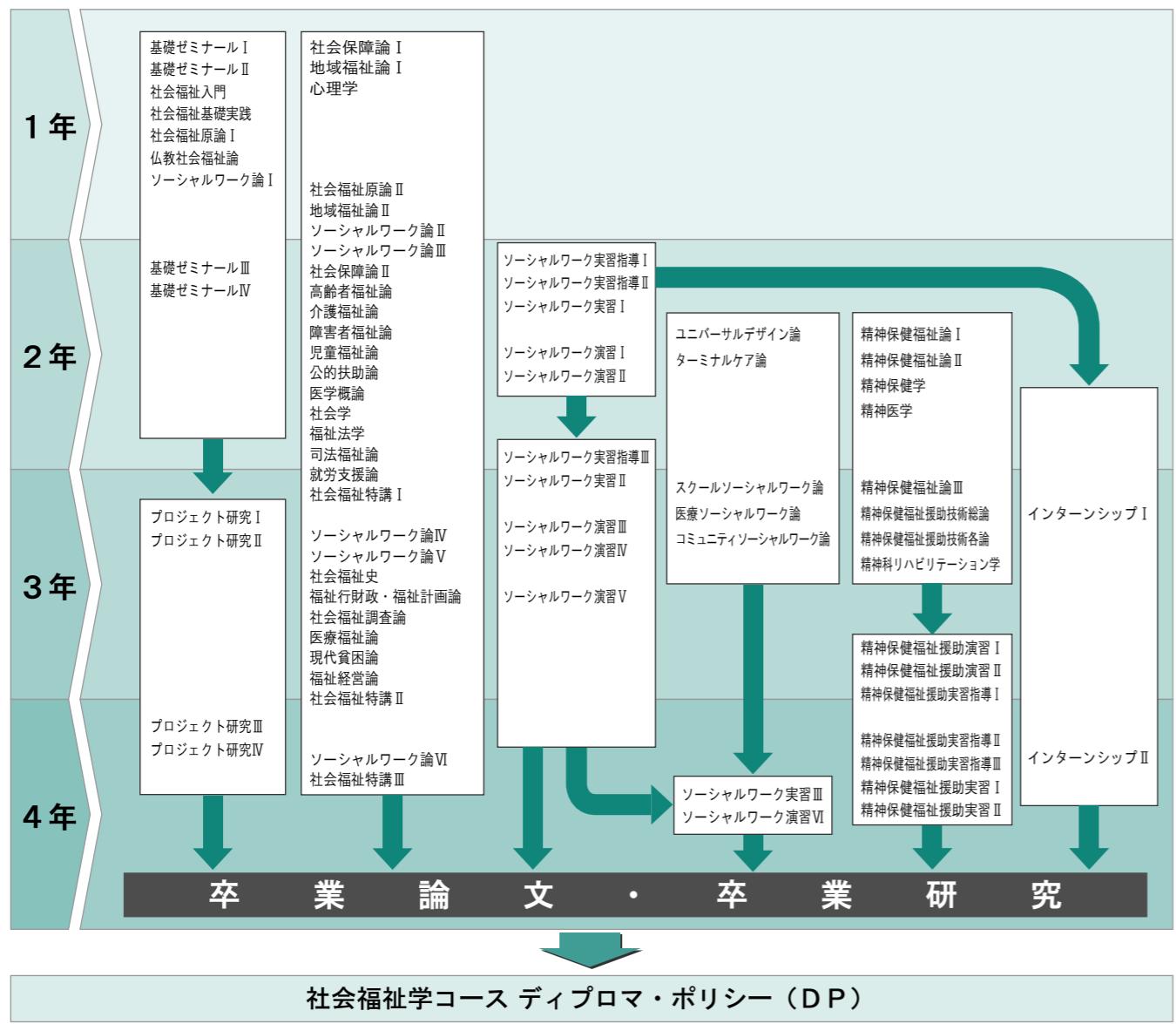
3~4年次になると、学科の学習内容の特色が明確になってくると同時に、授業の形態・方法も多様なものになってくる。ワークショップや学外における実習、さらにフィールドワーク等が行われる学科もある。  
また、卒業論文・卒業研究は、大学で学んだ学問の集大成であることを自覚し、よりよい成果があげられるよう、1年生のうちから十分な基礎学習を積み上げることが大切である。

## 4. ディプロマ・ポリシー(DP)

本学では、コースごとにDP(卒業時の到達目標)を掲げている。  
学生諸君が、各コースの授業を適切に履修できた場合、列挙したような能力や態度を身につけることができる。  
まずは、自分のコースのDPを読んでほしい。そして、自らの卒業時点での姿を想像し、卒業に向けた目標としてほしい。

社会福祉学科専門科目(第Ⅱ類科目)の履修について

社会福祉学コースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、  
ディプロマ・ポリシー(DP:卒業時の到達目標)【下記参照】を設定しています。  
学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成された  
カリキュラムで4年間学んでいきます。



①知識・理解

社会福祉の思想と歴史、佛教社会福祉に基づく価値と倫理、社会福祉制度やサービスについての知識を身につけている

②思考・判断

人々の生活やそれを取り巻く地域・社会の状況を社会福祉と関連づけて思考を展開できる能力を持ち、社会福祉の課題を見出す創造力を身につけている

③技能・表現

積み上げ実習教育を通じて、現場でソーシャルワーカーとして適切に対応できる基本的技術・技能を身につけ、対人援助から政策提案にいたるまで身につけている

④関心・意欲・態度

社会福祉の課題解決に強い関心と意欲を持ち、ソーシャルワーカーとしての実践を通じて共生社会に貢献しようとする態度を身につけている

● 基礎部門

基礎部門

● 専門部門

専門部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
基礎ゼミナール I	1	2	
基礎ゼミナール II	1	2	
基礎ゼミナール III	2	2	
基礎ゼミナール IV	2	2	
社会福祉入門	1	2	
社会福祉原論 I	1	2	
社会福祉基礎実践	1	2	
仏教社会福祉論	1	2	
ソーシャルワーク論 I	1	2	
社会福祉史	3	2	
社会福祉原論 II	2	2	
社会保障論 I	1	2	
社会保障論 II	2	2	
公的扶助論	2	2	
現代貧困論	3	2	
ソーシャルワーク論 II	2	2	
ソーシャルワーク論 III	2	2	
ソーシャルワーク論 IV	3	2	
ソーシャルワーク論 V	3	2	
ソーシャルワーク論 VI	4	2	
社会福祉調査論	3	2	
福祉行財政・福祉計画論	3	2	
福祉経営論	3	2	
地域福祉論 I	1	2	
地域福祉論 II	2	2	
コミュニティソーシャルワーク論	3	2	
ユニバーサルデザイン論	2	2	
高齢者福祉論	2	2	
介護福祉論	2	2	
障害者福祉論	2	2	
児童福祉論	2	2	
スクールソーシャルワーク論	3	2	
就労支援論	2	2	
司法福祉論	2	2	
福祉法学	2	2	
心理学	1	2	
社会学	2	2	
精神保健福祉論 I	2	2	
精神保健福祉論 II	2	2	
精神保健福祉論 III	3	2	
精神保健福祉援助技術総論	3	2	
精神保健福祉援助技術各論	3	2	
精神科リハビリテーション学	3	4	
精神保健学	2	4	
精神医学	2	4	
医学概論	2	2	
医療福祉論	3	2	
医療ソーシャルワーク論	3	2	
ターミナルケア論	2	2	
社会福祉特講 I	2	2	
社会福祉特講 II	3	2	
社会福祉特講 III	4	2	

9科目18単位必修

## 実習・演習部門

## 実習・演習部門

## 応用部門

## 卒業論文・卒業研究

42

授業科目的名称	履修年次	単位	備考
ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	2	
ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	2	
ソーシャルワーク演習Ⅲ	3	2	
ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	2	
ソーシャルワーク演習Ⅴ	4	2	
ソーシャルワーク演習Ⅵ	4	2	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2	
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	2	
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	2	
ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	2	
ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	3	
ソーシャルワーク実習Ⅲ	4	2	
精神保健福祉援助演習Ⅰ	4	2	
精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	2	
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	2	
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	2	
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4	2	
精神保健福祉援助実習Ⅰ	4	2	
精神保健福祉援助実習Ⅱ	4	3	
プロジェクト研究Ⅰ	3	4	2
プロジェクト研究Ⅱ	3	4	2
プロジェクト研究Ⅲ	3	4	2
プロジェクト研究Ⅳ	3	4	2
インターンシップⅠ	2	3	4
インターンシップⅡ	3	4	2
卒業論文	4	8	8単位選択必修
卒業研究	4	8	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目(任意)との合計が88単位以上となるように修得すること。

[3] 第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

■ 精神保健福祉士指定科目的履修は別に定める条件を満たしていること。

## 社会福祉士指定科目

法定科目	本学開講科目	単位数	備考
人体の構造と機能及び疾病	医学概論	2	
心理学理論と心理的支援	心理学	2	
社会理論と社会システム	社会学	2	うち1科目選択
現代社会と福祉	社会福祉原論Ⅰ	2	
	社会福祉原論Ⅱ	2	
社会調査の基礎	社会福祉調査論	2	
相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	
相談援助の理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅴ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅵ	2	
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	
福祉行政と福祉計画	福祉行政財政・福祉計画論	2	
福祉サービスの組織と経営	福祉経営論	2	
社会保障	社会保障論Ⅰ	2	
	社会保障論Ⅱ	2	
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論	2	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2	
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論	2	
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	
保健医療サービス	医療福祉論	2	
就労支援サービス	就労支援論	2	
権利擁護と成年後見制度	福祉法学	2	
更生保護制度	司法福祉論	2	
ソーシャルワーク演習Ⅰ	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	うち1科目選択
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	
相談援助演習	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	
相談援助実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	
相談援助実習	ソーシャルワーク実習Ⅲ	2	
	ソーシャルワーク実習Ⅳ	2	
	ソーシャルワーク実習Ⅴ	3	

## 精神保健福祉士指定科目

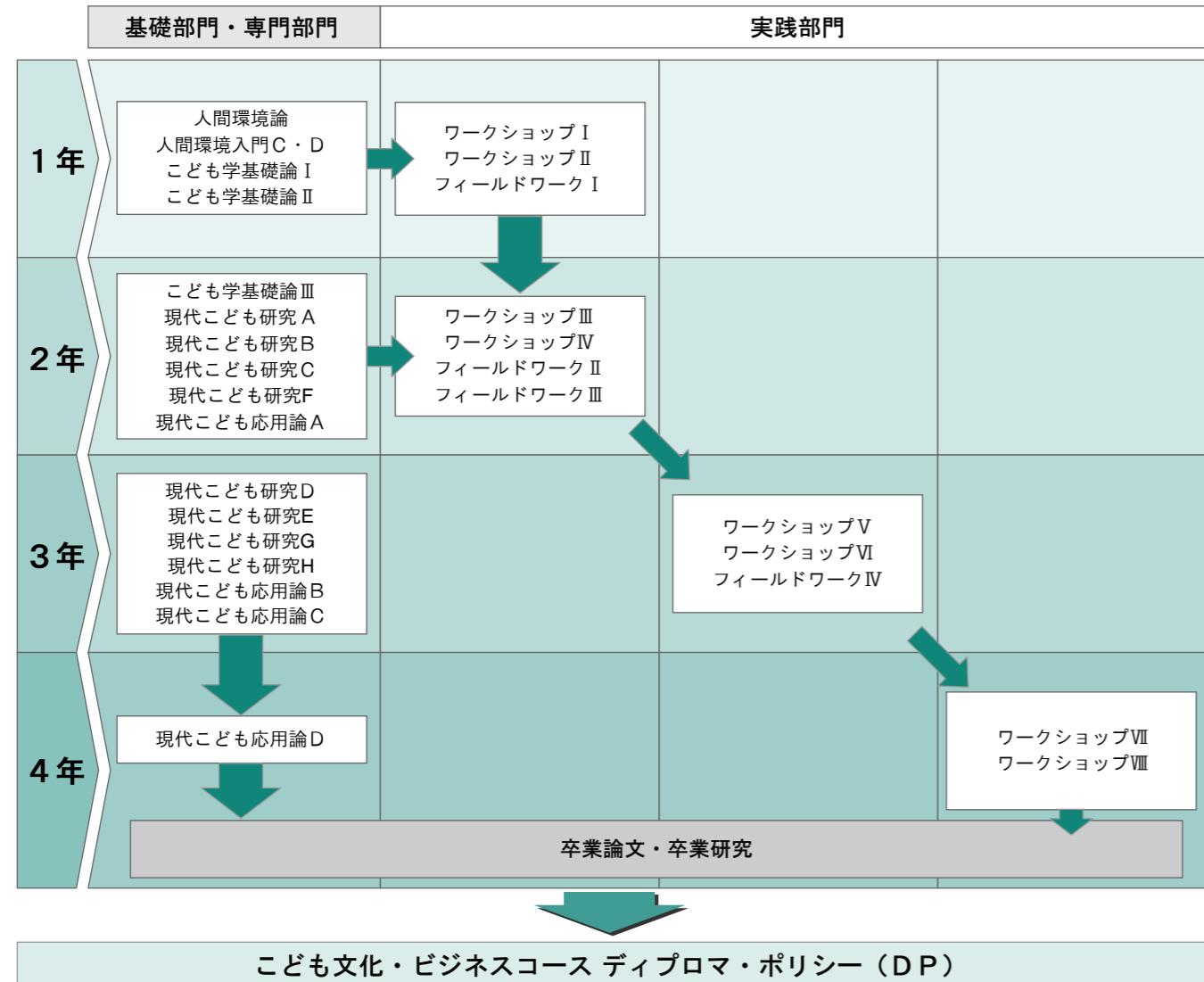
法定科目	本学開講科目	単位数	備考
人体の構造と機能及び疾病	医学概論	2	
心理学理論と心理的支援	心理学	2	
社会理論と社会システム	社会学	2	うち1科目選択
現代社会と福祉	社会福祉原論Ⅰ	2	
	社会福祉原論Ⅱ	2	
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	
福祉行政と福祉計画	福祉行政財政・福祉計画論	2	
社会保障	社会保障論Ⅰ	2	
	社会保障論Ⅱ	2	
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	
保健医療サービス	医療福祉論	2	
権利擁護と成年後見制度	福祉法学	2	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2	
精神疾患とその治療	精神医学	4	
精神保健の課題と支援	精神保健学	4	
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	精神保健福祉援助技術総論	2	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉援助技術各論	2	
	精神科リハビリテーション学	4	
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉論Ⅰ	2	
	精神保健福祉論Ⅱ	2	
精神障害者の生活支援システム	精神保健福祉論Ⅲ	2	
精神保健福祉援助演習(基礎)	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	
精神保健福祉援助演習(専門)	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	2	
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2	
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習Ⅰ	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	3	

## 履修についての注意事項

- 1) 演習・実習費を別途徴収する。
- 2) 詳細な内容はガイダンスで説明する。

人間環境学科  
専門科目(第Ⅱ類科目)の履修について

こども文化・ビジネスコースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー(DP:卒業時の到達目標)【下記参照】を設定しています。学生のみなさんはこのDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



## ①知識・理解

「こども」を取り巻く社会環境の変化を的確に捉え、多様化する価値観やライフスタイルにおける課題について意欲的に学び、見識を深め、知力の充実を図っている

## ②思考・判断

「こども」に関する消費行動や社会・地域の課題、多様な文化を理解した上で、様々な状況を分析し、その要因や対処法について理論的に考察する力を持っている

## ③技能・表現

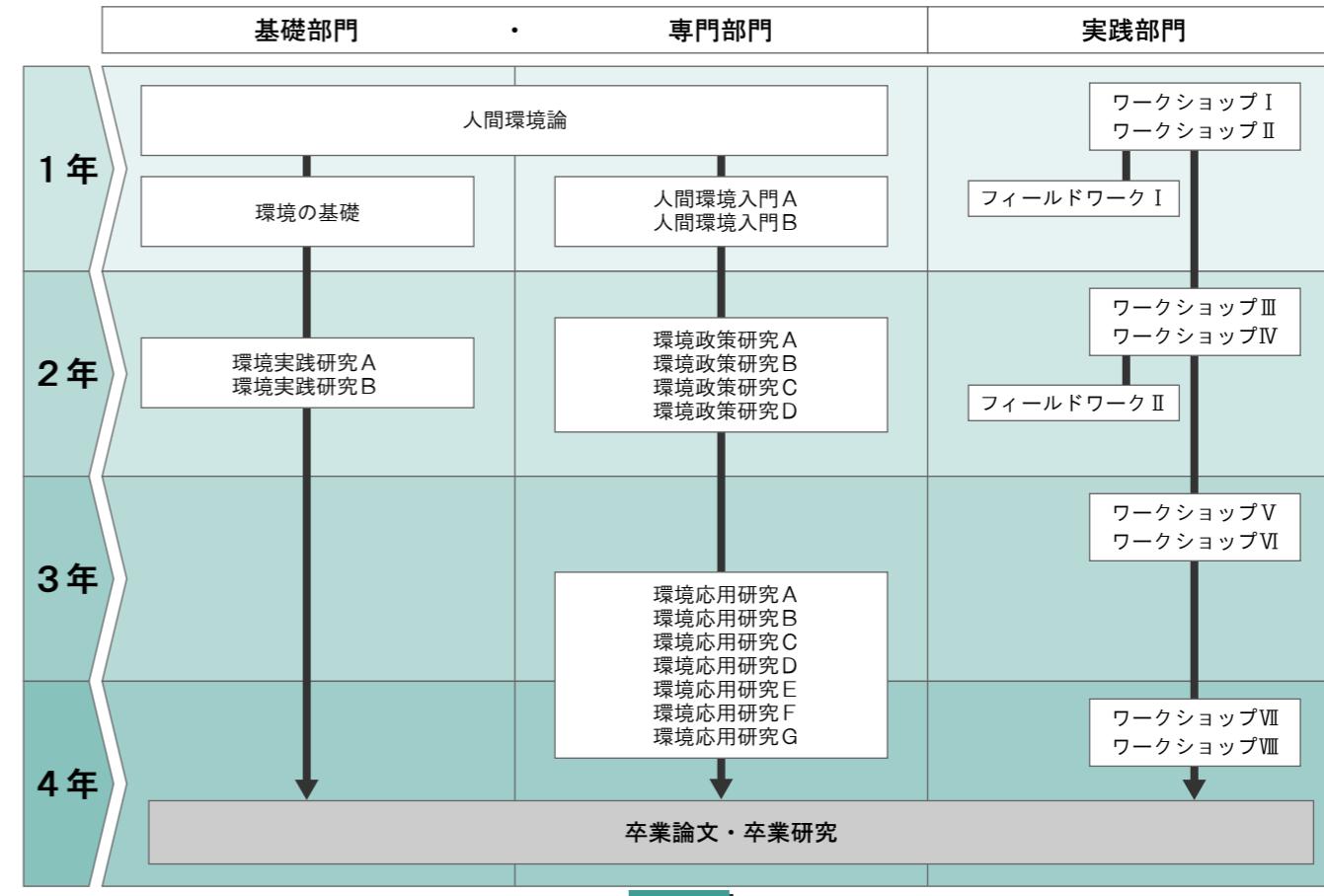
「こども」に関する専門知識を学んだ成果として、自分の考えを論理的にまとめ、聞く相手に合わせて、わかりやすく伝える能力を身につけている

## ④関心・意欲・態度

「こども」に関する多様な領域への関心を持ち続け、社会貢献の意欲と行動力を身につけている

人間学部  
人間環境学科  
環境政策コース人間環境学科  
専門科目(第Ⅱ類科目)の履修について

環境政策コースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー(DP:卒業時の到達目標)【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



## ①知識・理解

自然環境・生活環境や環境教育に関する基本的な知識を身につけ、グローバルな視点での課題の存在を正確に理解している

## ②思考・判断

環境に関する基本的な知識・理解の上に立って、自然や人間、社会に対する洞察力を持ち、現代社会が関わるさまざまな課題の解決に向けて、思考を展開できる能力を身につけている

## ③技能・表現

環境を専門として学ぶ為の基本的技能や技術を身につけ、環境政策提言をおこなうためのプレゼンテーション能力を身につけている

## ④関心・意欲・態度

これからの時代における自然環境や生活環境の諸問題に高い関心を持ち、環境政策の視点を踏まえて積極的に行動することを通して、社会に貢献し、課題を解決しようとする態度・意欲が備わっている

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
● 基礎部門	人間環境論	1	2	2単位必修
	人間環境入門A	1	2	環境政策コース
	人間環境入門B	1	2	4単位必修
	人間環境入門C	1	2	こども文化・ビジネスコース
	人間環境入門D	1	2	4単位必修
	こども学基礎論Ⅰ	1	2	
	こども学基礎論Ⅱ	1	2	
	こども学基礎論Ⅲ	2	2	
	現代こども研究A	2	2	
	現代こども研究B	2	2	
● 専門部門	現代こども研究C	2	2	
	現代こども研究D	3	2	
	現代こども研究E	3	2	
	現代こども研究F	2	2	
	現代こども研究G	3	2	
	現代こども研究H	3	2	
	現代こども応用論A	2	2	
	現代こども応用論B	3	2	
	現代こども応用論C	3	2	
	現代こども応用論D	4	2	
● 専門部門	環境の基礎	1	2	
	環境政策研究A	2	2	
	環境政策研究B	2	2	
	環境政策研究C	2	2	
	環境政策研究D	2	2	
	環境応用研究A	3 4	2	こども文化・ビジネスコースの学生が履修する場合は、コース教務主任に相談し指示を受けること
	環境応用研究B	3 4	2	
	環境応用研究C	3 4	2	
	環境応用研究D	3 4	2	
	環境応用研究E	3 4	2	
● 環境政策	環境応用研究F	3 4	2	
	環境応用研究G	3 4	2	
	環境実践研究A	2	2	
	環境実践研究B	2	2	

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
● 実践部門	ワークショップⅠ(こども)	1	4	
	ワークショップⅡ(こども)	1	4	
	ワークショップⅢ(こども)	2	4	
	ワークショップⅣ(こども)	2	4	
	ワークショップⅤ(こども)	3	4	
	ワークショップⅥ(こども)	3	4	
	ワークショップⅦ(こども)	4	6	
	ワークショップⅧ(こども)	4	6	
	フィールドワークⅠ(人間環境)	1	2	
	フィールドワークⅡ(こども)	2	2	
● 実践部門	フィールドワークⅢ(こども)	2	2	
	フィールドワークⅣ(こども)	3	2	
	ワークショップⅠ(環境)	1	4	
	ワークショップⅡ(環境)	1	6	
	ワークショップⅢ(環境)	2	6	
	ワークショップⅣ(環境)	2	6	
	ワークショップⅤ(環境)	3	2	
	ワークショップⅥ(環境)	3	2	
	ワークショップⅦ(環境)	4	2	
	ワークショップⅧ(環境)	4	2	
● 卒業論文・卒業研究	フィールドワークⅠ(人間環境)	1	2	
	フィールドワークⅡ(環境)	2	2	
	卒業論文	4	8	
	卒業研究	4	8	8単位選択必修

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目(任意)との合計が88単位以上となるように修得すること。

[3] 第Ⅲ類科目=30単位まで

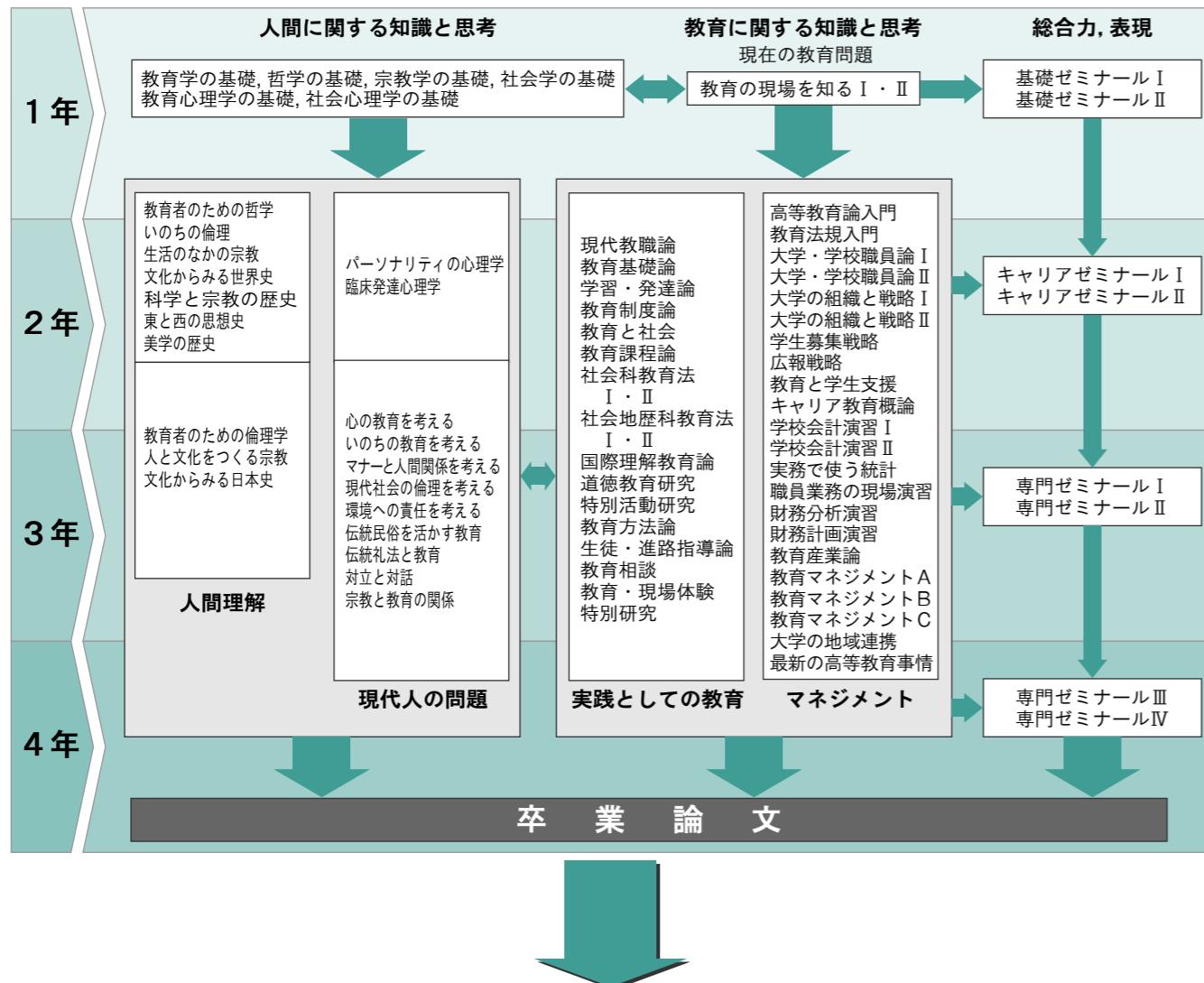
第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

■ 第Ⅱ類科目以外に履修しなければならない科目もあるので、別途学科コースの指導にしたがうこと。

人間学部  
教育人間学科  
教職コース

## 【教育人間学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について】

教職コースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんはこのDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。

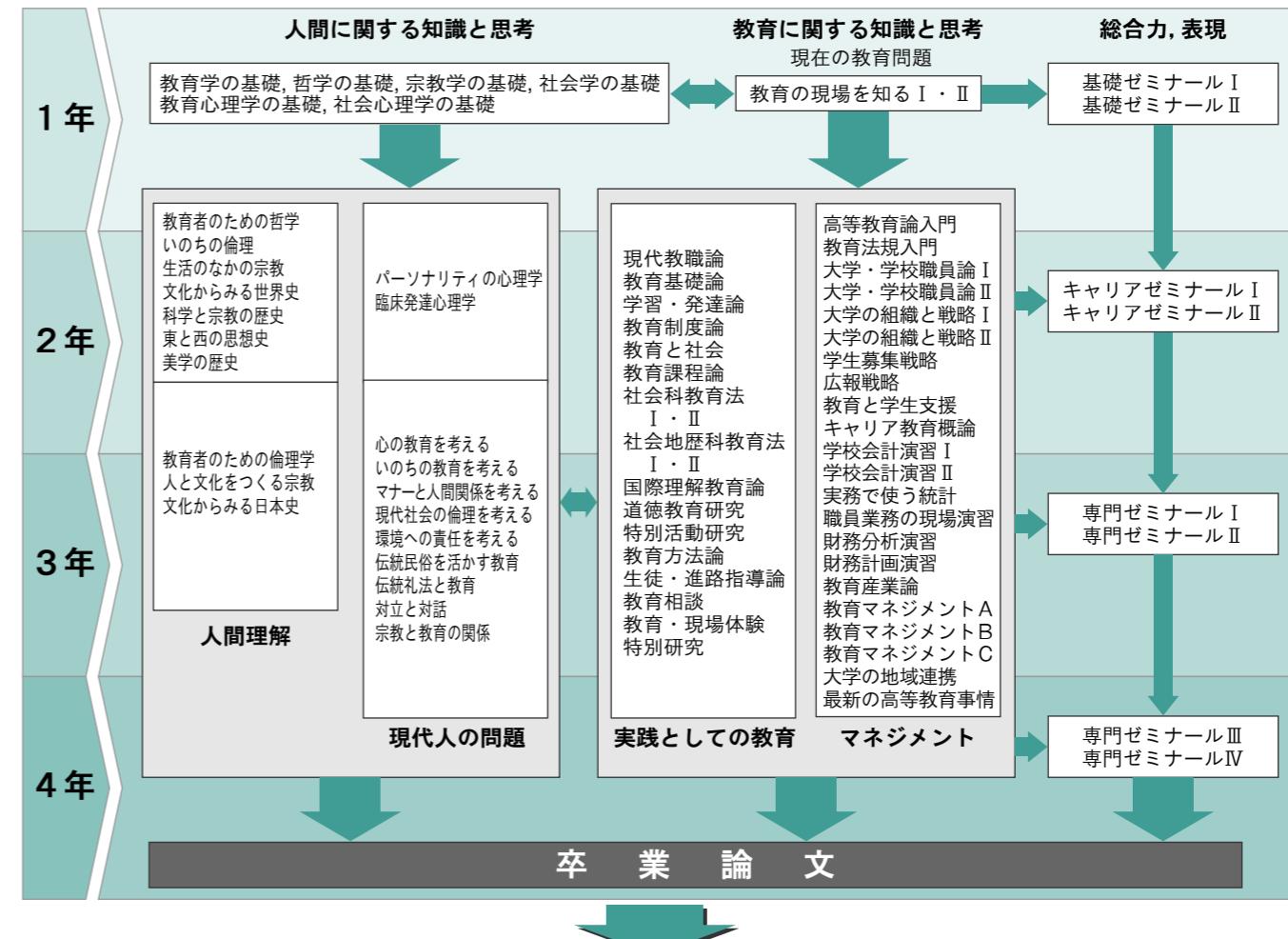


48

人間学部  
教育人間学科  
教育・学校経営  
マネジメント  
コース

## 【教育人間学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について】

教育・学校経営マネジメントコースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんはこのDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



49

## ①知識・理解

教育と学校経営についての基礎知識を修得し、特に経営的な視点から現在の教育と学校経営が直面している問題について理解している

## ②思考・判断

経営やマネジメントの様々な知識や手法を利用して、教育と学校経営上の課題を明らかにし、問題意識や解決のための基本的な考察力や判断力を身に附けている

## ③技能・表現

教育機関におけるさまざまな組織上の役割を理解し、教育の現場で働くための基本的なマネジメント能力、コミュニケーション能力を身に附けている

## ④関心・意欲・態度

これからの学校経営や教育活動に深い関心を持ち、わが国が抱える教育組織・機関等における教育や経営上の課題を解決していく意欲や洞察力を身に附けている

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
導入部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目8単位必修 — 1科目4単位必修 □ IIを履修するには Iを履修済みとする
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	教育キャリアゼミナールⅠ	2	2	
	教育キャリアゼミナールⅡ	2	2	
	社会学の基礎	1	4	
	教育心理学の基礎	1	2	
	社会心理学の基礎	1	2	
	哲学の基礎	1	2	
	宗教学の基礎	1	2	
	教育学の基礎	1	4	
	現在の教育問題	1	2	
	教育の現場を知るⅠ	1	1	
	教育の現場を知るⅡ	1	1	
発展部門	教育者のための哲学	1 2	2	※発展部門から30単位以上
	教育者のための倫理学	2 3	2	
	いのちの倫理	1 2	2	
	人と文化をつくる宗教	2 3	2	
	生活のなかの宗教	1 2	2	
	文化からみる日本史	2 3	2	
	文化からみる世界史	1 2	2	
	科学と宗教の歴史	1 2	2	
	東と西の思想史	1 2	2	
	美学の歴史	1 2	2	
	パーソナリティの心理学	1 2	2	
	臨床発達心理学	1 2	2	
	こころの教育を考える	2 3	2	
B群	いのちの教育を考える	2 3	2	
	マナーと人間関係を考える	2 3	2	
	現代社会の倫理を考える	2 3	2	
	環境への責任を考える	2 3	2	
	伝統民俗を活かす教育	2 3	2	
	伝統礼法と教育	2 3	2	
	対立と対話	2 3	2	
	宗教と教育の関係	2 3	2	
	現代教職論	1 2	2	
	教育基礎論	2 3	2	
	学習・発達論	2 3	2	
	教育制度論	2 3	2	
	教育と社会	2 3	2	
C群	教育課程論	2 3	2	
	社会科教育法Ⅰ	2 3	2	
	社会科教育法Ⅱ	2 3	2	
	社会・地歴科教育法Ⅰ	2 3	2	
	社会・地歴科教育法Ⅱ	2 3	2	
	社会・公民科教育法Ⅰ	2 3	2	
	社会・公民科教育法Ⅱ	2 3	2	
	国際理解教育論	2 3	2	
	道徳教育の指導法	2 3	2	
	特別活動の指導法	2 3	2	
	教育方法論	2 3	2	
	生徒・進路指導論	2 3	2	
	教育相談	2 3	2	
	教育・現場体験	2 3	1	

次頁に続く

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
D群	高等教育論入門	1	2	この科目を履修するには 学校会計演習Ⅰ・Ⅱを 履修済とする
	教育法規入門	1	2	
	大学・学校職員論Ⅰ	1	2	
	大学・学校職員論Ⅱ	1	2	
	大学の組織と戦略Ⅰ	2 3	2	
	大学の組織と戦略Ⅱ	2 3	2	
	学生募集戦略	2 3	2	
	広報戦略	2 3	2	
	教育と学生支援	2 3	2	
	キャリア教育概論	2 3	2	
	学校会計演習Ⅰ	2 3	2	
	学校会計演習Ⅱ	2 3	2	
	実務で使う統計	2 3	2	
	職員業務の現場演習	3 4	2	
専門ゼミナール部門	財務分析演習	3 4	2	
	財務計画演習	3 4	2	
	教育産業論	3 4	2	
	教育マネジメントA	3 4	2	
	教育マネジメントB	3 4	2	
	教育マネジメントC	3 4	2	
	大学の地域連携	4	2	
	最新の高等教育事情	4	2	
	教育人間学専門ゼミナールⅠ	3	2	8単位必修
	教育人間学専門ゼミナールⅡ	3	2	
卒業論文・卒業研究	教育人間学専門ゼミナールⅢ	4	2	
	教育人間学専門ゼミナールⅣ	4	2	
	教育人間学特別研究Ⅰ	3 4	2	
	教育人間学特別研究Ⅱ	3 4	2	
	卒業論文	4	8	8単位選択必修
	卒業研究	4	8	

※ 印の単位数は「必修」ではなく、「履修することが強く望まれる単位数」を示す。

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目（任意）との合計が88単位以上となるように修得すること。

[3] 第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

■ 先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

教育の現場を知るⅠ—教育の現場を知るⅡ

学校会計演習Ⅰ・Ⅱ—財務分析演習・財務計画演習

教職科目	授業科目的名称	履修年次	単位	備考	各学科の専門教育科目
● 教職関連部門	日本史概説A	2 3 4	2	教職資格登録者のみ履修可。	第Ⅱ類科目は、各自が所属する学科の専門教育科目である。履修すべき総単位(124単位)のうち、各学科平均70単位を要する、大学教育の根幹をなす科目群である。 その構成は学科によって異なるが、おおよそ以下のとおりである。
	日本史概説B	2 3 4	2		
	西洋史概説	2 3 4	4		
	東洋史概説	2 3 4	4		
	人文地理学A	2 3 4	2		
	人文地理学B	2 3 4	2		
	自然地理学A	2 3 4	2		
	自然地理学B	2 3 4	2		
	地誌学	2 3 4	2		
	法律学概論(国際法を含む。)	2 3 4	2		
	政治学概論(国際政治を含む。)	2 3 4	2		
	経済学概論(国際経済を含む。)	2 3 4	2		

- 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。  
また、履修制限単位の対象外とする。
- 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。
- 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

## 第Ⅱ類科目

### 心理社会学部

人間科学科

臨床心理学科

52

53

#### 1. 基礎ゼミナール

1年生を対象とした学科ごとのゼミナール。比較的少人数のクラス編成で、所属学科の学習内容のオリエンテーションをはじめ、専門課程の学習方法について学ぶ。また担当教員は、クラスの学生の学習全般、生活も気にかけている。気軽に相談してほしい。

#### 2. 学科の基礎・分野・方法研究

学科によって基礎科目および分野科目、方法研究科目などに分類されており、履修要件が異なるが、いずれも3年次の専門研究・専門ゼミナール、4年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。学科の教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

#### 3. 専門ゼミナール、卒業論文・卒業研究

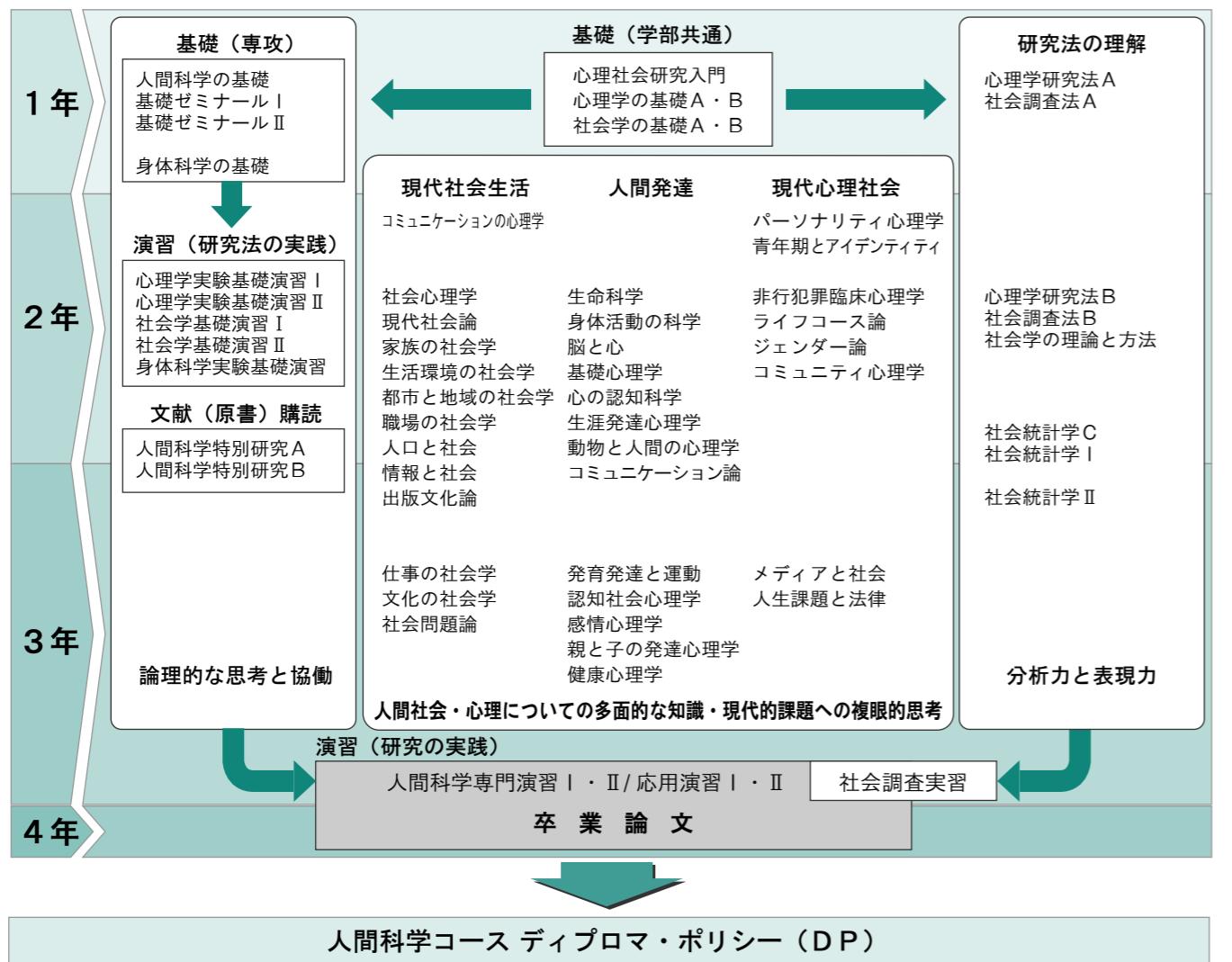
3~4年次になると、学科の学習内容の特色が明確になってくると同時に、授業の形態・方法も多様なものになってくる。ワークショップや学外における実習、さらにフィールドワーク等が行われる学科もある。  
また、卒業論文・卒業研究は、大学で学んだ学問の集大成であることを自覚し、よりよい成果があげられるよう、1年生のうちから十分な基礎学習を積み上げることが大切である。

#### 4. ディプロマ・ポリシー(DP)

本学では、コースごとにDP(卒業時の到達目標)を掲げている。  
学生諸君が、各コースの授業を適切に履修できた場合、列挙したような能力や態度を身につけることができる。  
まずは、自分のコースのDPを読んでほしい。そして、自らの卒業時点での姿を想像し、卒業に向けた目標としてほしい。

## 人間科学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

人間科学コースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、  
教育目標【DP（ディプロマ・ポリシー）】：下記参照】を設定しています。  
学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成された  
カリキュラムで4年間学んでいきます。



## ○ 学部共通部門

	授業科目の名称	履修年次	単位	備考
基礎科目 学部共通部門	心理社会研究入門	1	2	1科目2単位必修 3科目6単位以上選択必
	社会学の基礎A	1	2	
	社会学の基礎B	1	2	
	心理学の基礎A	1	2	
	心理学の基礎B	1	2	
	社会調査法A	1	2	
現代心理社会科目 学部共通部門	心理学研究法A	1	2	2科目4単位以上選択必
	社会調査法A	1	2	
	心理学研究法A	1	2	
	パーソナリティ心理学	1	2	
	青年期とアイデンティティ	1	2	
	非行犯罪臨床心理学	2	2	
基礎部門 基礎部門	ライフコース論	2	2	3科目6単位必修
	ジェンダー論	2	2	
	コミュニティ心理学	2	2	
	メディアと社会	3	2	
	人生課題と法律	3	2	
	人間科学の基礎	1	2	
研究法部門 研究法部門	基礎ゼミナール I	1	2	1科目2単位以上選択必
	基礎ゼミナール II	1	2	
	身体科学の基礎	1	2	
	心理学研究法B	2	2	
	社会学の理論と方法	2	2	
	心理学実験基礎演習 I	2	2	
専門部門 専門部門	心理学実験基礎演習 II	2	2	A群とB群から各10単位 A群とB群から合計32単位以上 選択必修
	社会学基礎演習 I	2	2	
	社会学基礎演習 II	2	2	
	身体科学実験基礎演習	2	2	
	社会調査法B	2	2	
	社会調査法C	2	2	
人間発達科目 (A群) 専門部門	社会統計学 I	2	2	
	社会統計学 II	3	2	
	社会調査実習	3	4	
	生命科学	2	2	
	身体活動の科学	2	2	
	発育発達と運動	3	2	

## ● 専門部門

## 専門部門

## 現代社会生活科目（B群）

## 特別研究

## 演習科目

## ○ 卒業論文

授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
社会心理学	2	2	
コミュニケーション論	2	2	
コミュニケーションの心理学	1	2	
現代社会論	2	2	
家族の社会学	2	2	
生活環境の社会学	2	2	
都市と地域の社会学	2	2	
職場の社会学	2	2	
仕事の社会学	3	2	
文化の社会学	3	2	
人口と社会	2	2	
情報と社会	2	2	
出版文化論	2	2	
社会問題論	3	2	
人間科学特別研究A	2	2	
人間科学特別研究B	2	2	
人間科学専門演習Ⅰ	3	2	2科目4単位必修
人間科学専門演習Ⅱ	3	2	
人間科学応用演習Ⅰ	3	2	
人間科学応用演習Ⅱ	3	2	
卒業論文	4	8	8単位必修

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目十第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目（任意）との合計が88単位以上となるように修得すること。

[3] 第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

■ 先修制科目 以下の科目は順次履修すること。

心理学研究法A→心理学実験基礎演習Ⅰ

心理学実験基礎演習Ⅰ→心理学実験基礎演習Ⅱ

社会調査法A→社会調査法B

社会調査法Cおよび社会統計学I→社会統計学II

社会調査実習の履修希望者は、社会調査法Aおよび社会調査法Bの2科目4単位、

社会調査法Cまたは社会統計学Iの2科目から1科目2単位を修得済みとする。

■ 心理学の基礎A、心理学の基礎B、社会学の基礎A、社会学の基礎Bを7単位以上修得した場合、その余剰単位は専門部門の単位として認定する。

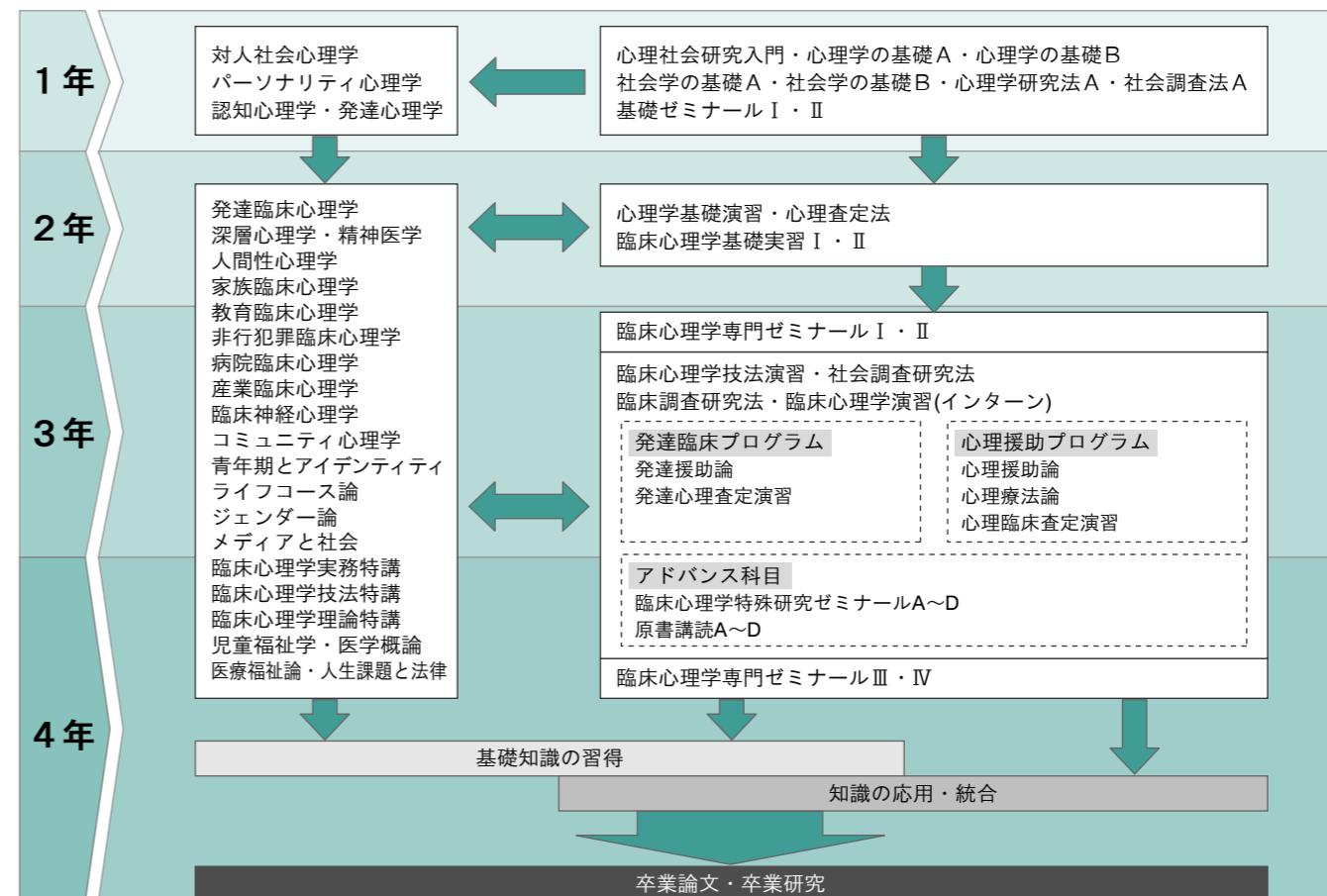
■ 現代心理社会科目を5単位以上修得した場合、その余剰単位は専門部門における「A群とB群から合計32単位以上選択必修」という要件の単位として認定する。

■ 人間科学専門演習と人間科学応用演習は同じ教員が行うⅠおよびⅡを履修し、Ⅰ、Ⅱの順に受講することを原則とする。

心理社会学部  
臨床心理学科  
臨床心理学  
コース

心理社会学部臨床心理学科  
専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

臨床心理学コースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんはこのDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



臨床心理学コース ディプロマ・ポリシー（DP）

①知識・理解

臨床心理学の諸理論と技法について基本的理解をしている

②思考・判断

客観性を重視する科学的視点と共感性を軸とする臨床的視点の両方を身につけ、多面的な判断ができる

③技能・表現

専門的文献を正確に理解するとともに、自らの問題意識を学術的に論証していくための方法を身につけ、学習成果や考察を的確に表現し、伝達することができる

④関心・意欲・態度

互いの違いを理解しながら他者と協働し、それぞれの心情を尊重して円滑な人間関係を維持することができる

⑤社会性・倫理・人間観

臨床心理実践における倫理の重要性を学ぶことを通じて、一般社会人として不可欠なモラルに従い、責任ある社会人としてとるべき行動のあり方を理解している

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
● 学部共通部門	基礎科目	心理社会研究入門	1	2
		社会学の基礎A	1	2
		社会学の基礎B	1	2
		心理学の基礎A	1	2
		心理学の基礎B	1	2
		社会調査法A	1	2
		心理学研究法A	1	2
● 基礎部門	現代心理社会科目	パーソナリティ心理学	1 2 3 4	2
		青年期とアイデンティティ	2 3	2
		非行犯罪臨床心理学	2 3 4	2
		ライフコース論	2 3	2
		ジェンダー論	2 3	2
		コミュニティ心理学	2 3 4	2
		メディアと社会	3 4	2
		人生課題と法律	3 4	2
● 方法・研究部門	方法・研究部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2
		基礎ゼミナールⅡ	1	2
		心理査定法	2	2
		対人社会心理学	1 2 3 4	2
		認知心理学	1 2 3 4	2
		発達心理学	1 2 3 4	2
		発達臨床心理学	2 3 4	4
		深層心理学	2 3 4	4
		精神医学	2 3 4	4
		人間性心理学	2 3 4	4
		家族臨床心理学	2 3 4	2
		教育臨床心理学	2 3 4	2
		病院臨床心理学	2 3 4	2
		産業臨床心理学	2 3 4	2
		臨床神経心理学	2 3 4	2
		臨床心理学実務特講	2 3 4	2
		臨床心理学技法特講	2 3 4	2
		臨床心理学理論特講	2 3 4	2
		児童福祉学	2 3 4	2
		医学概論	2 3 4	2
		医療福祉論	3 4	2
		心理療法論	3 4	4
		心理援助論	3 4	2
		発達援助論	3 4	2
● 演習・実習部門		心理学基礎演習	2	4
		臨床心理学基礎実習Ⅰ	2	1
		臨床心理学基礎実習Ⅱ	2	1
● 専門ゼミナール部門		臨床心理学専門ゼミナールⅠ	3	2
		臨床心理学専門ゼミナールⅡ	3	2
		臨床心理学専門ゼミナールⅢ	4	2
		臨床心理学専門ゼミナールⅣ	4	2

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
● 応用部門	応用部門	発達心理査定演習	3 4	4
		心理臨床査定演習	3 4	4
		臨床心理学技法演習	3 4	4
		社会調査研究法	3 4	2
		臨床調査研究法	3 4	2
		臨床心理学演習(インターン)	3 4	4
		臨床心理学特殊研究ゼミナールA	3 4	2
		臨床心理学特殊研究ゼミナールB	3 4	2
		臨床心理学特殊研究ゼミナールC	3 4	2
		臨床心理学特殊研究ゼミナールD	3 4	2
		原書講読A	3 4	1
		原書講読B	3 4	1
		原書講読C	3 4	1
		原書講読D	3 4	1
● 卒業論文・卒業研究	卒業論文		4	8
	卒業研究		4	8

※ 印の単位数は「必修」ではなく、「履修することが強く望まれる単位数」を示す。

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがい修得すること。

[1] 上記別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目(任意)との合計が88単位以上となるように修得すること。

[3] 第Ⅲ類科目=30単位まで

第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

■ 先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

心理学研究法A→心理学基礎演習→心理査定法→心理臨床査定演習、発達心理査定演習  
臨床心理学基礎実習ⅠおよびⅡ→臨床心理学演習(インターン)

選択科目※2

(※1と※2から  
14単位以上)

3科目6単位必修

4科目8単位必修

選択科目

8単位選択必修

各学科の専門教育科目

第Ⅱ類科目

文学部

61

人文学科

日本文学科

歴史学科

60

第Ⅱ類科目は、各自が所属する学科の専門教育科目である。履修すべき総単位(124単位)のうち、各学科平均70単位を要することになっており、大学教育の根幹をなす科目群である。その構成は学科によって異なるが、おおよそ以下のとおりである。

### 1. 基礎ゼミナー

1年生と2年生を対象とした入門科目。比較的少人数のクラス編成で、所属学科の学習内容のオリエンテーションをはじめ、専門科目学習の基礎について学ぶ。学生は、担当教員に勉強のほか生活についての悩みなども気軽に相談できるようになって、有意義な出会いの場となる。

### 2. 学科の基礎部門・分野部門

学科によって基礎科目および分野科目、専門研究科目などに分類されている科目。いずれも1～2年生で履修し、3年次の課題研究、専門演習、4年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。学科の教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

### 3. 課題研究、専門演習、卒業論文

3～4年次になると、学科の学習内容の特色が明確になってくる。授業の形態・方法も異なり、学科によっては、学外における実習、さらにフィールドワーク等も行われる。

また、卒業論文は、大学において研究した学問の集大成である。学生は、このことを自覚し、よりよい成果があげられるよう、あらかじめ十分な基礎学習を積み上げておくことが大切である。

### 4. ディプロマ・ポリシー(DP)

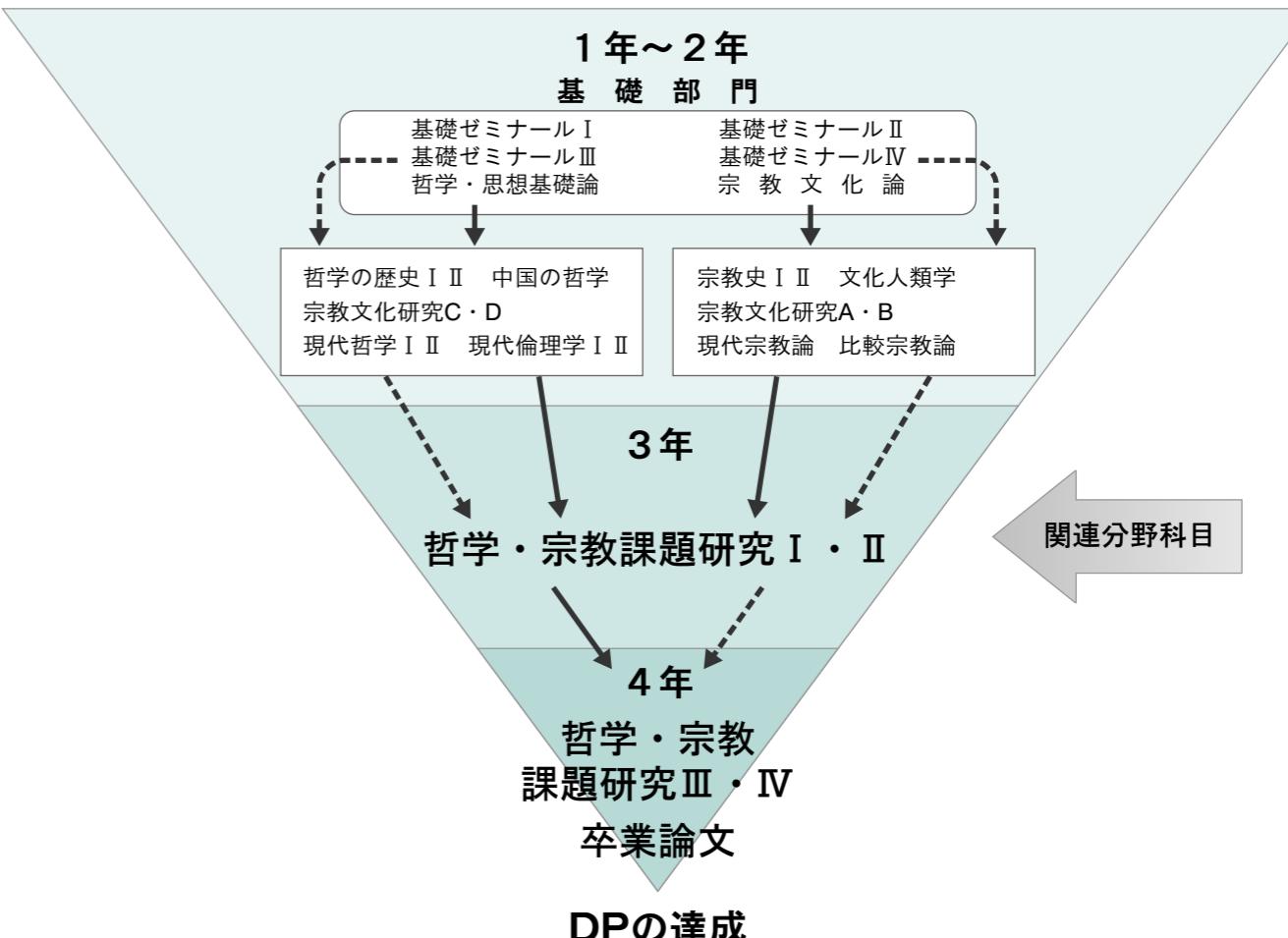
本学では、コースごとにDP(卒業時の到達目標)を掲げている。学生諸君が、各コースの授業を適切に履修できた場合、それぞれに列挙したような能力や態度を身につけることができる。

まずは、自分のコースのDPを読み、そして、自らの卒業時点での姿を想像し、卒業に向けた目標としてほしい。

DPは社会接合であり、就職目標でもあることを認識しよう。

### 人文学科専門科目(第Ⅱ類科目)の履修について

哲学・宗教文化コースでは教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー(DP:卒業時の到達目標)【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



#### 哲学・宗教文化コース ディプロマ・ポリシー(DP)

##### ①知識・理解

哲学・宗教の思想や歴史に関する知識を身につけ、それぞれの文化的特徴を理解している

##### ②思考・判断

哲学・宗教の理解のうえに立って、「人間とは何か」「幸せとは何か」「善悪とは何か」といった課題について自ら問題意識を持って考察し、まとめる力を持っている

##### ③技能・表現

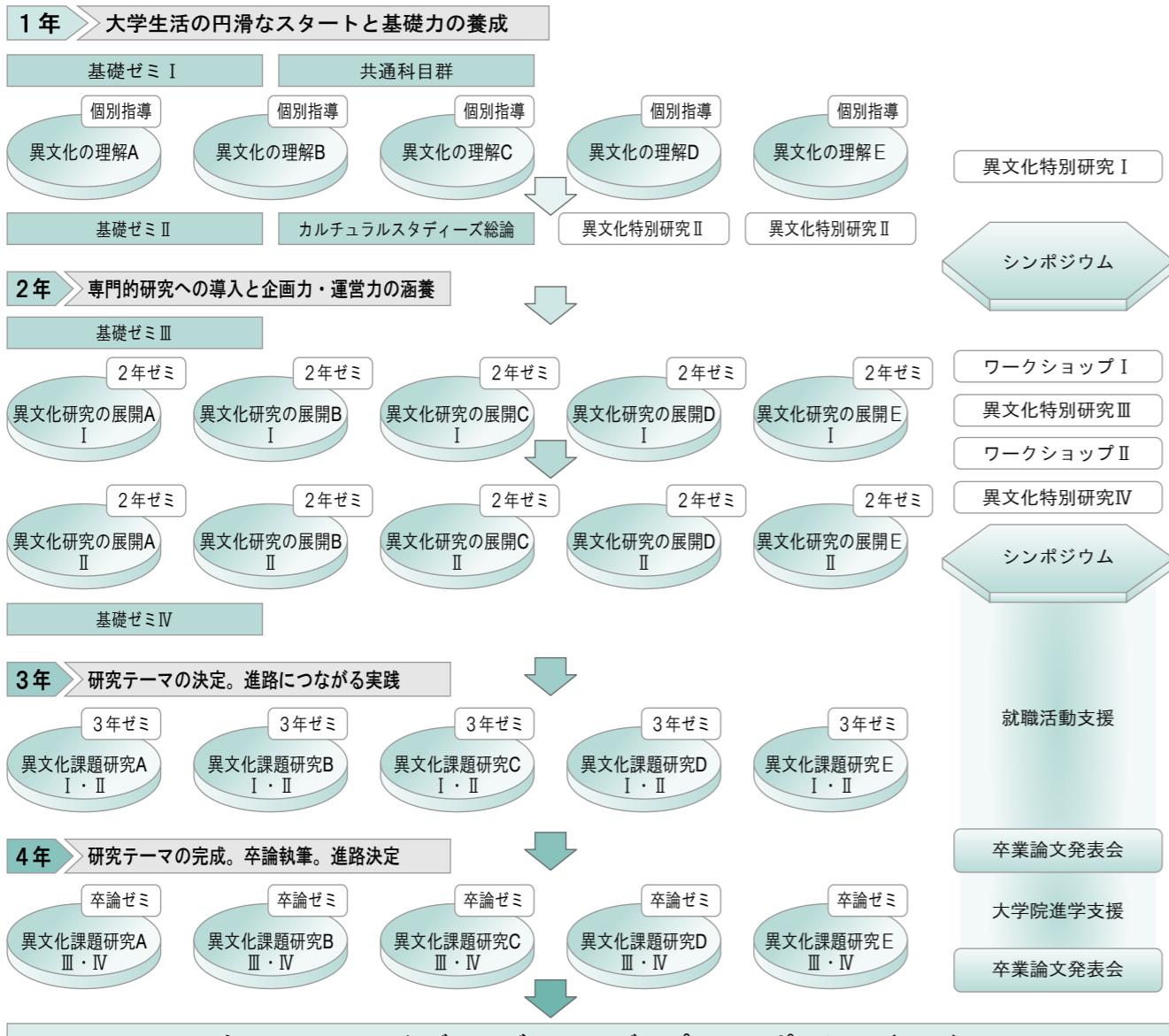
自己の信念や考えについて自省的であるとともに、他者がよって立つ価値観・世界観・原理などを正確に捉え、論理的に整理して、適切に応答することができる

##### ④関心・意欲・態度

専門領域の学びの中から、社会に貢献できる事項について問題意識をもち、取り組み、他者と協働できる能力を養っている

### 人文学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

カルチャルスタディーズコースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



#### ①知識・理解

どのような現象を文化ととらえることができるかということについて、学際的な知見に基づく自分自身の考え方を持ち、文化についての幅広い知識と洞察力を有している。

#### ②思考・判断

専門領域についての強い探究心を持ち、新しく作り出される文化、文化を読み解く新しい理論的試みに対して、批判的視点から分析を行うことができる。

#### ③技能・表現

自分の考察を相手に効果的に伝える論理的表現力を持っている。

#### ④関心・意欲・態度

先入観にとらわれない発想、積極的な他者との協働によって、さまざまな分野で企画を立てる力、問題を解決する力を発揮することができる。

#### ○基礎部門

#### 基礎部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
基礎ゼミナーⅠ	1	2	4科目8単位必修
基礎ゼミナーⅡ	1	2	
基礎ゼミナーⅢ	2	2	
基礎ゼミナーⅣ	2	2	
日本文化総論	1	2	3科目6単位履修すること
日本文学基礎論	1	2	
日本語基礎論	1	2	
哲学・思想基礎論	1	2	
宗教文化論	1	2	
カルチャルスタディーズ総論	1	2	
文化人類学	1 2	2	
表現文化論	1	2	
哲学の歴史Ⅰ	1 2	2	
哲学の歴史Ⅱ	1 2	2	
中国の哲学	1 2	2	
現代哲学Ⅰ	2 3	2	
現代哲学Ⅱ	2 3	2	
現代倫理学Ⅰ	1 2	2	
現代倫理学Ⅱ	1 2	2	
宗教史Ⅰ	1 2	2	
宗教史Ⅱ	1 2	2	
宗教文化研究A	2 3	2	
宗教文化研究B	2 3	2	
宗教文化研究C	2 3	2	
宗教文化研究D	2 3	2	
現代宗教論	2 3	2	
比較宗教論	2 3	2	
哲学・宗教課題研究Ⅰ	3	2	
哲学・宗教課題研究Ⅱ	3	2	
哲学・宗教課題研究Ⅲ	4	2	
哲学・宗教課題研究Ⅳ	4	2	

#### ○分野別門

#### 哲学・宗教文化

次頁に続く

● 分野別  
部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
異文化の理解A	1	2	
異文化の理解B	1	2	
異文化の理解C	1	2	
異文化の理解D	1	2	
異文化の理解E	1	2	
異文化研究の展開 I -A	2 3	2	
異文化研究の展開 I -B	2 3	2	
異文化研究の展開 I -C	2 3	2	
異文化研究の展開 I -D	2 3	2	
異文化研究の展開 I -E	2 3	2	
異文化研究の展開 II -A	2 3	2	
異文化研究の展開 II -B	2 3	2	
異文化研究の展開 II -C	2 3	2	
異文化研究の展開 II -D	2 3	2	
異文化研究の展開 II -E	2 3	2	
異文化特別研究 I	1 2	2	
異文化特別研究 II	1 2	2	
異文化特別研究 III	2 3	2	
異文化特別研究 IV	2 3	2	
ワークショップ I	2 3 4	2	
ワークショップ II	2 3 4	2	
異文化課題研究 I	3	2	
異文化課題研究 II	3	2	
異文化課題研究 III	4	2	
異文化課題研究 IV	4	2	
卒業論文	4	8	
卒業研究	4	8	

カルチャースタディーズ  
コースの者は、8単位履修すること

8単位選択必修

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。  
別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。  
第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。  
第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目（任意）との合計が88単位以上となるように修得すること。  
第Ⅲ類科目=30単位まで  
第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

## 教職科目

## ● 教職関連部門

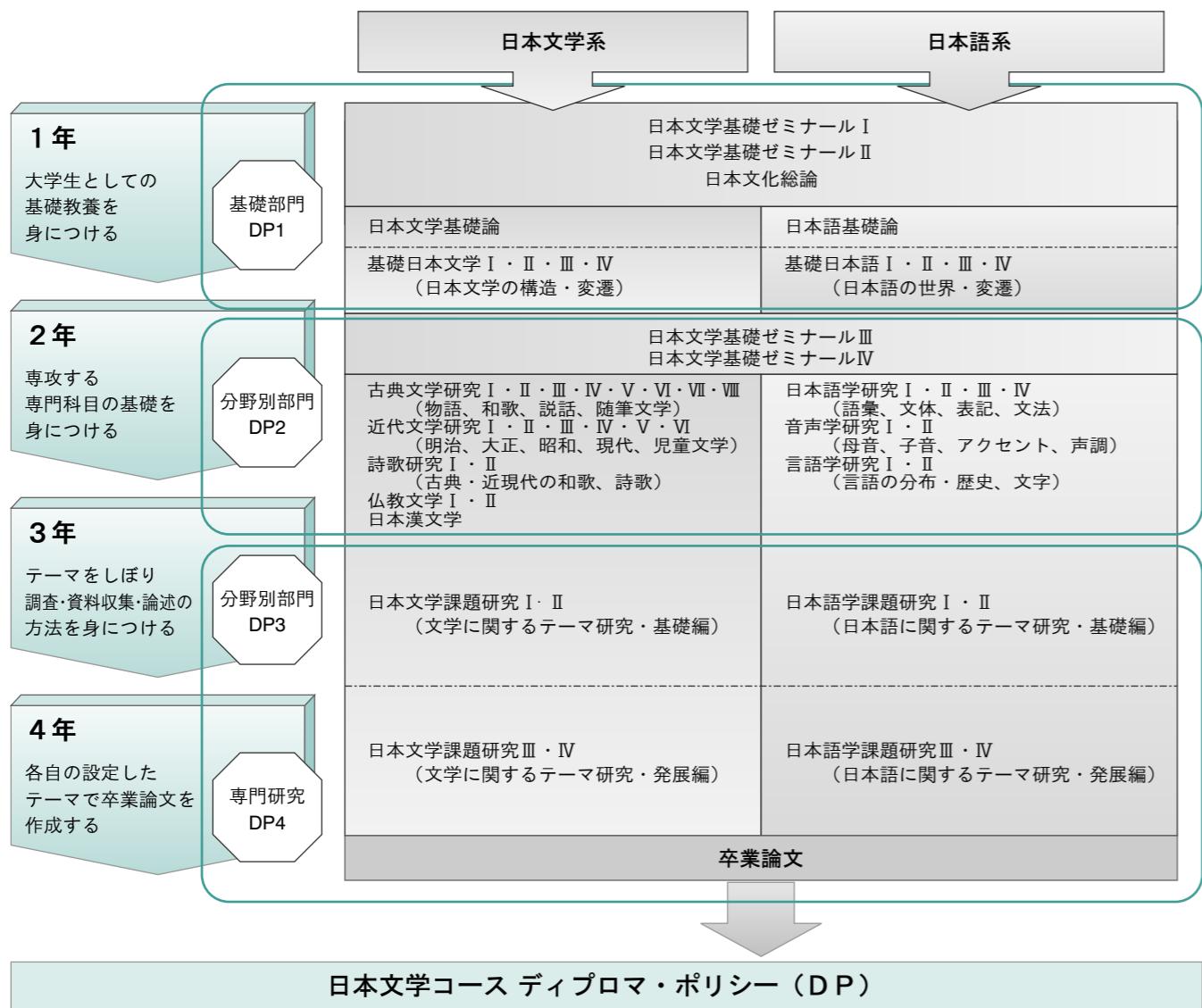
教職関連部門	授業科目の名称	履修年次	単位	備考
	法律学概論(国際法を含む。)	2 3 4	2	教職資格登録者のみ 履修可。
	政治学概論(国際政治を含む。)	2 3 4	2	
	社会学入門	2 3 4	4	
	経済学概論(国際経済を含む。)	2 3 4	2	
	哲学入門	2 3 4	2	
	宗教学入門	2 3 4	2	
	心理学概説	2 3 4	2	

■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。  
また、履修制限単位の対象外とする。  
■ 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。  
■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

## ● 卒業論文・卒業研究

## 日本文学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

日本文学科日本文学コースでは教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



## ○ 基礎部門

## 基礎部門

## ○ 分野別部門

## 日本文学

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目8単位必修
基礎ゼミナールⅡ	1	2	
基礎ゼミナールⅢ	2	2	
基礎ゼミナールⅣ	2	2	
日本文化総論	1	2	3科目6単位必修
日本文学基礎論	1	2	
日本語基礎論	1	2	
哲学・思想基礎論	1	2	
宗教文化論	1	2	
カルチュラルスタディーズ総論	1	2	
文化人類学	1	2	
表現文化論	1	2	
基礎日本文学Ⅰ	1 2	2	
基礎日本文学Ⅱ	1 2	2	
基礎日本文学Ⅲ	1 2	2	
基礎日本文学Ⅳ	1 2	2	
基礎日本語Ⅰ	1 2	2	
基礎日本語Ⅱ	1 2	2	
基礎日本語Ⅲ	1 2	2	
基礎日本語Ⅳ	1 2	2	
古典文学研究Ⅰ	2 3	2	
古典文学研究Ⅱ	2 3	2	
古典文学研究Ⅲ	2 3	2	
古典文学研究Ⅳ	2 3	2	
古典文学研究Ⅴ	2 3	2	
古典文学研究Ⅵ	2 3	2	
古典文学研究Ⅶ	2 3	2	
古典文学研究Ⅷ	2 3	2	
詩歌研究Ⅰ	2 3	2	
詩歌研究Ⅱ	2 3	2	
近代文学研究Ⅰ	2 3	2	
近代文学研究Ⅱ	2 3	2	
近代文学研究Ⅲ	2 3	2	
近代文学研究Ⅳ	2 3	2	
近代文学研究Ⅴ	2 3	2	
近代文学研究Ⅵ	2 3	2	
日本語学研究Ⅰ	2 3	2	
日本語学研究Ⅱ	2 3	2	
日本語学研究Ⅲ	2 3	2	
日本語学研究Ⅳ	2 3	2	
音声学研究Ⅰ	2 3	2	
音声学研究Ⅱ	2 3	2	
言語学研究Ⅰ	2 3	2	
言語学研究Ⅱ	2 3	2	
仏教文学Ⅰ	2 3	2	
仏教文学Ⅱ	2 3	2	
日本漢文学	2 3	2	
日本文学課題研究Ⅰ	3	2	
日本文学課題研究Ⅱ	3	2	
日本文学課題研究Ⅲ	4	2	
日本文学課題研究Ⅳ	4	2	
日本語学課題研究Ⅰ	3	2	
日本語学課題研究Ⅱ	3	2	
日本語学課題研究Ⅲ	4	2	
日本語学課題研究Ⅳ	4	2	

授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
卒業論文・卒業研究	卒業論文 卒業研究	4 4	8 8
			8単位選択必修

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。  
第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。  
第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目（任意）との合計が88単位以上となるように修得すること。  
第Ⅲ類科目=30単位まで  
第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

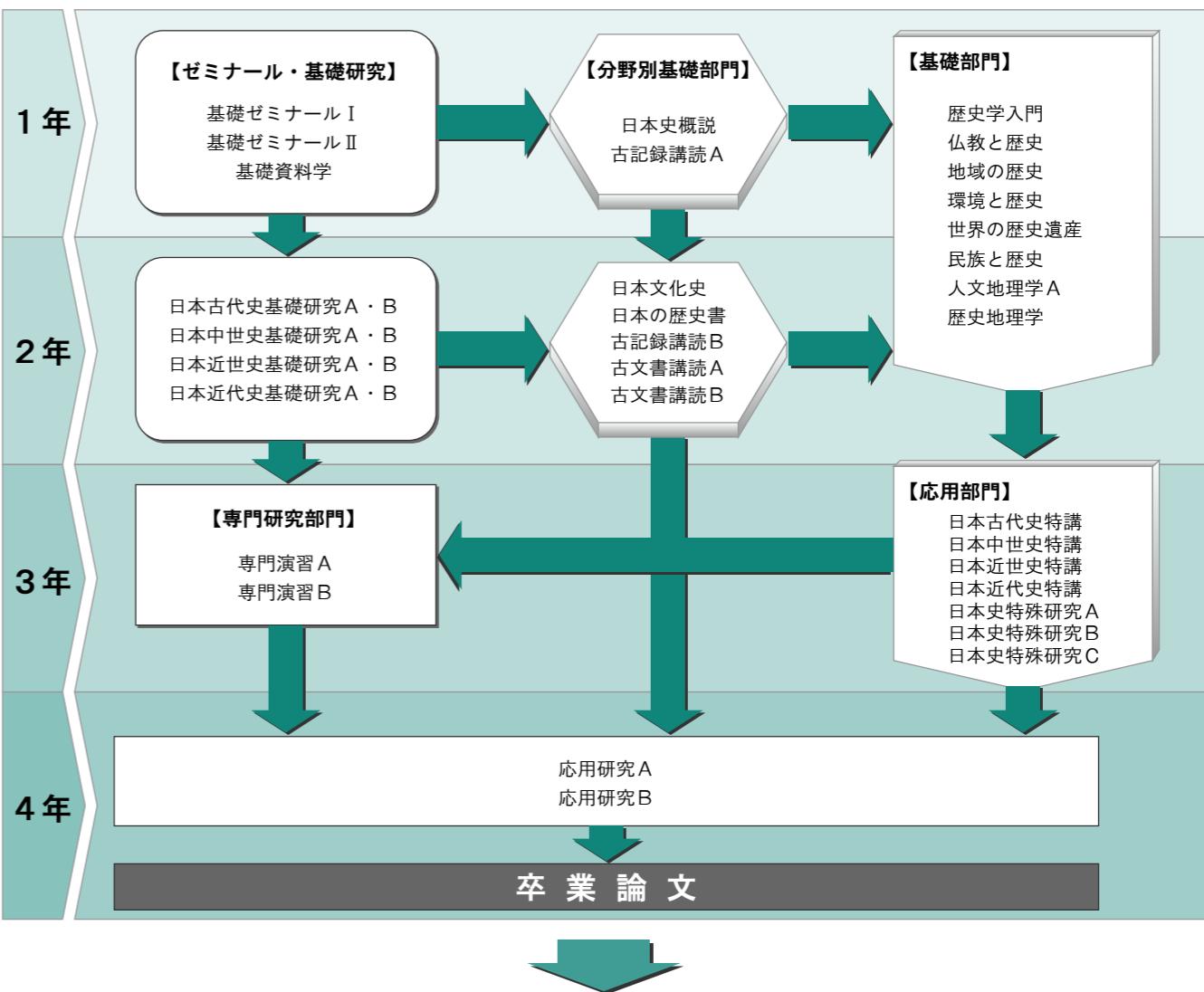
教職科目	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
○ 教職関連部門	書写技術研究A 書写技術研究B	2 2	3 3	4 4
			2	教職資格登録者のみ 履修可。

■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。  
また、履修制限単位の対象外とする。  
■ 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。  
■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

文学部  
歴史学科  
日本史コース

歴史学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

日本史コースでは教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



日本史コース ディプロマ・ポリシー (DP)

①知識・理解

日本の歴史や文化の知識を身につけ、自ら調べ自ら分析することができる

②思考・判断

歴史の知識と史・資料の分析にもとづき、事実を明らかにする思考力を身につけている

③技能・表現

歴史を研究するために必要な基本的能力を持ち、その成果を表現することができる

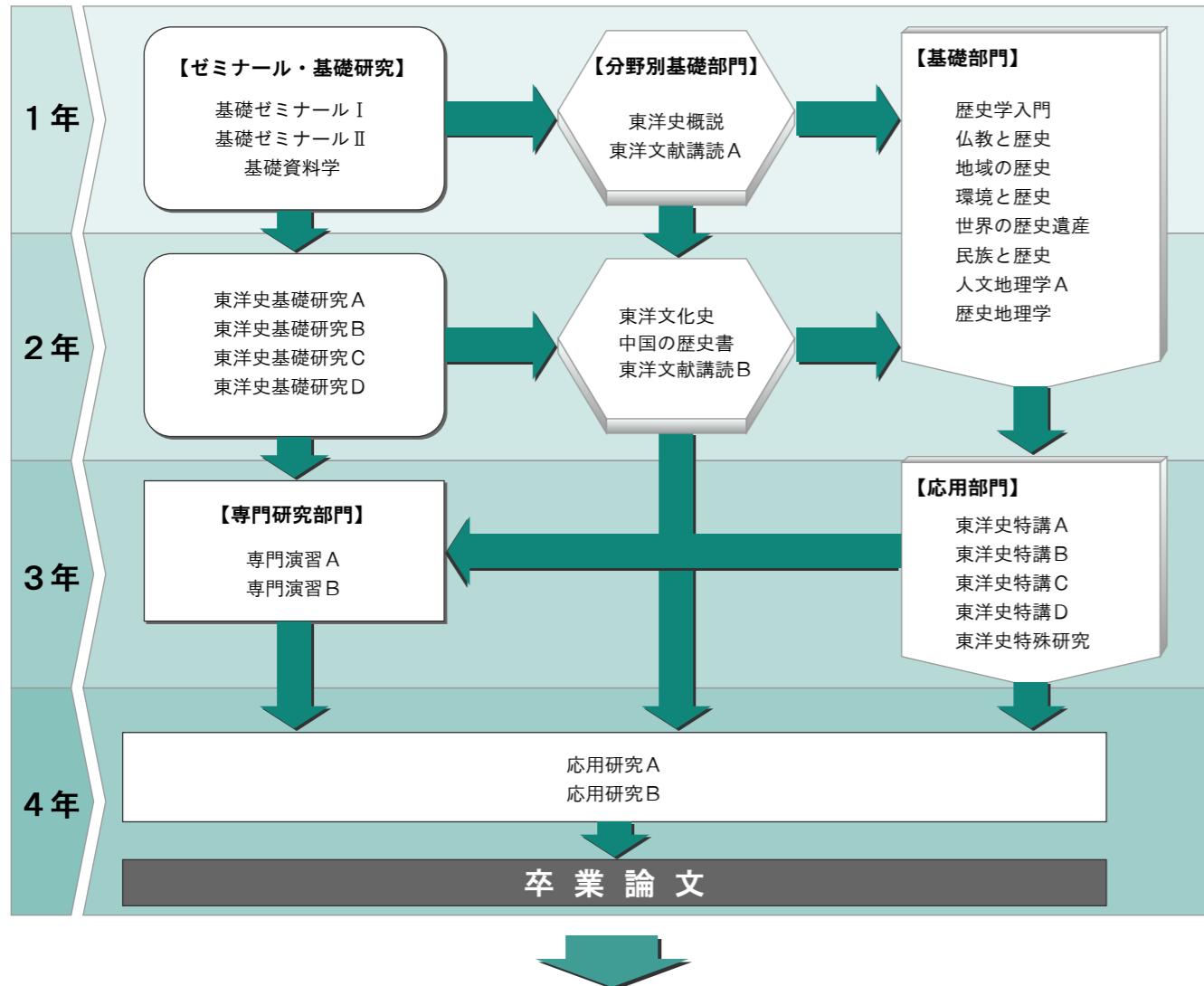
④关心・意欲・態度

歴史学を学んで得た知識と能力をいかし、社会に貢献することができる

文学部  
歴史学科  
東洋史コース

歴史学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

東洋史コースでは教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



東洋史コース ディプロマ・ポリシー (DP)

①知識・理解

中国を中心としたアジアの歴史の知識を身につけ、自ら調べ理解することができる

②思考・判断

歴史の知識と史・資料の分析にもとづき、事実を明らかにする思考力を身につけている

③技能・表現

歴史を研究するために必要な基本的能力を持ち、その成果を表現することができる

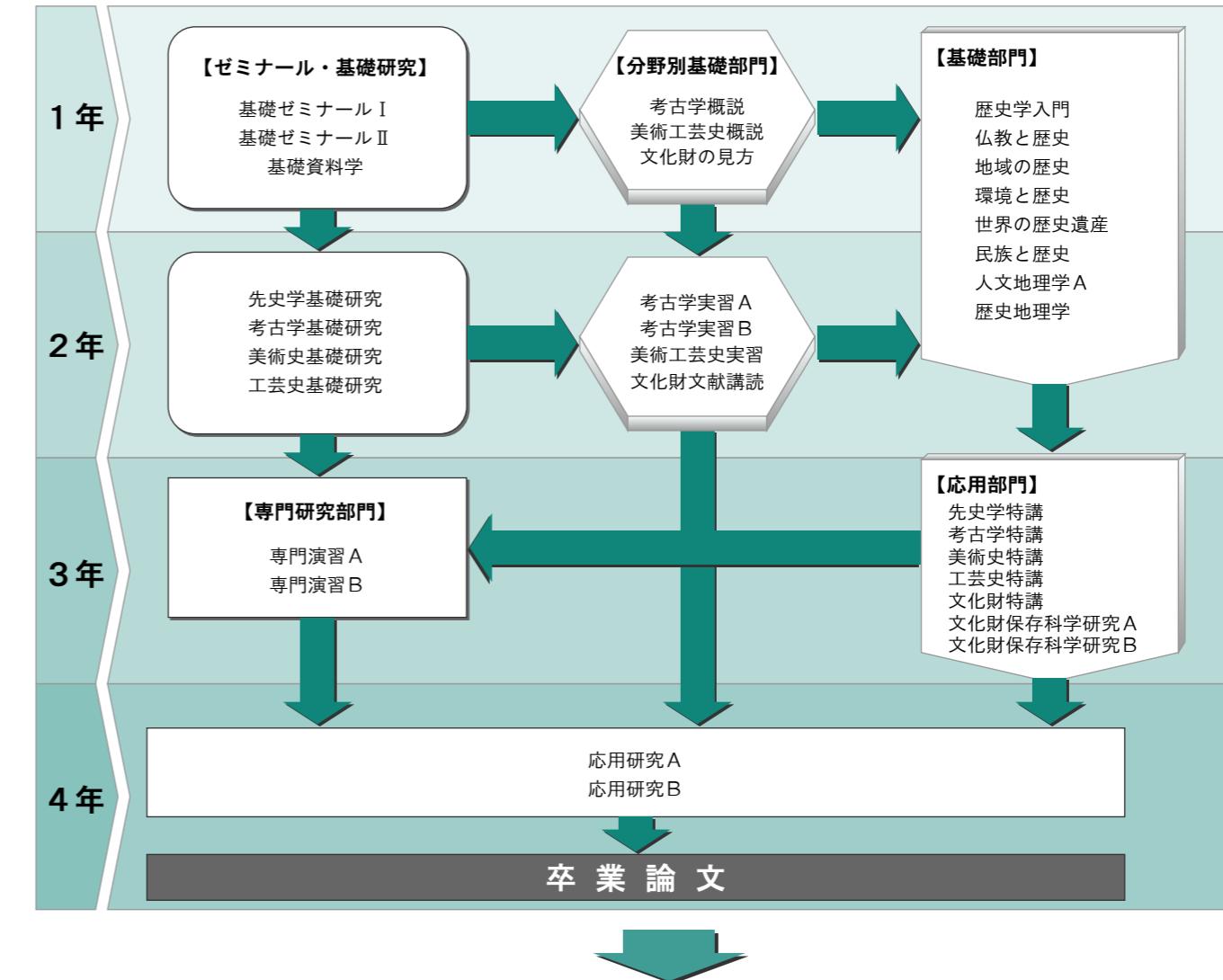
④関心・意欲・態度

歴史学を学んで得た知識と能力をいかし、社会に貢献することができる

文学部  
歴史学科  
文化財・考古学  
コース

歴史学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

文化財・考古学コースでは教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



文化財・考古学コース ディプロマ・ポリシー (DP)

①知識・理解

日本および日本に関する東アジアの歴史や文化の知識を身につけ、自ら探究することができる

②思考・判断

文化財の観察と分析を通して、事実を明らかにする思考力を身につけている

③技能・表現

文化財を研究するために必要な基本的能力を持ち、その成果を表現することができる

④関心・意欲・態度

歴史を学んで得た知識と能力をいかし、社会に貢献することができる

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目8単位必修 ※12単位以上
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	基礎資料学	1	2	
	歴史学入門	1	2	
	仏教と歴史	1	2	
	地域の歴史	1	2	
	環境と歴史	1	2	
	世界の歴史遺産	1	2	
	民族と歴史	1	2	
	人文地理学A	1 2	2	
分野別基礎部門	歴史地理学	1 2 3	2	注1 ※主専攻の系を中心 に24単位以上
	日本史概説	1 2	4	
	日本文化史A	1 2	2	
	日本の歴史書	1 2	2	
	古記録講読A	1	2	
	古記録講読B	2	2	
	古文書講読A	2	2	
	古文書講読B	2	2	
	日本古代史基礎研究A	2	2	
	日本古代史基礎研究B	2	2	
東洋史系	日本中世史基礎研究A	2	2	注2 ※文化財を主専攻とする者 は博物館実習Ⅰ・Ⅱを履 修すること
	日本中世史基礎研究B	2	2	
	日本近世史基礎研究A	2	2	
	日本近世史基礎研究B	2	2	
	日本近代史基礎研究A	2	2	
	日本近代史基礎研究B	2	2	
	東洋史概説	1 2	4	
	東洋文化史	1 2	2	
	中国の歴史書	1 2	2	
	東洋文献講読A	1	2	
文化財・考古学系	東洋文献講読B	2	2	※4単位以上
	東洋史基礎研究A	2	2	
	東洋史基礎研究B	2	2	
	東洋史基礎研究C	2	2	
	東洋史基礎研究D	2	2	
	考古学概説	1 2	4	
	美術工芸史概説	1 2	4	
	文化財の見方	1 2	2	
	文化財文献講読	2	2	
	先史学基礎研究	2	2	

次頁に続く

授業科目の名称		履修年次	単位	備 考
日本史系	日本古代史特講	3	2	※主専攻の系を中心に 14単位以上
	日本中世史特講	3	2	
	日本近世史特講	3	2	
	日本近代史特講	3	2	
	日本史特殊研究A	3	4	
	日本史特殊研究B	3	4	
	日本史特殊研究C	3	4	
	東洋史特講A	3	2	
	東洋史特講B	3	2	
	東洋史特講C	3	2	
東洋史系	東洋史特講D	3	2	
	東洋史特殊研究	3	4	
	先史学特講	3	2	
	考古学特講	3	2	
	美術史特講	3	2	
	工芸史特講	3	2	
	文化財特講	3	2	
	文化財保存科学研究A	3	2	
	文化財保存科学研究B	3	2	
	西洋史概説	1 2	4	4単位必修
文化財・考古学系	民俗学概論	1 2	2	
	人文地理学B	2	2	
	自然地理学A	2	2	
	自然地理学B	2	2	
	地誌学	2	2	
	キリスト教文化史	2	2	
	博物館概論	1 2	2	
	博物館資料論	2	2	
	博物館経営論	2	2	
	博物館資料保存論	2	2	
関連資格部門	博物館展示論	2	2	4単位必修
	博物館情報・メディア論	2	2	
	博物館教育論	2	2	
	博物館実習Ⅰ－A	3	1	
	博物館実習Ⅰ－B	3	1	
	博物館実習Ⅰ－C	3	2	
	博物館実習Ⅱ	4	2	
	専門演習A	3	4	
	専門演習B	3	4	
	応用研究A	4	2	
専門研究部門	応用研究B	4	2	4単位必修
	卒業論文	4	8	
卒業論文				8単位必修

※印の単位数は「必修」ではなく、「履修することが強く望まれる単位数」を示す。  
■履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

- [1]別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。
- [2]第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。  
第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目（任意）との合計が88単位以上となるように修得すること。
- [3]第Ⅲ類科目=30単位まで  
第Ⅲ類科目を卒業単位として認定できる単位数は、30単位までとする。

1. 東洋史コースの学生は、世界の言語（中国語）を修得することを望む。
2. 博物館実習Ⅰ-A・Ⅰ-Bは、同一内容・同一教員を重ねて履修できない。
3. 専門ゼミの履修は学科の指導にしたがうこと。

- 先修制科目……以下の科目は順次履修すること（◆印）。  
博物館実習Ⅰ-A → 博物館実習Ⅰ-B・Ⅰ-C → 博物館実習Ⅱ

- 注1. 古記録講読A・古文書講読A 各2単位を優先履修すること。
- 注2. 東洋文献講読Aを優先履修すること。

教職科目	授業科目の名称	履修年次	単位	備考
○ 教職関連部門	法律学概論（国際法を含む。）	2 3 4	2	
教職関連部門	政治学概論（国際政治を含む。）	2 3 4	2	
	社会学入門	2 3 4	4	
	経済学概論（国際経済を含む。）	2 3 4	2	
	哲学入門	2 3 4	2	
	現代倫理学	2 3 4	2	
	宗教学入門	2 3 4	2	

- 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。  
また、履修制限単位の対象外とする。
- 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。
- 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

第Ⅱ類科目は、各自が所属する学科の専門教育科目である。履修すべき総単位（124単位）のうち、各学科平均70単位を要することになっており、大学教育の根幹をなす科目群である。  
その構成は学科によって異なるが、おおよそ以下のとおりである。

## 1. ワークショップ

体験的授業を通して、柔軟な思考力と表現するための技術を身につける。  
\*表現文化学科ワークショップ：学科全体のテーマに沿って、全員で一つの大きなプロジェクトに取り組み、チームごとのディスカッションを通して作品を作り上げ、発表イベントを行う。  
\*コース別ワークショップ：各コースの専門性を重視したテーマに取り組み、自分の将来像につなげる実践的学習方法を身につける。

## 2. 学科の基礎部門・分野部門

専門教育科目は大きく、基礎部門と分野部門に分類されており、履修要件が異なる。  
\*基礎部門は、表現文化学科の学生として必要な基礎力を身につける。  
5コースの基礎的な内容を学ぶことによって、表現するさまざまな方法を学ぶことができる。  
\*分野部門は、クリエイティブライティングコース、出版・編集コース、放送・映像表現コース、英語表現・コミュニケーションコース、エンターテインメントビジネスコースそれぞれで、専門に特化した科目群がある。コースの教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

## 3. 表現する—書く・話す・撮る

書くことで創作の喜びを知る。映像や音声で自分の考えを発信する。英語によって世界の人とつながる。卒業時には、学生のみなさんが大学において学んだことの集大成を形にしていくよう、1年生のうちから十分に基礎学習を積み上げることが大切である。

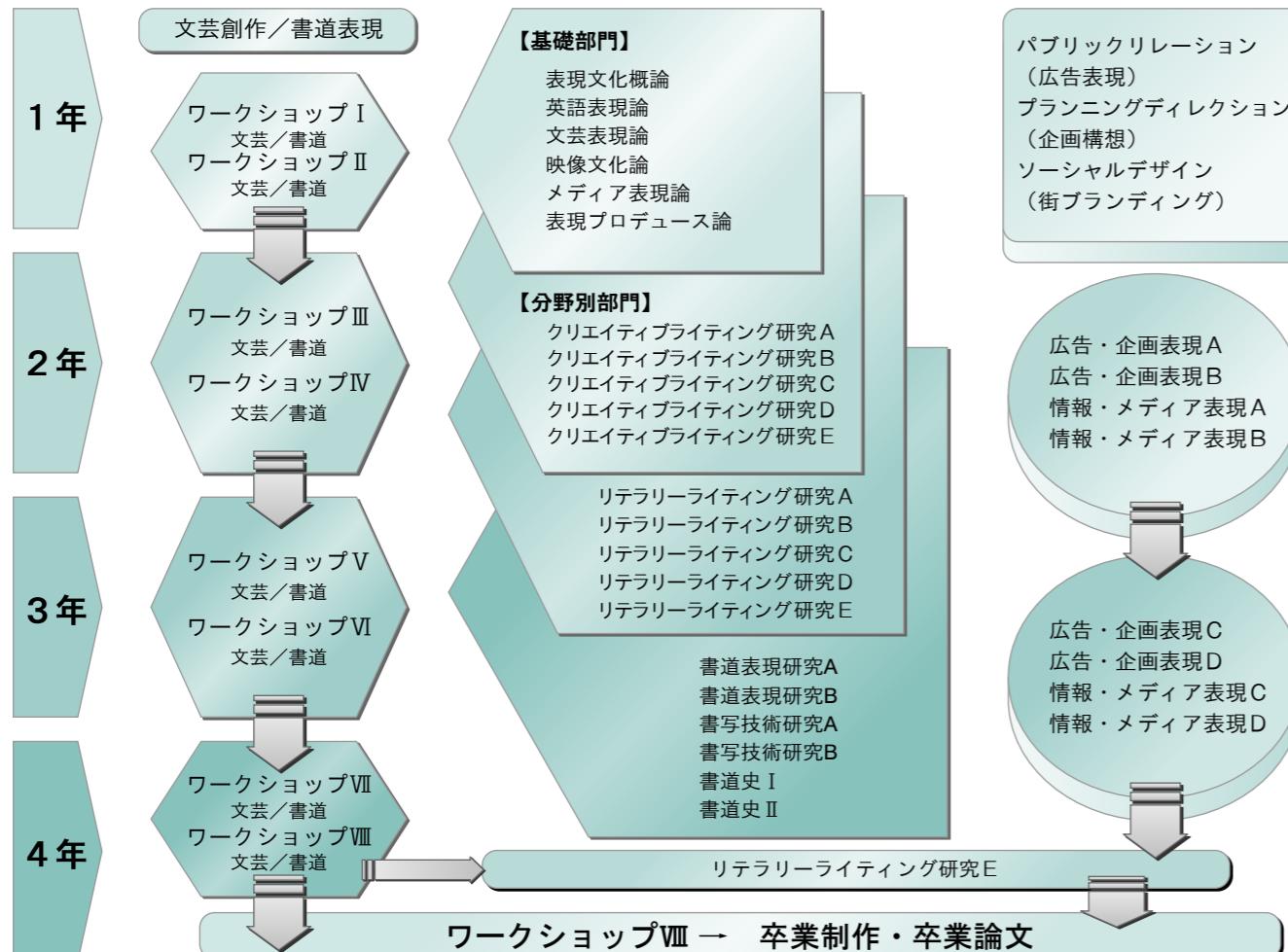
## 4. ディプロマ・ポリシー(DP)

本学では、コースごとにDP（卒業時の到達目標）を掲げている。  
学生諸君が、各コースの授業を適切に履修できた場合、それぞれに列挙したような能力や態度を身につけることができる。  
まずは、自分のコースのDPを読んでほしい。そして、自らの卒業時点での姿を想像し、卒業に向けた目標としてほしい。

表現学部  
表現文化学科  
クリエイティブ  
ライティング  
コース

表現文化学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

クリエイティブライティングコースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



クリエイティブライティングコース ディプロマ・ポリシー（DP／抜粋）

①知識・理解

近代以降の日本の代表的な文学作品に関する知識を持ち、自分の好きな作品と作者について的確に説明できる

②専門的技能

独自の視点で物事を見る観察力と独特的な発想力を身につけている

③汎用的技能

書物・資料を読んだ上で内容を理解し、要約し的確に自分の考えを表現することができる

④態度・志向性

過去の作品に対するリスペクトと、新たな作品を創作しようとする意欲を持っている

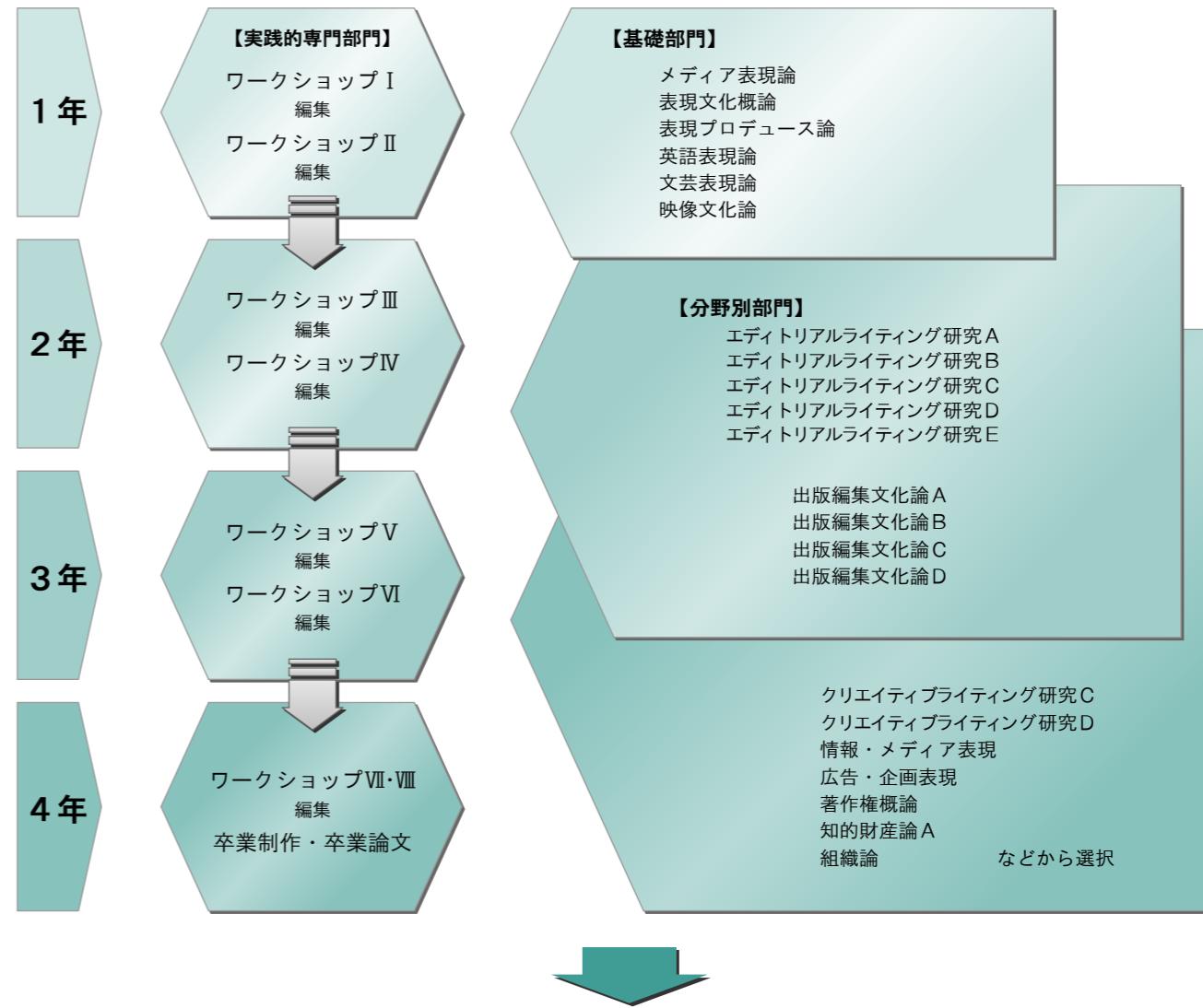
⑤総合的な学習経験と創造的思考力

創作の喜びと新しいものを作り上げる醍醐味を理解している

表現学部  
表現文化学科  
出版・編集  
コース

表現文化学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

出版・編集コースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



出版・編集コース ディプロマ・ポリシー（DP）

①知識・理解

人間の文化を支え広めてきた出版・編集についての幅広い知識をもち、かつ多様なメディアの特色を理解している

②思考・判断

過去の出版物から学ぶとともに、オリジナルな発想と視点を大切にした、創造的な思考力を身につけている

③技能・表現

企画から出版物を完成させるまで、編集に必要な基本的技能や技術を習得している

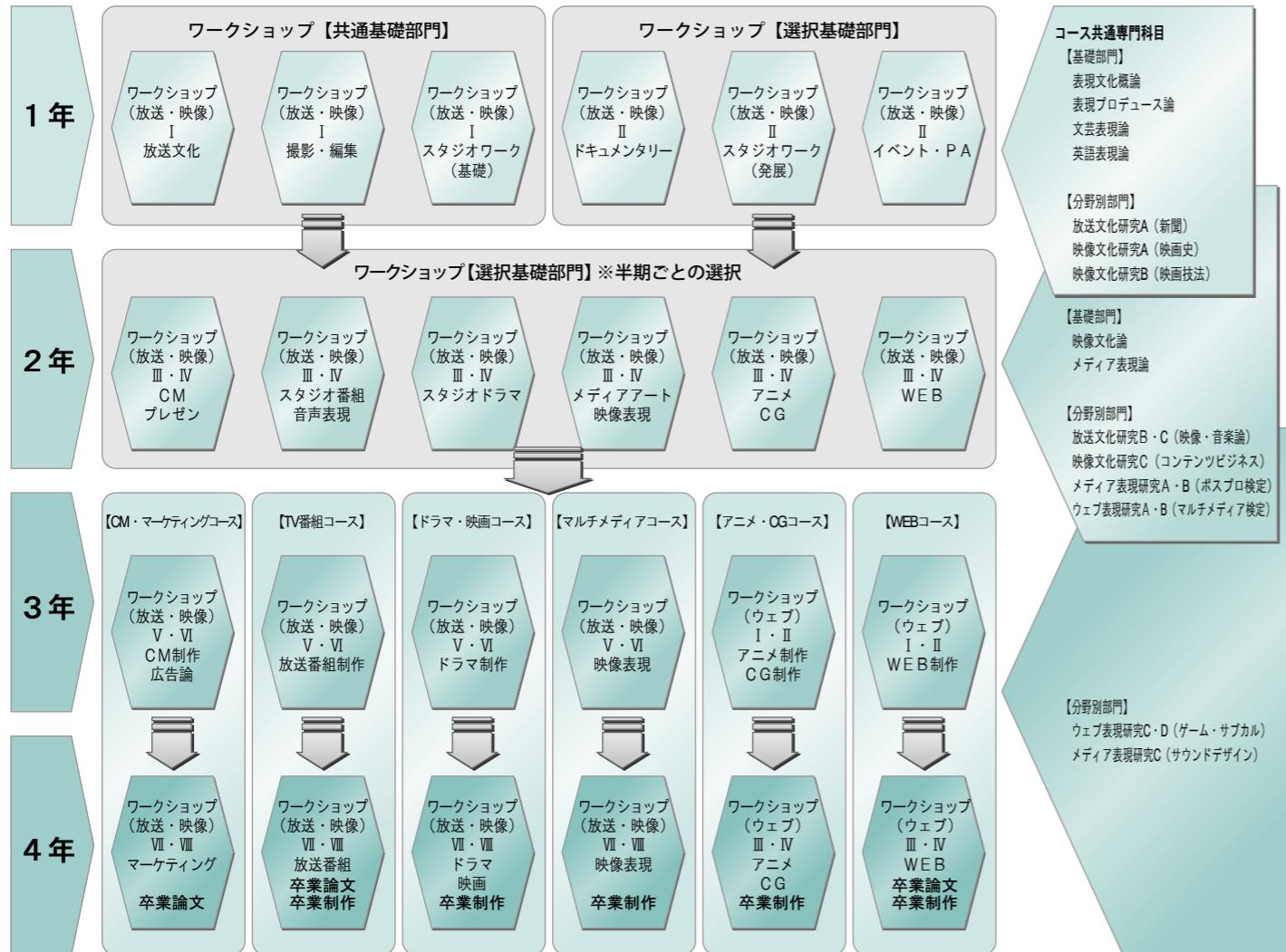
④関心・意欲・態度

社会の出来事に対して好奇心をもち、それを「わがこと」としてとらえる想像力と優しさをもっている

表現学部  
表現文化学科  
放送・映像表現  
コース

表現文化学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

放送・映像表現コースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



放送・映像表現コース ディプロマ・ポリシー (DP)

①知識・理解

歴史や社会情勢を理解し、映像作品を制作する目的を持っている。また作品講評ができる

②思考・判断

映像作品を制作するための技術が身についている

③技能・表現

グループワークで映像作品が制作でき、制作中に発生する諸問題を解決することができている

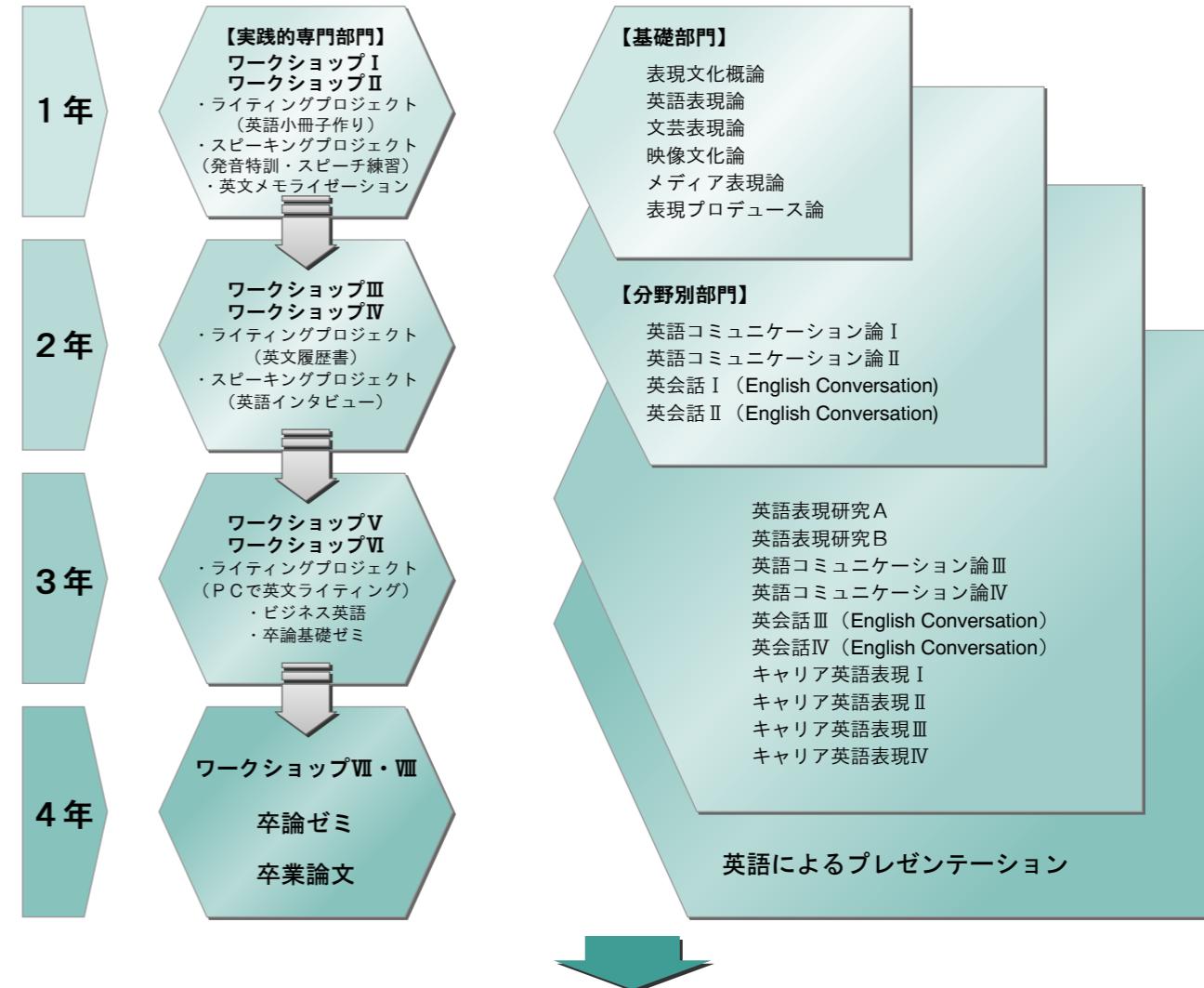
④関心・意欲・態度

社会に向けて発信する作品が作れている

表現学部  
表現文化学科  
英語表現・  
コミュニケーション  
コース

表現文化学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

英語表現・コミュニケーションコースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



英語表現・コミュニケーションコース ディプロマ・ポリシー (DP)

①知識・理解

異文化を理解することで、日本文化を再認識し、国際間の文化摩擦を回避できる知識を持ち、国際的な規範で行動できる

②思考・判断

英語による論理的思考を身につけ、日本の思考とのコミュニケーションギャップを乗り越える判断力を持つことができる

③技能・表現

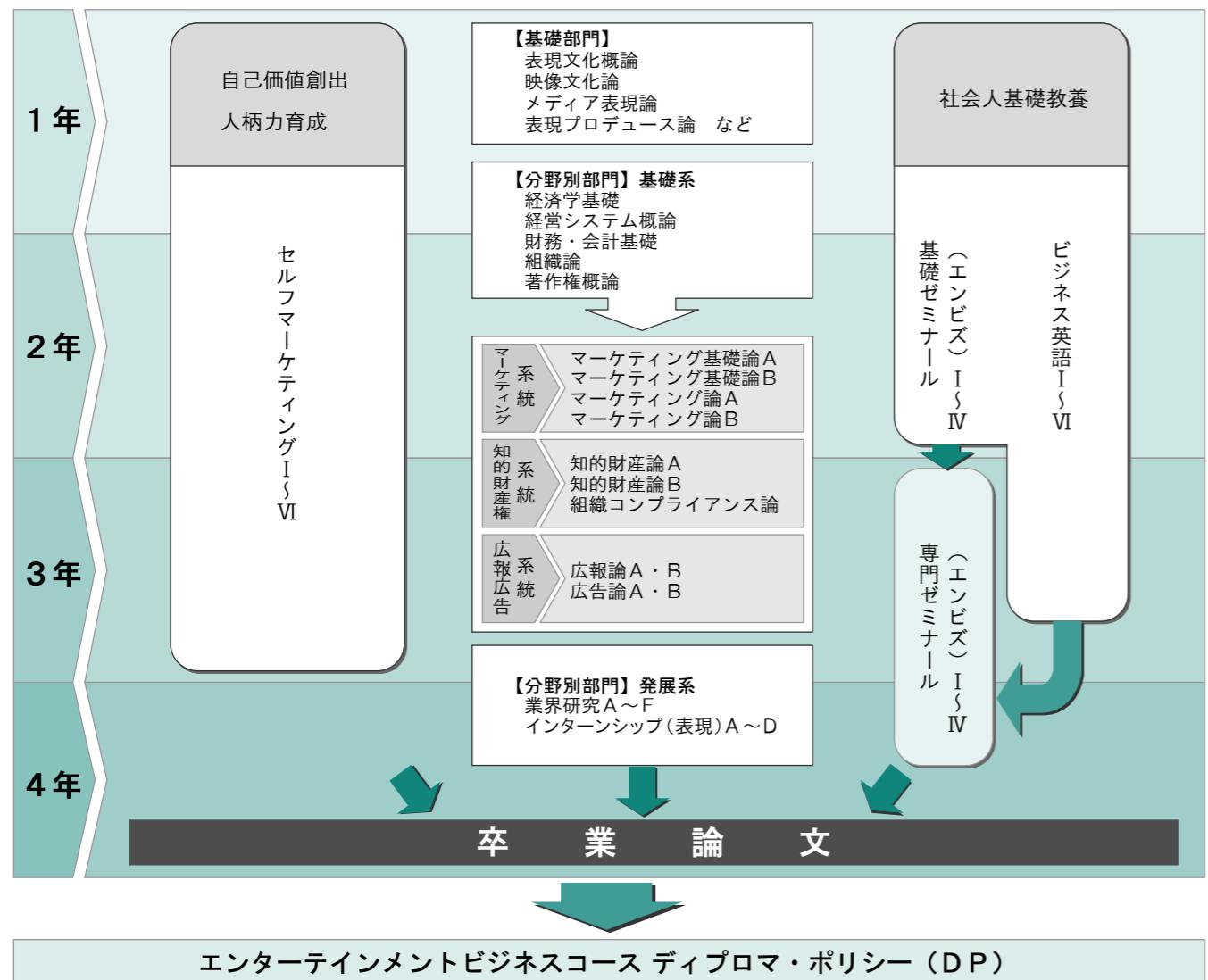
日本の情勢を的確に世界に発信できる英語コミュニケーション能力を持ち、世界の人々と相互対話ができる表現力を持つことができる

④関心・意欲・態度

世界情勢に关心を持ち、国際共同作業に携わる意欲があり、相手の文化や価値観を敬う態度を身につけることができる

## 表現文化学科専門科目（第Ⅱ類科目）の履修について

エンターテインメントビジネスコースでは、教育ビジョン「4つの人となる」に即し、ディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）【下記参照】を設定しています。学生のみなさんは、このDPを実現するために、以下のように構成されたカリキュラムで4年間学んでいきます。



## ①知識・理解

企業、マネジメント（経営）に関する専門知識を身につけ、「表現+マネジメント」を目標に、多様な表現の特性を理解し、実社会において、総合的にマネジメントするためのマーケティング知識を身につけている。

## ②思考・判断

マーケティングの手法によって、客観的指標を判断基準にえることができる。また、ひとつのプロジェクトを複数の視点からとらえられ、解決にむけてマルチタスク処理ができる。

## ③技能・表現

事務処理能力が高く、実務の現場において、即戦力となりうる技能・表現力を持っている。また、異文化・多文化理解の上に立って、全方位型の構想力を持ち、国際ビジネス社会に、自身の価値（セルフ・バリュー）を売り込むことができる。

## ④関心・意欲・態度

社会参画意識が高く、社会で働く自己イメージを明確に描き、社会でおこっている出来事を自分との関わりという視点でとらえなおすことができる。

## ○ 基礎部門

## 基礎部門

## ○ 分野別部門

## 分野別部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備考
表現文化概論	1 2	2	
英語表現論	1	2	
文芸表現論	1	2	
映像文化論	2 3	2	
メディア表現論	2 3	2	
表現プロデュース論	1	2	
クリエイティブライティング研究A	1 2	2	
クリエイティブライティング研究B	1 2 3	2	
クリエイティブライティング研究C	1 2 3	2	
クリエイティブライティング研究D	1 2 3	2	
クリエイティブライティング研究E	1 2 3	2	
リテラリーライティング研究A	2 3 4	2	
リテラリーライティング研究B	3	2	
リテラリーライティング研究C	2 3 4	2	
リテラリーライティング研究D	2 3 4	2	
リテラリーライティング研究E	4	2	
広告・企画表現A	2 3	4	
広告・企画表現B	2 3	4	
広告・企画表現C	3 4	4	
広告・企画表現D	3 4	4	
情報・メディア表現A	2 3	4	
情報・メディア表現B	2 3	4	
情報・メディア表現C	3 4	4	
情報・メディア表現D	3 4	4	
エディトリアルライティング研究A	2 3	2	
エディトリアルライティング研究B	2 3 4	2	
エディトリアルライティング研究C	2 3 4	2	
エディトリアルライティング研究D	2 3 4	2	
エディトリアルライティング研究E	2 3 4	2	
出版編集文化論A	2 3 4	2	
出版編集文化論B	2 3 4	2	
出版編集文化論C	2 3 4	2	
出版編集文化論D	2 3 4	2	
メディア表現研究A	2 3	2	
メディア表現研究B	2 3	2	
メディア表現研究C	2 3	2	
映像文化研究A	1 2	2	
映像文化研究B	1 2 3	2	
映像文化研究C	2 3	2	
放送文化研究A	1 2 3	2	
放送文化研究B	2 3	2	
放送文化研究C	2 3	2	
英語表現研究A	2 3	2	
英語表現研究B	2 3	2	
英語コミュニケーション論 I	1 2	2	
英語コミュニケーション論 II	1 2	2	
英語コミュニケーション論 III	2 3	2	
英語コミュニケーション論 IV	2 3	2	
キャリア英語表現 I	2 3	2	
キャリア英語表現 II	2 3	2	
キャリア英語表現 III	3 4	2	
キャリア英語表現 IV	3 4	2	

3科目 6単位必修

## ● 分野別部門

授業科目的名称	履修年次	単位	備考
英語学概論A	2 3	2	
英語学概論B	2 3	2	
英米文学概論A	2 3	2	
英米文学概論B	2 3	2	
ウェブ表現研究A	1 2 3	2	
ウェブ表現研究B	2 3	2	
ウェブ表現研究C	2 3	2	
ウェブ表現研究D	2 3	2	
書道表現研究A	1 2	2	
書道表現研究B	1 2	2	
書写技術研究A	2 3	2	
書写技術研究B	2 3	2	
書道史 I	2 3	2	
書道史 II	2 3	2	
セルフマーケティング I	1	2	
セルフマーケティング II	1	2	
セルフマーケティング III	2	2	
セルフマーケティング IV	2	2	
セルフマーケティング V	3	2	
セルフマーケティング VI	3	2	
ビジネス英語 I	1	1	
ビジネス英語 II	1	1	
ビジネス英語 III	2	1	
ビジネス英語 IV	2	1	
ビジネス英語 V	3	2	
ビジネス英語 VI	3	2	
経済学基礎	1 2	2	
経営システム概論	1 2	2	
財務・会計基礎	1 2	2	
組織論	1 2	2	
表現マネジメント研究A	2 3	2	
表現マネジメント研究B	2 3	2	
表現マネジメント研究C	2 3	2	
表現マネジメント研究D	2 3	2	
マーケティング基礎論 A	1 2	2	
マーケティング基礎論 B	1 2	2	
マーケティング論 A	2 3	2	
マーケティング論 B	2 3	2	
広報論 A	2 3 4	2	
広報論 B	2 3 4	2	
広告論 A	2 3 4	2	
広告論 B	2 3 4	2	
著作権概論	1 2 3 4	2	
知的財産論 A	1 2 3 4	2	
知的財産論 B	1 2 3 4	2	
組織コンプライアンス論	2 3 4	2	

次頁に続く

## ● 分野別部門

授業科目的名称	履修年次	単位	備考
ワークショップ(文芸) I	1	6	
ワークショップ(文芸) II	1	6	
ワークショップ(文芸) III	2	6	
ワークショップ(文芸) IV	2	6	
ワークショップ(文芸) V	3	6	
ワークショップ(文芸) VI	3	6	
ワークショップ(文芸) VII	4	6	※注1
ワークショップ(文芸) VIII	4	6	
ワークショップ(編集) I	1	6	
ワークショップ(編集) II	1	6	
ワークショップ(編集) III	2	6	
ワークショップ(編集) IV	2	6	
ワークショップ(編集) V	3	6	
ワークショップ(編集) VI	3	6	
ワークショップ(編集) VII	4	6	※注1
ワークショップ(編集) VIII	4	6	
ワークショップ(放送・映像) I	1	6	
ワークショップ(放送・映像) II	1	6	
ワークショップ(放送・映像) III	2	6	
ワークショップ(放送・映像) IV	2	6	
ワークショップ(放送・映像) V	3	6	
ワークショップ(放送・映像) VI	3	6	
ワークショップ(放送・映像) VII	4	6	※注1
ワークショップ(放送・映像) VIII	4	6	
ワークショップ(英語) I	1	6	
ワークショップ(英語) II	1	6	
ワークショップ(英語) III	2	6	
ワークショップ(英語) IV	2	6	
ワークショップ(英語) V	3	6	
ワークショップ(英語) VI	3	6	
ワークショップ(英語) VII	4	6	※注1
ワークショップ(英語) VIII	4	6	
ワークショップ(ウェブ) I	3	6	
ワークショップ(ウェブ) II	3	6	
ワークショップ(ウェブ) III	4	6	※注1
ワークショップ(ウェブ) IV	4	6	
ワークショップ(書道) I	1	6	
ワークショップ(書道) II	1	6	
ワークショップ(書道) III	2	6	
ワークショップ(書道) IV	2	6	
ワークショップ(書道) V	3	6	
ワークショップ(書道) VI	3	6	
ワークショップ(書道) VII	4	6	※注1
ワークショップ(書道) VIII	4	6	
基礎ゼミナー(エンビズ) I	1	2	
基礎ゼミナー(エンビズ) II	1	2	
基礎ゼミナー(エンビズ) III	2	2	
基礎ゼミナー(エンビズ) IV	2	2	
専門ゼミナー(エンビズ) I	3	2	
専門ゼミナー(エンビズ) II	3	2	
専門ゼミナー(エンビズ) III	4	6	※注1
専門ゼミナー(エンビズ) IV	4	6	

次頁に続く

## 関連分野科目について

## 関連分野科目

## ● 共通部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
業界研究A	2 3 4	2	
業界研究B	2 3 4	2	
業界研究C	2 3 4	2	
業界研究D	2 3 4	2	
業界研究E	2 3 4	2	
業界研究F	2 3 4	2	
インターンシップ(表現)A	1 2 3 4	2	
インターンシップ(表現)B	1 2 3 4	2	
インターンシップ(表現)C	2 3 4	2	
インターンシップ(表現)D	2 3 4	2	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の備考欄の指示にしたがい修得すること。

[2] 第Ⅱ類科目+第Ⅲ類科目=88単位以上。

第Ⅱ類科目と第Ⅲ類科目が88単位以上となるように修得すること。

第Ⅲ類科目=30単位まで

注1 12単位選択必修(卒業論文、卒業制作を含む)

注2 英語表現・コミュニケーションコースの者は、英会話(第Ⅰ類)を修得することを望む。

## ◆ 関連分野科目の履修方法

1 この関連分野科目は、所属するコースの専門学習をするにあたって、隣接する学問分野の学科のうち、当該コース固有の教育理念・目標を達成する上で特に有用と考えられる学科である。これらの学科を履修することによって、専門知識の広範な応用力を身につけるとともに、専門的な視点からの考察力や判断力、理解力を深めることを目的としている。

2 関連分野科目は、原則として3年次以降に履修する。

3 関連分野科目の履修にあたっては、定められた単位数の範囲内で、指導に基づいて科目を履修する(履修可能な科目は、コースによって異なる)。

## 教職科目

## ● 教職関連部門

授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
アメリカ文学史	2 3 4	2	
イギリス文学史	2 3 4	2	
書道Ⅰ	2 3 4	2	
書道Ⅱ	2 3 4	2	
書道Ⅲ	2 3 4	2	
書道文化研究A	2 3 4	2	
書道文化研究B	2 3 4	2	
書道文化研究C	2 3 4	2	
書道文化研究D	2 3 4	2	
書道文化研究E	2 3 4	2	
日本文学基礎論	2 3 4	2	
日本漢文学	2 3 4	2	

■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。

また、履修制限単位の対象外とする。

■ 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。

■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

教職・資格・キャリアに関する科目

第Ⅲ類科目

仏教学部

人間学部

心理社会学部

文学部

表現学部

## 【学部共通】 (第Ⅲ類科目)

## ◆ 第Ⅲ類科目の履修方法

第Ⅲ類科目は全学共通の選択科目である。その位置付けは、第Ⅰ類科目が学問への入門的方法を身につけることを目的とした科目群、第Ⅱ類科目が所属学科の専門教育科目ということに対して、第Ⅲ類科目は教職・資格、社会・地域貢献、キャリア育成支援、自己研鑽に関する科目群である。履修にあたっては、定められた単位数の範囲内で、各自が自由に履修科目を設計できるシステムになっている。

◎第Ⅲ類科目は、原則として2年次以降に履修する科目である。

## 1. 教職・諸資格に関する科目

本学は、教職・諸資格の科目が充実していることも特色の一つである。将来の進路を考えながら、資格を取得することも検討してもらいたい。

本学では、資格の一部の科目は第Ⅲ類科目として位置づけ、卒業単位として認定するカリキュラムとなっている。

A群～H群まで分類されており、教職・社会教育主事・司書・学芸員などの資格科目の基礎的科目が配置されている。

もちろん、これらの科目的履修のみでそれぞれの資格が取得できるという意味ではなく、卒業単位として加算できる科目および単位数を示している。

## 資格の種類

資格を取得する場合は、各学科の卒業単位とは別に、諸資格を取得するために必要な単位を修得することにより、各種免許状、修了証、証明書、認定証が与えられる。

## 【資 格】

- 教職課程 【免許状】(一括申請申込者のみ)
  - ・一括申請の申し込みをしなかった場合は、卒業後各自個人申請を行うこと。
- 司書教諭 【修了証】
  - ・学位授与式当日に文部科学省が実施している「学校図書館司書教諭講習」に申込み、1年後に授与される。
- 社会教育主事 【認定証】
- 司書 【資格証明書】
- 学芸員 【資格証明書】
- 社会福祉主事 【認定証】
- 児童指導員 【認定証】
- 僧 階
  - ・僧階を申請する場合は、教務課で「僧階単位修得証明書」の発行を受け、各宗派の指定された方法により僧階を申請すること。

## 【養成講座】

- 日本語教員養成講座 【修了証】
- 社会教化者養成講座 【修了証、浄土宗の場合は任命書】

## 2. 社会・地域貢献に関する科目

地域との連帯を模索し、社会貢献に資する人材を育成する科目である。人と人、人と地域、人と社会のつながりや関係性に配慮しながら、地域社会に貢献する方法を学び、さらにサービスラーニングを通して具体的な地域の課題を発見し、それを地域の人々とともに共有し解決できる能力を養うことを目的としている。

なお、サービスラーニングの学びの場としては本学のある豊島区巣鴨地域が中心となる。

## 3. キャリア育成支援に関する科目

卒業後の進路や就職に直接関係する科目である。将来のキャリアを考えるにあたって、社会や産業界の現状を知り、社会は何を求めていたのか、そして自分自身がどのような職業を選ぶのか、そのためには何が必要なのか等を、自ら主体的に考えていくための講座である。

講義では、様々な分野で活躍する方々から話を聞いたり、ワークショップやインターンシップを体験することにより、キャリアアップを目指す。

## 4. 自己研鑽に関する科目

教室外において個人の研鑽を目的として、自主的に体験学習したことを単位として認定する科目である。授業によっては、計画書と報告書の提出が義務付けられるとともに、単位認定にあたって面接等が実施されることもある。

特に、仏教研修・仏教フィールドワーク(古都研修)は本学の建学の精神である仏教を体験する科目である。

仏教研修は本学の設立宗派の本山である、延暦寺・長谷寺・智積院・知恩院で、勤行・礼拝・瞑想などを実習したり、僧侶の講話を聞く。仏教フィールドワークは、奈良・京都などの寺院や文化財を探訪し、日本を代表する優れた仏教美術(仏像・仏画・寺院建築等)を実際に鑑賞し、現地の講師の講義を受けることで、仏教文化の理解を深める。

## 第Ⅲ類科目学則別表

	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
● 教職・資格に関する科目	現代教職論	2 3	2	
	教育基礎論	2 3	2	
	学習・発達論	2 3	2	
	教育制度論	2 3	2	
	教育課程論	2 3	2	
	道徳教育の指導法	2 3	2	
	特別活動の指導法	2 3	2	
	教育方法論	2 3	2	
	生徒・進路指導論	2 3	2	
	教育相談	2 3	2	
	教職実践演習	4	2	
	日本国憲法	2 3	2	
	体育	2 3	2	
	教育実習A	4	3	
	教育実習B	4	5	
A群 教職	社会科教育法 I	2 3	2	
	社会科教育法 II	2 3	2	
	社会・地歴科教育法 I	2 3	2	
	社会・地歴科教育法 II	2 3	2	
	社会・公民科教育法 I	2 3	2	
	社会・公民科教育法 II	2 3	2	
	宗教科教育法 I	2 3	2	
	宗教科教育法 II	2 3	2	
	宗教科教育法 III	2 3	2	
	宗教科教育法 IV	2 3	2	
	英語科教育法 I	2 3	2	
	英語科教育法 II	2 3	2	
	英語科教育法 III	2 3	2	
	英語科教育法 IV	2 3	2	
	国語科教育法 I	2 3	2	
	国語科教育法 II	2 3	2	
	国語科教育法 III	2 3	2	
	国語科教育法 IV	2 3	2	
	書道科教育法 I	2 3	2	
	書道科教育法 II	2 3	2	

次頁に続く

	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
● 教職・資格に関する科目	生涯学習概論	2	4	
	比較生涯学習概論 A	2 3 4	2	
	比較生涯学習概論 B	2 3 4	2	
	社会教育計画論	2 3	4	
	子育て支援学習	2 3 4	2	
	青少年と学習	2 3 4	2	
	成人と学習	2 3 4	2	
	教育と宗教	2 3 4	2	
	博物館情報・メディア論	2 3 4	2	
	図書館概論	2 3 4	2	
	図書館制度・経営論	2 3 4	2	
	博物館概論	2 3 4	2	
	教育文化事業論	2 3 4	2	
	生涯スポーツ論	2 3 4	2	
	教育制度論	2 3 4	2	
	現在の教育問題	2 3 4	2	
	ジェンダー論	2 3 4	2	
	職場の社会学	2 3 4	2	
	生涯学習施設実習	3 4	4	
	生涯学習概論	2 3	4	
	博物館概論	2 3	2	
	博物館資料論	2 3	2	
	博物館資料保存論	2 3	2	
	博物館展示論	2 3	2	
	博物館経営論	2 3	2	
	博物館情報・メディア論	2 3 4	2	
	博物館教育論	2 3 4	2	
	仏教と歴史	2 3 4	2	
	日本の歴史書	2 3 4	2	
	中国の歴史書	2 3 4	2	
	東洋文化史	2 3 4	2	
	仏教文化伝統研究	2 3 4	2	
	天台仏教と文化	2 3 4	2	
	浄土教と文化	2 3 4	2	
	密教と文化	2 3 4	2	
	伝統民俗を活かす教育	2 3 4	2	
	民俗学概論	2 3 4	2	
	歴史地理学	2 3 4	2	
	美術工芸史概説	2 3 4	4	
	考古学概説	2 3 4	4	
	博物館実習 I - A	3	1	
	博物館実習 I - B	3	1	
	博物館実習 I - C	3	2	
	博物館実習 II	4	2	

次頁に続く

## 授業科目の名称

## 履修年次 単位

## 備 考

## ● 教職・資格に関する科目

生涯学習概論	2 3 4	4
図書館概論	2 3 4	2
図書館情報技術論	2 3 4	2
図書館制度・経営論	2 3 4	2
図書館サービス概論	2 3 4	2
情報サービス論	2 3 4	2
情報サービス演習A	2 3 4	2
情報サービス演習B	2 3 4	2
図書館情報資源概論	2 3 4	2
情報資源組織論	2 3 4	2
情報資源組織演習A	2 3 4	2
情報資源組織演習B	2 3 4	2
児童サービス論	2 3 4	2
図書・図書館史	2 3 4	1
図書館サービス特論	2 3 4	1
図書館情報資源特論	2 3 4	1
図書館施設論	2 3 4	1
学校経営と学校図書館	2 3 4	2
学校図書館メディアの構成	2 3 4	2
学習指導と学校図書館	2 3 4	2
読書と豊かな人間性	2 3 4	2
情報メディアの活用	2 3 4	2

※教職・資格に関する科目(A群～H群)の履修については、学科・コースおよび、資格によって異なる。

D群  
〈司書〉E群  
〈司書教諭〉

## ● 教職・資格に関する科目

## 授業科目の名称

## 履修年次 単位

## 備 考

英語表現論	2 3 4	2
異文化の理解A	2 3 4	2
異文化の理解B	2 3 4	2
異文化の理解C	2 3 4	2
キャリア英語表現 I	2 3 4	2
基礎日本文学 I	2 3 4	2
基礎日本文学 II	2 3 4	2
基礎日本文学 III	2 3 4	2
基礎日本文学 IV	2 3 4	2
基礎日本語 I	2 3 4	2
基礎日本語 II	2 3 4	2
基礎日本語 III	2 3 4	2
基礎日本語 IV	2 3 4	2
日本語学研究 I	2 3 4	2
日本語学研究 II	2 3 4	2
日本語学研究 III	2 3 4	2
日本語学研究 IV	2 3 4	2
音声学研究 I	2 3 4	2
音声学研究 II	2 3 4	2
言語学研究 I	2 3 4	2
言語学研究 II	2 3 4	2
日本語学研究 E(語彙・意味)	2 3 4	4
日本語学研究 F(社会言語学)	2 3 4	2
日本語学研究 G(対照言語学)	2 3 4	2
日本語教育研究 A(教授法概論)	2 3 4	4
日本語教育研究 B(段階別教授法)	2 3 4	4
日本語教育研究 C(教材・教具)	2 3 4	4
心理学概説	2 3 4	2
学習・発達論	2 3 4	2
情報メディアの活用	2 3 4	2
日本語教育実習	2 3 4	1
社会福祉概説 I	2 3 4	2
社会福祉概説 II	2 3 4	2
社会福祉方法論 I	2 3 4	2
社会福祉方法論 II	2 3 4	2
基礎法学	2 3 4	2
心理学概説	2 3 4	2
社会学概論	2 3 4	2
社会福祉概説 I	2 3 4	2
社会福祉概説 II	2 3 4	2
社会福祉方法論 I	2 3 4	2
社会福祉方法論 II	2 3 4	2
児童福祉概論	2 3 4	2
基礎法学	2 3 4	2
教育原理	2 3 4	2
児童心理	2 3 4	2

F群  
〈日本語教員養成〉G群  
〈社会福祉主事〉H群  
〈児童指導員〉

次頁に続く

## 授業科目の名称

## 履修年次 単位

## 備 考

※ I 群はNCP（ネクスト・  
コミュニティプログラム）  
講座として開講

● 社会・地域貢献に  
関する科目I 群  
社会・  
地域貢献  
に関する  
科目

豊島学A	1	2	3	4	2
豊島学B	1	2	3	4	2
社会貢献論	1	2	3	4	2
地域貢献方法論A	1	2	3	4	2
地域貢献方法論B	1	2	3	4	2
地域貢献方法論C	1	2	3	4	2
地域貢献方法論D	1	2	3	4	2
サービスラーニング I -A	1	2	3	4	2~4
サービスラーニング I -B	1	2	3	4	2~4
サービスラーニング I -C	1	2	3	4	2~4
サービスラーニング I -D	1	2	3	4	2~4
サービスラーニング II -A	1	2	3	4	2~4
サービスラーニング II -B	1	2	3	4	2~4
サービスラーニング II -C	1	2	3	4	2~4
サービスラーニング II -D	1	2	3	4	2~4

● キャリア育成支援に  
関する科目J 群  
キャリア  
育成  
支援に  
関する  
科目

キャリア育成特別講座A	1	2	3	4	2
キャリア育成特別講座B	1	2	3	4	2
キャリア育成特別講座C	1	2	3	4	2
キャリア育成特別講座D	1	2	3	4	2
インターンシップ	1	2	3	4	1~8
ワークショップ	1	2	3	4	2~4
プロジェクト研究	1	2	3	4	2~8
フィールドワーク	1	2	3	4	1~8
ボランティア	1	2	3	4	2~8
仏教研修	1	2	3	4	2
仏教フィールドワーク(古都研修)	1	2	3	4	2
語学研修英会話	1	2	3	4	2
語学研修ドイツ語会話	1	2	3	4	2
語学研修中国語会話	1	2	3	4	2
アメリカ文化論	1	2	3	4	2
ドイツ文化論	1	2	3	4	2
中国文化論	1	2	3	4	2
韓国文化論	1	2	3	4	2

● 自己研鑽に  
関する科目K 群  
自己  
研鑽  
に  
関する  
科目資格の登録  
(要項は別冊)

## 登録時の注意事項

教職およびその他の資格登録は、原則として1年次秋学期の指定期間に行う。  
資格の科目は、各自の所属する学科の卒業単位と重複するものと、他学科の科目を  
履修するもの、さらに資格科目固有のものがある。  
資格取得を希望する者は、各学科の卒業に必要な科目（単位）と資格科目を照合し、  
4年までに必要な単位数を熟考し、履修計画を立てることが必要である。したがって、  
複数の資格登録により、卒業時までに履修できない場合があっても、大学ではその  
責任を一切負わない。

諸資格の登録  
および登録料

教職・諸資格に関する科目〔第Ⅲ類科目〕を履修するには、1年次秋学期以降に  
所定の登録料を添えて手続きを行うこと。

種	区 分	登録料	登録年次
教職課程	35,000円	1年次秋学期または2年次春学期	
社会教育主事	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期	
学芸員	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期	
司書	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期	
司書教諭	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期 教職課程と同時登録することが条件	
日本語教員	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期	
社会福祉主事	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期	
児童指導員	30,000円	1年次秋学期または2年次春学期	
社会教化者	20,000円	1年次秋学期または2年次春学期	
開教使(浄土)	10,000円	1年次秋学期または2年次春学期	
各宗僧階	登録料なし	1年次春	

- 登録の期間は、別途T-Poに掲載する。
- 僧階取得を希望する学生は宗派別ガイダンスに出席し、資格登録を必ず  
行うこと。

※その他、資格に関する詳細は、資格要項を確認してください。



## 履修登録について

- Q: 授業期間前に履修登録がありますが、授業を聞いてからの変更はできますか？
- Q: 登録科目名はあってるが、クラス表記が違うのですがどうすればいいですか？
- Q: 通年科目の登録は春学期と秋学期にわけて登録するのですか？
- Q: 春学期に登録した通年科目を、秋学期に削除することはできますか？
- Q: 集中講義の登録はどうすればいいですか？
- Q: 制限単位についてですが、通年科目の単位数は春学期に換算されるのですか？
- Q: セメスターごとに定められている単位数以上登録したいのですが、可能ですか？
- Q: 必修科目と資格科の時間が重なってしまいます。どちらを履修すればいいですか？
- Q: 資格登録をしていませんが、資格科を履修できますか？
- Q: 登録した授業を削除したいのですが、どうすればいいですか？
- Q: 履修登録ができていなくても、先生に頼めば単位をもらえますか？
- Q: 履修登録でエラーがでました。どうすればいいですか？
- Q: 科目を登録したのですが、授業内容が異なっていたため出席しないでそのままにしてしまいました。どうすればいいですか？
- Q: 資格特別プログラム(S P 履修)の科目はどのように登録するのですか？
- Q: 4年生ですが、もう卒業論文しかありません。何も登録しなくても大丈夫ですか？
- Q: 修正登録をしたのですが、授業で名前が呼ばれません。どうしたらいいですか？

- A: できます。ただし、履修登録科目を変更する場合は、指定された期間にT-Poで修正登録をしてください。
- A: 修正登録期間内に該当クラスへ修正してください。
- A: 春学期に登録をしてください。
- A: できません。通年科目を履修登録するときは、履修計画にしたがって登録してください。
- A: T-Poにて登録時期を確認し、T-Poから登録をしてください。
- A: 制限単位として換算する場合は、春学期と秋学期にわけてカウントしてください。
- A: できません。
- A: 卒業を優先する場合は必修科目を先に履修してください。
- A: 履修できません。ただし、その科目が1年生から履修可能科目、所属学科の科目の場合は履修できます。
- A: 指定された期間内にT-Poで削除登録をしてください。削除期間はガイダンス資料で確認してください。
- A: 履修登録を行っていなければ、単位の認定はできません。履修登録は、指定期間内に行ってください。
- A: T-Poでの履修登録は、エラーの状態では終了できません。必ずエラーの原因を削除し、再チェックのうえ完了してください。
- A: 修正登録期間内に修正してください。修正しなかった場合は、GPAに反映されてしまい、進級基準に影響することがあります。修正登録期間外では受け付けません。
- A: 春学期にT-Poにて履修登録を行ってください。通年科目ですので、春学期に登録が必要です。秋学期に削除はできません。
- A: 登録は必要ありませんが、各学科で定期的な論文指導がありますので確認してください。なお、卒業に必要な科目・単位数が修得できているかを必ず学則別表(ガイダンス資料)で確認してください。
- A: 科目の登録が出来ない可能性があります。T-Poにて自分の時間割を確認してください。



## 授業等について

- Q: セメスター制って何ですか？
- Q: 授業を休んでも大丈夫ですか？
- Q: 履修年次が「1年」とある科目は、2年以上でも履修できますか？
- Q: 履修年次が「1年」とある科目は、必ず1年のうちに履修しなければいけませんか？
- Q: CEC資格講座で開講されている科目的単位は認定してもらえるのですか？
- Q: 就職活動で授業を休んだ場合、公欠になりますか？
- Q: 電車が遅れて授業に出られなかった(または遅れた)のですが、どうしたらいいですか？
- Q: 台風や体調不良のため授業やテストが受けられないとき、どうしたらいいですか？
- Q: 試験の時間割はありますか？
- Q: 試験の週は、時間帯や教室は変更になりますか？
- Q: 電話で休講情報を教えてもらえますか？
- Q: レポートの課題提出先がわかりません。
- A: セメスター制とは1年間を春学期・秋学期の2学期にわけ、それぞれの学期で授業を展開し終了させる制度です。
- A: 単位認定を受けるには、毎回出席することが原則です。出席回数が総授業回数の3分の2に満たない場合は試験を受けられません。
- A: できます。ただし、第Ⅱ類科目についてはクラス分けをしている学科がありますので、学科の教務担当教員に相談をしてください。
- A: 1年次に履修することが望ましい科目ですが、その科目的単位を取得していないことにより進級できないことはありません。しかし、先修科目(順を追って履修しなければならない科目)に該当する場合は、該当科目が修得出来ていなければ、次の科目に進めません。
- A: CEC資格講座の中には、第Ⅲ類科目として認定されるものがあります。CEC資格講座はGPAにカウントされません。
- A: 公欠にはなりません。就職活動の場合は、CECで授業欠席証明書を発行しますので、その証明書を担当教員に提出してください。あくまでも欠席理由を証明するもので、その取扱いは担当教員の判断によります。
- A: 各交通機関(駅)から遅延証明書を発行してもらってください。遅延証明書を受け取り、該当科目的担当教員に提出してください。なお、試験時の遅刻についても同様です。
- A: 台風で授業やテストが実施されなかった場合  
代替日を設けます。案内はT-Poにて行いますので確認を忘れないよう注意してください。
- 病気で欠席した場合  
【授業】  
医師の診断を受けて診断書を発行してもらい、担当教員に提出してください。その取扱いは担当教員の判断によります。  
【試験】  
必ず医師の診断を受けて診断書を発行してもらってください。  
テスト終了後5日以内(最終日は3日以内)に診断書を持参して、教務課で追試験の手続きをとってください(口頭での申し出は客観的な判断ができませんので追試験を願い出ることはできません)。
- A: 授業最終週の2週間前に、試験実施科目の一覧をT-Poで配信します。
- A: 試験は通常の授業時間帯で実施されます。  
教室に関しても原則として変更はありません。
- A: 電話での問い合わせはお答えしていません。T-Poで確認してください。
- A: 教務課では、教員の住所を教えることはできません。事前に、授業の始めもしくは終りに課題提出先を担当教員に確認してください。



## 卒業について

- Q: 卒業に必要な単位数を教えてください。
- Q: 卒業論文を提出して、124単位以上修得していれば卒業できますか？
- Q: 卒業論文・卒業研究は124単位の内にカウントされますか？
- Q: 卒業論文・卒業研究を提出したら終わりですか？
- Q: 第Ⅰ類科目の余剰単位は、第Ⅲ類科目に認定できるって本当ですか？
- Q: 資格取得を目指して修得した単位は、資格をあきらめた後でも卒業単位として認定できますか？
- Q: 卒業見込証明書は、いつから発行してもらえますか？

- A: 各学科の入学年度の学則別表(ガイダンス資料)を確認のうえ、必修・選択科目を規定どおり124単位以上修得してください。
- A: 124単位以上修得済=卒業とは限りません。第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目、第Ⅲ類科目を規定どおり単位修得できているか、確認する必要があります。4年生の履修登録時には細心の注意が必要です。
- A: 卒業論文・卒業研究の8単位は、124単位に含まれます。
- A: 卒業論文を提出した後、口述試問が実施されます。口述試問の期間は各学科により異なりますので、それぞれの学科で確認してください。
- A: 第Ⅲ類科目として認定します。
- A: 第Ⅲ類科目として認定します。
- A: 4年生の4月中旬からです。

## 成績通知表について

- Q: 卒業論文の欄が「Z」になっているのですが、何ですか？
- Q: 評価に関して疑問があるのですが、どうすればいいですか？
- Q: 成績通知表を紛失してしまいました。再発行してもらえますか？
- Q: 成績通知表は、いつ送られてくるのですか？

- A: 卒業論文を登録し、論文を提出しなかったことに対する評価です。1年間の指導後は半年ごとに評価がされます。
- A: 評価「D」または、評価「Z」のみ教務課窓口で疑問を受け付けます。ただし、指定の期間以外は受け付けしません。指定の期間については、ガイダンス資料に掲載しています。
- A: 再発行はしていません。修得した単位は、T-Poで確認ができます。確認方法は、T-Poマニュアルを参照してください。
- A: 春学期の成績通知表は8月下旬、秋学期の成績通知表は3月中旬にガイダンス資料と一緒に発送します。

## 資格について

- Q: 資格登録はどこで行えばよいですか？
- Q: 教員免許をとりたいのですが、どうすればいいですか？
- Q: 資格の要項は、いつどこでもらえますか？
- Q: 資格の科目が足りずに卒業となってしまいます。卒業後、科目等履修生として足りない科目的単位を修得して資格を取得することができますか？
- Q: 資格登録期間中に登録を忘れてしまいました。どうしたらいいですか？
- Q: 資格の認定証や修了証はいつもらえますか？
- Q: 現在3年生なのですが、今からでも資格はとれますか？
- Q: 諸資格ガイダンスは、いつ行われますか？
- Q: 資格を複数とりたいのですが、とれますか？

- A: 資格登録期間中に1号館1階の証明書発行機で納金し、用紙を教務課に提出してください。
- A: 1年生は、秋学期実施の教職ガイダンスに出席してください。2年生以上は、春学期実施の教職ガイダンスに出席してください。
- A: 資格の要項は毎年度新たに作成しています。年度初めに教務課窓口で受け取ってください。
- A: 科目等履修生となり、資格に必要な単位が充足できれば、資格を取得することができます。
- A: 今学期は登録できません。次学期の登録期間に登録してください。
- A: 卒業時に認定証・修了証を授与します。
- A: 資格登録は行えます。ただし、諸資格科目的履修は、2年次から4年次までの3年間でカリキュラムが組まれていますので、資格取得に必要な単位を卒業までに修得できるとは限りません。
- A: 3月、4月のガイダンスは、3月に送付したガイダンス日程表で確認してください。その他にもガイダンスがありますのでT-Poに掲載される情報を確認してください。
- A: 資格登録は複数行えます。ただし、資格科目の授業時間帯が重なり資格取得ができないことがありますので注意してください。

## その他

- Q: 先生が大学にいつ来ているか教えてください。どこにいるか教えてください。
- Q: 授業で配られた大正大学書式の原稿用紙・レポート用紙は自由にもらうことができますか？
- Q: 転学部・転学科・転コースを希望していますが、どうしたらいいですか？
- A: 専任教員については、各学科で確認してください。非常勤教員は、基本的に授業がある曜日・時限のみ出校しています。教員の授業時間割は、T-Poにて確認することができます。
- A: 窓口等では配布していません。担当教員から受け取ってください。
- A: 欠員が生じている学科のみが実施します。転学部・転学科・転コース試験が実施されるかどうかは、11月(予定)にT-Poで確認してください。

大正大学履修規程  
／試験規程(抜粋)  
／学則(抜粋)

## 大正大学履修規程

## (目的)

第1条 この規程は、大正大学学則第2章第4節の規程に基づき、履修について必要な事項を定めるものとする。

## (適用)

第2条 本履修規程は、年度により部分的に異なることがあるが、原則として入学年度の規程を適用する。ただし、編入生の場合は、この規程を適用しないことがある。

## (授業科目と履修方法)

第3条 授業科目は、第Ⅰ類、第Ⅱ類及び第Ⅲ類から構成される。

第4条 前条に規定する第Ⅰ類・第Ⅲ類科目は、必修科目、選択科目、自由科目に分類され、これを各年次に配当して編成するものとする。

第5条 第Ⅰ類科目は「学びの窓口」「学びの技法」の2つの科目群で構成され、それぞれの履修については、学則別表に示す授業科目の履修方法によるものとする。ただし、卒業単位として認定できる単位数は、26単位とする。27単位以上履修した場合については、第Ⅲ類科目の単位数として認定する。

2 第Ⅱ類科目の履修については、各学科の学則別表に示す授業科目の履修方法によるものとする。

3 第Ⅲ類科目は共通選択科目とし、学則別表による各群から、各学科により定められた単位を卒業までに履修するものとする。

ただし、教職・資格等に関する科目のうち、教科に関する科目は各学科及び取得しようとする資格によって履修が指定される。

4 第Ⅲ類科目のうち、卒業単位として認定できる単位数は、30単位を上限とする。

5 本学が必要と認める場合は、他の教育・研究機関の協力を得て授業を実施することができる。

第6条 教育上有益と認めるときは、本学が実施する課外学習講座、協定・教育提携により履修した授業科目、協定・認定留学中に履修した授業科目、大学以外の教育施設における学修、入学準備学習などで修得した単位を、合計60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第7条 卒業要件は各学科の定めるところにより、計124単位修得するものとする。

第8条 教育職員免許状を取得しようとする者は、別に定める教職に関する科目の単位を修得しなければならない。

2 社会教育主事となる資格を取得しようとする者は、別に定める社会教育に関する科目の単位を修得しなければならない。

3 学芸員となる資格を取得しようとする者は、別に定める博物館に関する科目の単位を修得しなければならない。

4 司書となる資格を取得しようとする者は、別に定める司書に関する科目の単位を修得しなければならない。

5 学校図書館司書教諭の資格を取得しようとする者は、別に定める学校図書館司書教諭に関する科目の単位を修得しなければならない。

6 社会福祉士の国家試験受験資格を取得しようとする者は、別に定める社会福祉士に関する科目の単位を修得しなければならない。

7 精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得しようとする者は、別に定める精神保健福祉士に関する科目の単位を修得しなければならない。

8 日本語教員養成講座を履修しようとする者は、別に定める日本語教員資格に関する科目の単位を修得しなければならない。

9 社会教化者養成講座を履修しようとする者は、別に定める社会教化者資格に関する科目の単位を修得しなければならない。

10 社会福祉主事となる資格を取得しようとする者は、別に定める社会福祉主事に関する科目の単位を修得しなければならない。

11 児童指導員となる資格を取得しようとする者は、別に定める児童指導員に関する科目の単位を修得しなければならない。

## (授業科目的開講、受講生の抽選・選抜)

第9条 授業科目のうち、履修登録者数が5名に満たない科目については、原則として開講しない。

2 一部の授業科目については、選抜試験又は抽選等で受講生を選定することがある。

3 前項の科目及び定員については教務課で指示する。

## (履修登録・確認)

第10条 学生は、履修しようとする授業科目について、学期始めの所定の期間に登録及び確認をするものとする。

2 履修登録はすべて自己の責任において行うものとする。理由なく他人の登録を代行することはできない。

3 履修登録手続きに不備や誤りがあった場合は、当該授業科目的登録は無効となり、たとえ受講しても単位は認定しない。

4 指定の期間内に履修登録をしていない科目については、履修並びに試験を受験することができない。

5 正当と認められる理由に基づき、指定期間内に履修登録ができない場合は、あらかじめその理由を付して教務課に届け出なければならない。

6 同じセメスターにおいて同一科目を重複して履修登録できない。

7 単位修得済みの科目は、再度履修登録できない。

8 同一時限に複数の授業科目を登録することはできない。

9 春学期に通年科目を登録した場合、これと同一時限に開講される秋学期の別の科目は履修できない。

10 授業科目に配当されている履修年次及び年次別に定められている登録単位の制限の規定に反して履修登録を行った場合は、全ての授業科目的履修登録を無効とする。

11 登録に際しては、先修科目的原則は厳守しなければならない。

## (履修許可の取り消し)

第11条 履修を許可された後においても、本規程に違反して申請したことが判明した場合には履修の許可を取り消すことがある。

## (履修登録の変更)

第12条 履修登録後に科目を変更、追加する場合は、正当な理由がある場合に限り、別に指定する期間内に所定の手続きを行うことにより、変更を許可することができる。

2 履修登録後に科目を取り消したい場合は、当該学期開始3週間以内に所定の手続きを行わなければならない。

3 履修に関する異議申し立てをする際には、履修確認表を提示しなければならない。

## (再履修)

第13条 必修科目的単位の認定を受けることができなかったときは、当該科目的単位認定を得るまで再履修をしなければならない。

2 選択科目的単位の認定を受けることができなかったときは、当該科目を再履修するか、もしくは当該科目群の他の科目を履修しなければならない。

## (試験)

第14条 授業科目的履修した者に対して、試験を行う。

第15条 試験は、単位試験と卒業論文・卒業研究試験の2種とする。

2 試験に合格した者には、所定の単位を与える。

## 大正大学履修規程

## (試験時間)

第16条 試験時間は、原則として60分とする。

## (受験資格)

第17条 次の各号のいずれかに該当する学生は、受験資格がないものとする。

- (1) 当該学期の履修登録をしていない者
- (2) 授業出席回数が3分の2に満たない者
- (3) 学費を指定期間内に納入していない者
- (4) 休学及び停学中の者
- (5) 学生証を携帯していない者

## (不正行為)

第18条 試験場における次の行為については、学則第61条及び62条により処分を行う。

- (1) 試験場において監督者の指示に従わない場合。
- (2) 当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たと認められる場合。
- (3) 他人の学生証又は本学の学生証以外で受験した場合。
- (4) 当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験した場合。

2 前項(1)～(4)による不正行為を認めた場合は、直ちに当該試験の受験を中止させ、解答用紙を回収した上、退場を命ずる。

3 第1項(3)及び(4)による不正の場合は、当該受験者に不正の教唆又は学生証の貸与を行った者も処分の対象とする。

## (単位の認定)

第19条 単位認定の基準は、次のとおりとする。

1 単位は標準45時間の学修をする教育内容をもって構成するものとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 1つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間数をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

## (単位認定の時期)

第20条 単位認定の時期は、次のとおりとする。

- (1) 春学期開講科目は、9月15日とする。
- (2) 春学期以外の開講科目（通年・秋学期・夏期・冬期休業期間）は、3月15日とする。

## (登録単位の制限)

第21条 各学期に登録できる単位数は、以下のとおりとする。

学年	1年次		2年次		3年次		4年次	
セメスター	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
制限単位 (第Ⅰ類・第Ⅱ類)	24	24	24	24	24	24	24	24

- (1) 第Ⅲ類科目は、制限単位に含めない。
- (2) 夏期休業期間中の開講科目は、秋学期の制限単位に含める。
- (3) 卒業論文・卒業研究は制限単位に含めない。
- (4) 通年開講科目の単位は、春学期・秋学期に等分して、各学期の制限単位に含める。
- (5) 集中講義科目は、開講学期に含める。

## (成績の評価)

第22条 授業科目の試験の成績は、次の基準によるものとする。

評価	判定
(1) A A	合格
(2) A +	合格
(3) A	合格
(4) A -	合格
(5) B +	合格
(6) B	合格
(7) B -	合格
(8) C +	合格
(9) C	合格
(10) D	不合格
(11) Z	不合格
(12) T	合格

2 成績通知表には、前項の評語を用いる。

3 本学に入学する前に修得した単位を、本学の卒業単位として認定した場合、その科目には「T」の記号がつく。

## (総合成績評価)

第23条 前条の成績の評価に以下のポイントを設定し、不合格科目を含めて、履修科目のアベレージ(GPA値)を算出し、学期毎に総合成績評価を行う。ただし、T評価の科目については、GPA値の対象外とする。

評価	ポイント	判定	基準
(1) A A	4.0点	合格(最優秀)・A A	極めて優秀な成績
(2) A +	3.5点	合格(優秀)・A	優秀な成績
(3) A	3.0点	合格(良)・B	受講生の中で平均的な成績
(4) A -	2.7点	合格(可)・C	平均より劣るが、合格に値する成績
(5) B +	2.4点	不合格(不可)・D	合格に達しない
(6) B	2.0点	不合格(否)・Z	評定不能
(7) B -	1.7点		
(8) C +	1.4点		
(9) C	1.0点		
(10) D	0.0点		
(11) Z	0.0点		
(12) T	—		本学の授業科目における合格判定(上記(1)から(9)を除く)及び他大学による単位認定・T

2 成績証明書には、前項の判定欄の評語を用いる。

3 第1項の基準により算出したアベレージ(GPA値)を以下のように総合評価する。

## GPA値 総合成績評価

(1) 3.5～4.0	最優秀
(2) 3.2～3.4	優
(3) 1.6～3.1	良
(4) 1.0～1.5	可

## 大正大学履修規程

## (進級・卒業論文登録資格)

第24条 進級及び卒業論文・卒業研究登録資格については、次のとおりとする。

## (1) 第1学年から第2学年への進級基準

- ① 第1学年に1年(2学期)以上在学し、総修得単位数が20単位以上であること。ただし、同一科目、同内容の科目は除く。
- ② 総修得単位数が20単位未満の者は留年とする。ただし、第1学年の在学期間は、2か年(4学期)を限度とする。

## (2) 第2学年から第3学年への進級基準

- ① 第2学年に1年(2学期)以上在学し、総修得単位数が62単位以上であること。ただし、同一科目、同内容の科目は除く。
- ② 第2学年終了時に、総修得単位数が62単位未満の者は留年とする。ただし、第2学年の在学期間は、2か年(4学期)を限度とする。

## (3) 第3学年から第4学年への進級基準

- ① 第3学年の1年間(2学期)以上在学し、総修得単位数が90単位以上であること。
- ② 第3学年終了時に、総修得単位数が90単位未満の者は留年とする。ただし、第3学年の在学期間は、2か年(4学期)を限度とする。

第25条 本学に4年(8セメスター)以上在学し、所定の授業科目の124単位以上修得した者には学士の学位を授与する。

## (転学部・転学科・転コース)

第26条 他の学部、学科又はコースへの移籍については、1・2年に限り選考のうえ許可することがある。ただし、欠員のある場合に限る。

2 当該学生は、学長に願い出て許可を得なければならない。

3 受験資格は、次のとおりとする。

- (1) 他の学部、学科への移籍を希望する場合は、進級基準を既に満たしている者あるいは満たす見込みの者で、受験の前学期までのGPA値が3.2以上であること。
- (2) 同一学科内の他コースへの移籍を希望する場合は、進級基準を既に満たしている者あるいは満たす見込みの者であること。

## (退学)

第27条 学則第50条(2)により退学させる者とは、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 第1学年、第2学年、第3学年の各学年において、2か年(4学期)在学してもなお、次学年に進級できない者
- (2) 在学した直近3学期連続して、各学期の履修科目のGPA値1.0未満の者。ただし、第4学年に在籍している者は除く。

## (改廃)

第28条 この規定の改廃は、代議員会の議を経て、学長が行う。

## 附則

1.この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2.平成25年以前の入学生の進級、卒業論文登録資格は、第24条(1)~(3)の規定にかかわらず、従前の例による。

## 大正大学試験規程(抜粋)

## (目的)

第1条 この規程は、大正大学学則第43条による単位試験の取扱いについて定める。

## (試験の種類)

第2条 試験の種類は、定期試験、臨時試験、追試験、及び再試験とする。

## (試験の方法)

第3条 試験の方法は、筆記試験、レポート試験、実技試験、口述試験及び当該科目の担当教員が指示する方法等によって行うものとする。

## (受験資格)

第4条 次の各号の一に該当する学生は、受験資格がないものとする。

- (1) 当該学期の履修登録をしていない者
- (2) 学費を指定期間内に納入していない者
- (3) 休学及び停学中の者
- (4) 学生証を携帯しない者

## (学生証の携帯)

第5条 学生は、受験に際して学生証を机上に提示しなければならない。

2 前項の学生証は、学生課が発行する仮学生証をもってこれに代えることができる。仮学生証は、試験開始前に学生課に願い出て交付を受けなければならない。

## 第6条 (略)

## (遅刻・退場)

第7条 試験開始後20分経過後は、試験場への入場を認めない。

2 試験開始後30分以内は、退場を認めない。

## (不正行為)

第8条 試験場において次の行為があった場合は、学則第61条及び62条により処分を行う。

- (1) 試験場において監督者の指示に従わないとき
- (2) 当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たと認められるとき
- (3) 他人の学生証又は本学の学生証以外で受験したとき
- (4) 当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験したとき

2 前項第1号から第4号による不正行為を認めたときは、直ちに当該試験の受験を中止させ、解答用紙を回収したうえ、退場を命ずる。

3 第1項第3号及び第4号による不正の場合は、当該受験者に不正の教唆または、学生証の貸与を行った者も処分の対象とする。

## 大正大学学則(抜粋)

第22条 学生の在学年限は、8年(16学期)を超えることができない。

2 編入学生の在学年限は、4年(8学期)を超えることができない。

第51条 学生が次の各号の一に該当するときは、これを除籍する。

- (1) 定める期間内に学費を納入しない者
- (2) 学則第22条に定める期間に卒業できない者
- (3) 学則第46条第2号に定める休学期間を超えてなお復学できない者

第61条 本学に在学する者で本学の学則及び規則に違反し、又は学生の本分にもとり、本学の名誉を毀損する行為ある者及び成業の見込みのない者は、代議員会の議を経て学長がこれを懲戒する。

第62条 懲戒は譴責、謹慎、停学及び退学とする。

## あとがきに代えて

本学は大正15年に設立され、数々の分野で実績を残してきました。新しい世紀を迎えたが、本学設立の精神は、時代が移り変わってどんな社会状況となっても永久に不動のものと確信しています。ここに初代学長の建学のことばの抜粋を揚げ、その意図するところを学生のみなさんとともに探究していきたいと思います。

### 建学のことばより

新たに生れ出た大正大学には宗教的敬虔の心持に、大乗佛教的精神を力強く發揮させねばならぬと考えます。教授・講師は申すまでもなく、学生も知識否、智慧の熱愛者であり、謙遜真摯の態度を以て真理を求めて已まざるものであってほしい。道徳と道理の前には極めて従順であると共に、悪と非理に対しては一歩も屈せざる勇気が溢れることを望みます。必ずしも神秘とは言わない不思議とは申しませんが、何となく聖く儼かな靈的な雰囲気が学内に漂って居って、来って此学園に学ぶ者を薰化し感化するものがあればと存じます。近世世界の文明國を通して自我の覺醒を見んとするは貴ぶべきことであります、自己個人の小なる権利、それは仏祖が極力呵責し給いし、我欲我執を滔々として主張する風ある間に立ちて、あくまで利他を念として忘れないようにありたいと存じます。

率直に自己の過失罪悪を懺悔すると共に、本来具する仏性を開顯して、人格の完成に猛然と精進することを望んでおります。少なくとも善を贊美する優しい心と悪に近づかない猛き気を持ちたいと存じます。かかる願望を一步一步満足し行く所に本大学存在の意義が明らかにされるものと信じます。

大正15年11月5日 創立記念式典にて

初代学長 澤柳 政太郎

### 2016年度入学者用履修要項

平成28年4月1日発行  
編集：大正大学 教務課  
制作協力：(有)立花印刷